

神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報

第 26 号 (2020 年度)

KPMNH Yearbook

No. 26

2020. 4 – 2021. 3

Web 版



神奈川県立 生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Odawara, Kanagawa, JAPAN

Feb. 2022

ごあいさつ

～コロナ禍のなかで～

日頃より当館の活動と運営について、ご理解とご支援、ご協力をいただき、あらためてお礼申し上げます。

さて、本誌「神奈川県立生命の星・地球博物館年報」は、当館の1年間の活動記録です。2020年度も当館の使命に基づき、「集める」・「調べる」・「伝える」の博物館活動と管理・運営を進め、その記録を本誌第26号としてまとめましたので、ご活用いただければ幸いです。以下にその概要をお伝えします。

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、当館の活動と運営も少なからず影響を受けました。

博物館活動の「集める」(資料収集)では、博物館収蔵資料登録システム(ミュージテーク)への標本登録点数が約90万点に達し、収蔵資料データベースの公開や、コレクションポリシーの明文化が実現しました。また「調べる」(調査研究)では、各学芸員が日頃の研究成果を国内外の学術論文や学会発表で公開し、日本学術振興会科学研究費をはじめとする外部研究補助金を継続的に獲得し、「神奈川県立博物館研究報告(自然科学)第48号」や「神奈川自然誌資料第42号」及び「神奈川県立博物館調査研究報告(自然科学)第16号」を出版することができました。一方、「伝える」(展示普及)は、世界中に蔓延した新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けました。国の緊急事態宣言に伴い、2020年3月から6月までと、2021年1月から3月までの2度の臨時休館により、2020年度の開館日数は168日(前年比約64%)となり、入場者数は約13万2千人(前年比約45%)に留まりました。臨時休館に伴い、各種行事は中止、特別展や企画展の開催も変更を余儀なくされました。再開館後についても、新型コロナウイルス感染症拡大防止を図るため、一部施設の利用中止や入場者数抑制措置、消毒、そして利用者へのお願いなど、様々な入館者対策を施しました。一方で「Webで楽しむ地球博」などウェブサイトのコンテンツの充実を図り、各種の話題と情報の提供を行い、トップページのアクセス数は約48万件となりました。コロナ禍に振り回された1年ではありましたが、職員それぞれが各自の職務を確実に遂行した結果であると思っています。

今後ご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。

2022年2月

神奈川県立生命の星・地球博物館

館長 平田 大二

神奈川県立生命の星・地球博物館の使命

神奈川県立生命の星・地球博物館は、地球と生命・自然と人間がともに生きることをテーマに活動する自然史博物館として、地球全体の過去から現在にわたって幅広く、また、神奈川を中心に、自然科学に関する資料を収集・収蔵管理し、次の世代に引き継ぐ。あわせて、これらの資料を基にした調査・研究結果を原動力として、生涯学習や学校教育の支援ならびに社会的貢献を行うことにより、人々の心に地球の自然に対する愛着と感動を呼び起こすことを使命とする。



シンボルマークは、生命の根源（DNA）を表すスパイラル（らせん）をイメージしています。スパイラルとは「時の流れ」を現すものであり、脈々として地

球の営み、生命の進化の足跡をたどるものです。また同時に、私たちの銀河系、地球とそこに生きるものすべてが属している宇宙のかたちをシンボル化しているものです。

神奈川県立 生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

ロゴタイプは、視覚的、感覚的に訴える力が強く、他との区別をはかるために設定しました。シンボルマークとの調和を保ち、ニュートラルで読みやすいものをめざしました。

目次

ごあいさつ

神奈川県立生命の星・地球博物館の使命
シンボルマーク・ロゴタイプ

I 沿革.....	4	6. 刊行物.....	71
1. 沿革.....	4	6.1. 定期刊行物.....	71
2. 2020 年度の主な出来事	5	6.2. 不定期刊行物	74
II 機能.....	6	6.3. 刊行物販売状況	74
1. 運営管理機能	6	7. 情報システム	75
1.1. 事業体系	6	7.1. システムの概要	75
1.2. 組織.....	7	7.2. サブシステムの紹介.....	76
1.3. 職員名簿	8	7.3. インターネットの利用.....	77
1.4. 利用者	9	7.4. 情報提供	78
1.5. 歳入歳出決算	10	8. 連携機能.....	79
1.6. 事業評価	10	8.1. 友の会	79
2. 情報発信機能	11	8.2. サロン・ド・小田原.....	81
2.1. 常設展示	11	8.3. 神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会	81
2.2. 特別展示	14	8.4. 館内施設等の状況.....	83
2.3. その他の展示	16	III 資料.....	84
2.4. SEISA ミュージアムシアター	16	1. 条例・規則	84
2.5. ミューズ・フェスタ 2021	18	1.1. 神奈川県立の博物館条例.....	84
2.6. 臨時休館時のウェブ情報発信	18	1.2. 神奈川県立の博物館組織規則	85
3. シンクタンク機能.....	21	1.3. 神奈川県立の博物館の利用に関する規則	86
3.1. 調査研究事業	21	2. 館年表	87
3.2. 研究助成金による研究	22	2.1. 再編整備決定から開館まで	87
3.3. 著作活動・学会発表等	23	2.2. 開館から 2020 年度末まで	88
3.4. レファレンス対応人数	35	3. 統計資料.....	90
3.5. 各種委員・役員・非常勤講師	36	3.1. 利用者状況	90
3.6. 講師依頼等	40	3.2. 年度別利用者数の推移	91
3.7. 学術交流	42	3.3. 特別展・企画展開催実績	92
3.8. 他施設・団体への協力	42	3.4. 資料登録実績	94
3.9. 外部研究者の受け入れ	42	3.5. ウェブサイトアクセス実績	96
3.10. 名誉館員	43	3.6. 魚類写真資料データベースのアクセス実績	96
4. データバンク機能.....	44	3.7. FishPix のアクセス実績	97
4.1. 資料概況	44	3.8. WESKAMS ミュージアム・リレー開催記録.....	97
4.2. 図書資料収集状況.....	53	3.9. 来館者アンケート	102
4.3. 資料利用状況	54	4. 調査研究関連資料.....	103
4.4. 資料燻蒸	56	4.1. 研究成果	103
5. 学習支援機能	56	5. 施設概要	115
5.1. 生涯学習への対応.....	56	5.1. 土地・建物	115
5.2. 学校教育への対応.....	61	5.2. 設備.....	116
5.3. 博物館実習	62	5.3. 面積表	118
5.4. ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動.....	64	5.4. 平面図.....	119
5.5. 学習指導員による学習支援活動	64		
5.6. 博物館のボランティア活動	66		
5.7. 広報.....	69		

I 沿革

1. 沿革

1986 年	12 月	第二次新神奈川計画において、博物館の再編整備が決定
1988 年	7 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）を小田原市入生田に建設することが決定
	12 月	神奈川県立博物館整備構想懇談会（座長：渡邊 格（慶應義塾大学名教授））から提言
1989 年	3 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）整備計画策定
	4 月	教育庁社会教育部社会教育課に博物館建設準備班を設置
1990 年	3 月	自然系博物館の建設事業が、小田原市との協調事業となる
	10 月	建築基本設計着手
1991 年	3 月	自然系博物館（仮称）建設用地（小田原市入生田）取得
	4 月	組織改正により教育庁社会教育部社会教育課が、生涯学習部生涯学習課となる
	10 月	第一期造成工事着手
1992 年	4 月	組織改正により生涯学習部博物館開設準備室となり、企画調整班、自然系整備班、人文系整備班、展示・資料整備班の 4 班体制となる
	10 月	自然系博物館（仮称）建築工事着工 自然系博物館（仮称）展示工事着工
1994 年	12 月	自然系博物館（仮称）建築工事竣工
1995 年	1 月 1 日	神奈川県立生命の星・地球博物館が機関設置され、濱田隆士館長就任。管理部に管理課、経理課、企画情報部に企画普及課、情報資料課及び学芸部の 3 部 4 課を置く
	3 月	博物館法第 11 条の規定に基づく登録博物館となる 生命の星・地球博物館展示工事竣工
	3 月 8 日	平成 6 年度第 1 回神奈川県博物館協議会（神奈川県立歴史博物館）
	3 月 20 日	開館記念式典実施
	3 月 21 日	一般公開開始
	5 月 7 日	入館者 10 万人到達（41 日目）
	9 月 24 日	入館者 30 万人到達（158 日目）
1996 年	4 月	シンボルマーク製作
	4 月 17 日	入館者 50 万人到達（321 日目）
1997 年	7 月 23 日	入館者 100 万人到達（705 日目）
1998 年	3 月 30 日	天皇皇后両陛下下行幸啓
	11 月 3 日	入館者 150 万人到達（1,090 日目）
2000 年	3 月 31 日	濱田隆士館長退任
	4 月 1 日	青木淳一館長就任
	8 月 6 日	入館者 200 万人到達（1,613 日目）
2001 年	3 月 27 日	神奈川県博物館協議会を廃止
2002 年	7 月 19 日	入館者 250 万人到達（2,206 日目）
2004 年	5 月 25 日	入館者 300 万人到達（2,770 日目）
2006 年	3 月 31 日	青木淳一館長退任
	4 月 1 日	管理課と経理課が統合され、管理課、企画情報部の企画普及課、情報資料課及び学芸部の 2 部 3 課となる 斎藤靖二館長就任
	7 月 8 日	入館 350 万人到達 3,409 日目

2008 年	8 月 12 日	入館者 400 万人到達 (4,062 日目)
2010 年	10 月 21 日	入館者 450 万人到達 (4,863 日目)
2012 年	8 月 3 日	入館者 500 万人到達 (5,183 日目)
2013 年	10 月 8 日	天皇陛下行幸
2014 年	1 月 13 日	入館者 550 万人到達 (5,716 日目)
	3 月 31 日	斎藤靖二館長退任
	4 月 1 日	平田大二館長就任 斎藤靖二名誉館長就任
2015 年	8 月 29 日	入館者 600 万人到達 (6,190 日目)
2017 年	5 月 3 日	入館者 650 万人到達 (6,667 日目)
2018 年	10 月 26 日	入館者 700 万人到達 (7,104 日目)
2020 年	3 月 4 日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館
2020 年	7 月 1 日	再開館
2020 年	11 月 5 日	入館者 750 万人到達 (7,594 日目)
2021 年	1 月 12 日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館
2021 年	3 月 22 日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館を継続 (ただし事前に予約をされた方に限り入館可能)

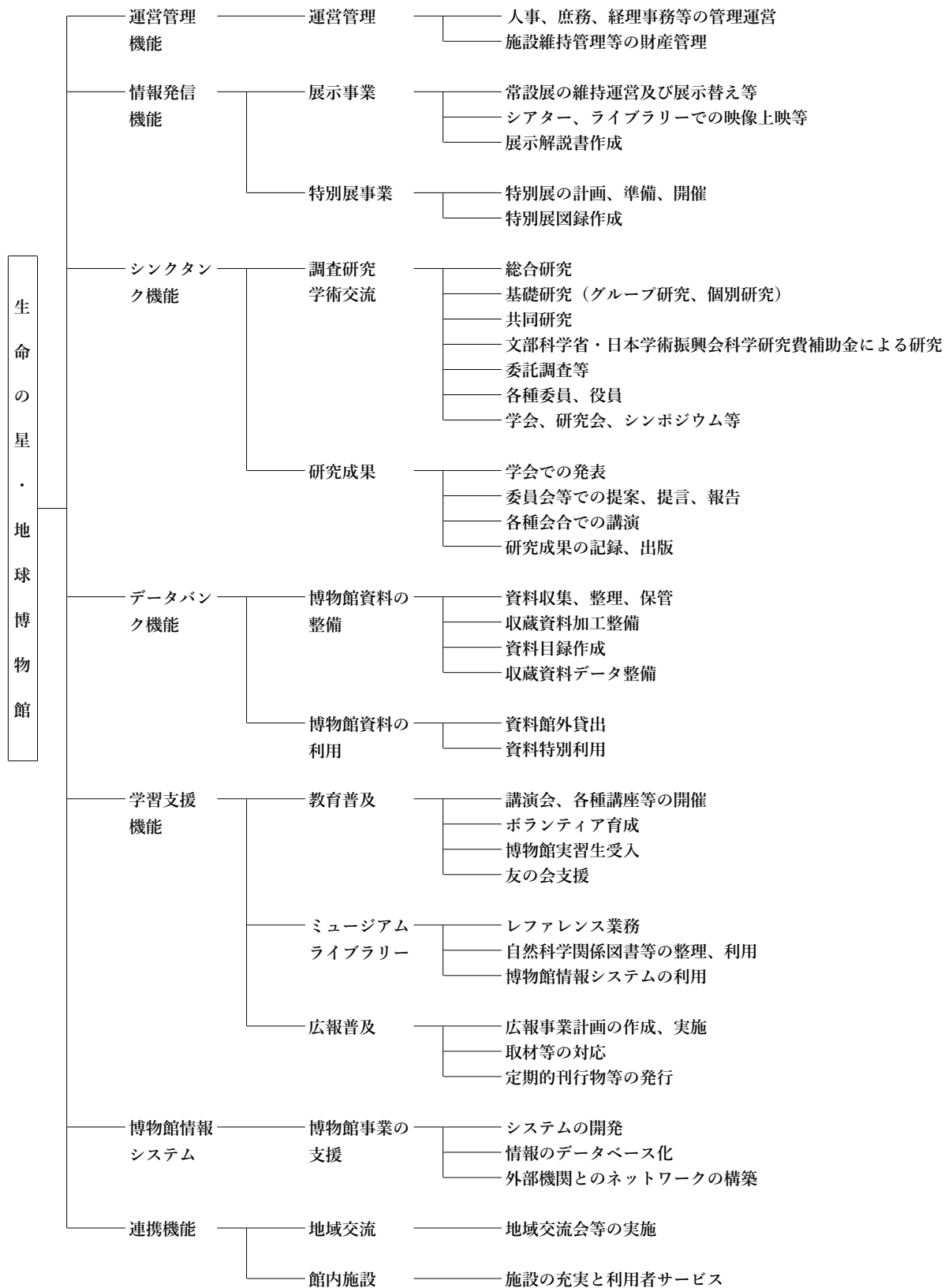
2. 2020 年度の主な出来事

2020 年 2 月 29 日～11 月 8 日	企画展「 Gondwana ～岩石が語る大陸の衝突と分裂～」開催
2020 年 3 月 4 日～6 月 30 日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館
2020 年 4 月 1 日	定期人事異動
2020 年 6 月 15 日～6 月 19 日	館内燻蒸
2020 年 7 月 1 日	再開館 (団体をのぞく)
2020 年 7 月 18 日～8 月 31 日	夏休み期間中無休開館期間
2020 年 9 月 1 日	教育系の団体に限り団体見学の再開・催し物の再開
2021 年 1 月 12 日～3 月 21 日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館
2021 年 3 月 22 日～	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館を継続 (ただし事前に予約をされた方に限り入館可能)

II 機能

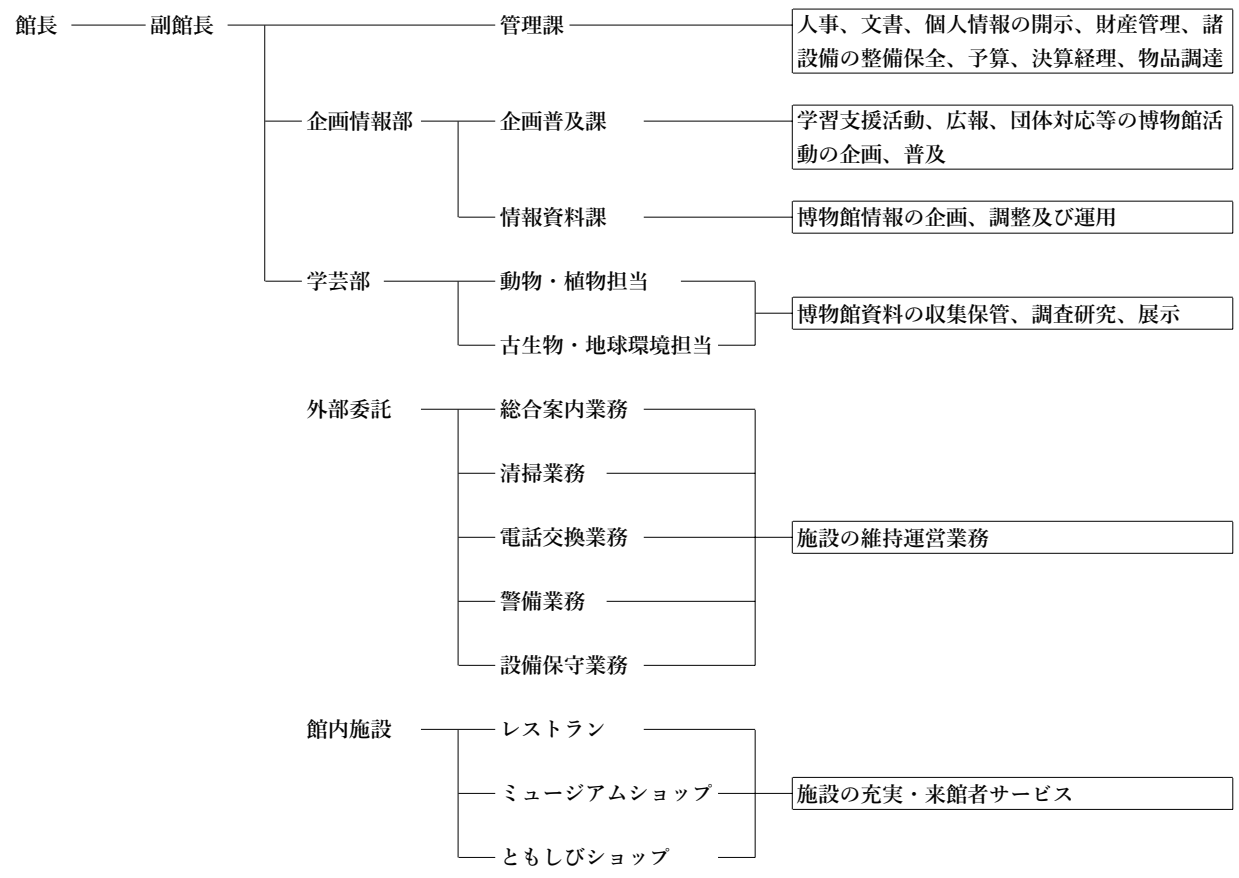
1. 運営管理機能

1.1. 事業体系



1.2. 組織

1.2.1. 組織および分掌



1.2.2. 職員構成

令和3年5月1日現在												
区分		常勤		再任用			非常勤					合計
		事務職	学芸員	事務職	学芸員	指導員	事務職	技術職	学芸員	司書	指導員	
名誉館長								1			1	
館長								1			1	
副館長		1									1	
管理課		課長	1								1	
			5	2			2	1			10	
		小計	6	2			2	1			11	
企画情報部	部長		1								1	
	企画普及課	課長		1							1	
			1	3	1		1	2			4	12
	情報資料課	課長		1								1
			1	1				2		1	3	8
小計		3	6	1		1	4		1	3	4	23
学芸部	部長			1								1
	動物・植物担当			4	2							6
	古生物・地球環境担当			6								6
	小計			11	2							13
合計		10	17	3	2	1	6	1	3	3	4	50

1.3. 職員名簿

掲載省略

1.4. 利用者

2020 年度の博物館利用者数について、利用内容ごとに延べ人数を集計した。学芸員によるレファレンス対応人数の詳細は 35 ページ、それ以外の利用者状況詳細は 90 ～ 91 ページ、開館以来の入館者数統計は 91 ページを参照のこと。

博物館利用者 136,451 人

2020 年度の博物館総利用者数。「入館者」＋「講座・観察会・講演会・研修等参加者」＋「学芸員への質問・相談者」の合計。

入館者 131,986 人（785 人／開館日）

エントランスに設置したカウンターにより集計。

常設展入場者 109,592 人（652 人／開館日）

券売機による発券数に基づき集計。招待券については無料券と引き替えて算入。

ライブラリー利用者 50,140 人

ライブラリー出入口に設置したカウンターにより集計。書籍閲覧、学習指導員による学習支援、レファレンスなど。

講座・観察会・講演会・研修等参加者 1,041 人

講座・観察会、講演会、研修（館内で実施のもの）、サロン・ド・小田原、よろずスタジオ・共催よろずスタジオ、学芸ボランティア・ライブラリーボランティア・展示解説ボランティア、大学生の博物館実務実習の参加者数。

特別展・企画展等入場者 53,707 人

「特別展」と「企画展」を主とした特別展示室入場者数。特別展示室の出入口に設置したカウンターにより集計。

学芸員への質問・相談者 3,424 人

学芸員によるレファレンス対応人数。来館、電話、ファックス、手紙、電子メール、出前などを通じた延べ対応人数で、マスコミ取材、企業や自治体からの質問、相談等を含む。

1.5. 歳入歳出決算

[令和２年度歳入]

科 目	金額（千円）	内 訳		
教育財産使用料	1,094	レストランほか建物使用料		
博物館使用料	29,073	観覧料収入	常設展	29,073
			特別展	0
立替収入	731	レストランほか電気・ガス・水道料		
図録等売払収入	594	展示解説書等販売収入		
雑入	12	ライブラリー複写代		
合計	31,504			

[令和２年度歳出（社会教育費のみ）]

科 目	金額（千円）	内 訳		
維持運営費	156,033	館の維持管理及び事業運営		
博物館事業費	12,224	総合案内業務・特別展の開催・総合研究・基礎研究・調査研究報告書の作成・博物館資料収集・収蔵展示資料修繕および加工・各種講座・講演会等の開催・図書等資料整備・広報資料作成		
情報システム整備費	2,182	データ入力等		
合計	170,439			

1.6. 事業評価

「博物館法」、「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」及び「かながわ教育ビジョン」に基づき、よりよい社会教育施設づくりを目指して、当館の事業概要を作成し公開するとともに、事業評価を行った。

概要の公開

令和２年７月１日版「神奈川県立生命の星・地球博物館の概要」を作成し、当館ウェブサイトで公開した。

社会教育施設評価書

神奈川県立の社会教育施設６館（県立図書館・県立川崎図書館・金沢文庫・近代美術館・歴史博物館・当館）では、共通評価項目を設定し、年度ごとの施設評価を実施している。

令和２年度には「令和元年度社会教育施設評価書」を作成し、当館ウェブサイトで公開した。

第三者評価

開館以来はじめて、社会教育施設第三者評価が実施された。

外部の有識者による第三者評価を受けるとともに、有識者のアドバイスを参考に「令和２年度神奈川県立生命の星・地球博物館評価書（社会教育施設個別評価）」の評価シート及びチェックリストを作成した。

第三者評価の結果については、令和３年３月１８日に館内において評価委員から館員に伝達された。評価の内容及び結果については当面非公開とされた。

2. 情報発信機能

当博物館は「生命の星・地球」を基本テーマとして、46 億年にわたる地球の壮大な歴史と生命の多様性、そして神奈川の自然について、実物資料を中心にストーリー性をもってわかりやすく展示している。

具体的には、4つのサブテーマ及びジャンボブックで構成する常設展示と、特定テーマにより開催する特別展示、ハイビジョンやクイズ映像を上映する SEISA ミュージアムシアターなどで、来館者に情報を発信している。

2.1. 常設展示

常設展示は、基本テーマ「生命の星・地球」を解説する「常設展示室」と、実物百科展示「ジャンボブック展示室」のほか、ミュージアムライブラリー前に設置されている「情報コーナー」とエントランスホール「記念撮影コーナー」から構成される。

2.1.1. エントランスホール

エントランスホールには、過去の地球環境に生息していた生物の代表として、白亜紀の陸・海・空から、陸：恐竜（チンタオサウルス）、海：魚類（クシファクチヌス）、空：翼竜（アンハングエラ、トuppクスアラ）をシンボルとして展示している。また、これらを展示しているステージでは、ガイダンス映像（上映時間：3分20秒）を繰り返し上映している。この映像では、開館当時から出演者による手話によって、聴覚障がい者への対応を行っているが、2006年7月から日本語字幕を追加した。また、「記念撮影コーナー」として、ミュージアムシアター入り口付近にアラスカヒグマの剥製を2005年11月3日から展示している。

2.1.2. 常設展示室

基本テーマ「生命の星・地球」に沿ったストーリー展開を見せるため、常設展示を次の4つのサブテーマに分けて展示を行っている。

地球を考える展示室

「地球を考える」では、地球の形成過程や地球の仕組み、生命の誕生と生命の営みによって地球環境が変わってきた様子などを、岩石、鉱物、化石などの標本類と、画像、映像資料を活用して展示している。

神奈川の自然を考える展示室

「神奈川の自然を考える」では、神奈川の大地の生い立ちと、神奈川の生物相や自然の現状について、岩石や化石、動物剥製、植物模型などで展示している。

生命を考える展示室

「生命を考える」では、約4億年前から現在まで、地球上のあらゆる環境に出現した多様な生物種と生命の進化の過程について、動植物化石、動物剥製、昆虫標本、植物標本などの実物資料を中心に展示している。

自然との共生を考える展示室

「自然との共生を考える」では、生命を誕生させ育みつけてきた地球環境が、人類の活動により様々な影響をうけ変化していることを、映像、画像資料を中心に展示している。

2020 年度の展示変更及び更新

神奈川の自然を考える展示室

〔展示期間〕 2020 年 9 月 28 日～

〔更新概要〕 「人と自然のかかわり」のうち、外来生物に関する解説パネル 2 点の情報を更新し、既存パネルと交換した。また、学名等の変更により展示ラベル 10 点を更新した。

〔担当〕 加藤ゆき

神奈川の自然を考える展示室

〔展示期間〕 2021 年 3 月 23 日～

〔更新概要〕 剥製の劣化により「化石からのメッセージ」及び「氷河時代と生物の移動」の展示物を撤去し、新たに「神奈川県海岸と生物」を開設した。さらに、「現在の生物相の成立過程」の解説パネルを新たに作成し、設置した。

〔新たな展示の概要〕 神奈川県海辺で見られる野鳥や海岸に漂着したクジラ、ウミガメを

剥製や骨格で紹介した。

〔撤去した展示物〕 ヘラジカの顎の化石（レプリカ）、ヘラジカ（本剥製）、ツキノワグマ（本剥製）、ヒグマ（本剥製）、解説・グラフィックパネル 8 点、展示ラベル 4 点、標本台座 2 点

〔新たに設置した展示物〕 ナガスクジラ（椎骨・上腕骨）、イワシクジラ（耳骨）、タヌキ（頭骨）、アオバト（雌雄各 1 個体）、ウミウ、ヒメウ、クロサギ、ウミネコ（3 個体）、オオセグロカモメ、セグロカモメ、ユリカモメ、コアジサシ、ハマシギ、トウネン、シロチドリ（すべて本はく製）、アカウミガメ（骨格・2 個体）、アオウミガメ（胃内容物）、解説・グラフィックパネル 8 点、標本ラベル 23 点、展示台座 1 点

〔担当〕 加藤ゆき・広谷浩子・松本涼子・鈴木聡・石田祐子

2.1.3. ジャンボブック展示室

博物館が所蔵する動物、植物、化石、岩石、鉱物など膨大な標本類の一部を、系統分類、コレクション、個別テーマなどに項目分けをして、巨大な本にみたてた展示ケースに収納し、「実物百科事典」として展示している。2020 年度の変更・展示替え等については以下の通りである。

第 11 巻 神奈川の淡水魚

〔展示期間〕 2020 年 10 月 14 日～

〔更新概要〕 「一生まれも育ちも神奈川とは限りません— 神奈川の淡水魚」の解説パネル 5 点の情報を更新し、既存パネルと交換した。

〔担当〕 瀬能 宏

〔新たな展示の概要〕 神奈川県植物相研究、『神奈川県植物誌 2018』と特別展図録、神奈川県植物誌調査会の調査、新たに見つかった分類群、新たに見つかった帰化植物、分布を拡大した在来植物、分布を拡大した帰化植物、分布が減少した植物、神奈川県植物誌調査会。

〔展示物〕 グラフなど：各年代の植物目録・植物誌に記録された植物の種類数、データベース化・データ提供された調査期間別の採集年毎の採集標本数、写真：ツェンベリーの標本を収める標本室（ウブサラ）、マキシモヴィッチの標本が収蔵される標本館（サンクトペテルブルグ）、ツェンベリーが採集したクロモジ（UPS-TUNB 8796, ウブサラ大学）、サヴァチェが採集したオカウコギ（P, フランス自然史博物館）、ペリー艦隊が持ち帰ったタチ

第 16 巻 県民がつくった緑の全戸籍

〔展示期間〕 2021 年 3 月 23 日～

〔更新概要〕 2018 年に『神奈川県植物誌 2018』（神奈川県植物誌調査会編）が刊行されたのを受け、従来の『神奈川県植物誌 2001』（神奈川県植物誌調査会編）刊行時の展示内容を更新するとともに、神奈川の植物相調査の歴史や『神奈川県植物誌 1988』以来の成果についても紹介した。

ツボスミレ (GH00274014, ハーバード大学)、牧野富太郎が採集したシバナ (TNS 20366, 国立科学博物館)、『神奈川県植物目録』(松野編, 1933)、『神奈川県植物誌』(神奈川県博物館協会編, 1958)、『神奈川植物目録』(宮代, 1958)、『神奈川県植物誌 1988・2001・2018』(神奈川県植物誌調査会編, 1988・2001・2018)、タンザワイケマ、タンザワウマノスズクサ、タンザワサカネラン、ハコネキンミズヒキ、ハコネイトスゲ、ハコネイトスゲの基準標本 (KPM-NA1073919)、ホシケチドメグサ、シマツボクサ、タシロラン、カヤラン、ヤマホオズキ、オッタチカタバミ、マルバフジバカマ、キダチコマツナギ、ナガミヒナゲシ、ブタクサハムシ、ブタクサ、適度に管理された里山耕作地の斜面草地、谷戸に残る雑木林と水田耕作地、サワヒヨドリ、オカオグルマ、ノブキ、丹沢山地に設置にされた防鹿柵の外側(左側)と内側(右手奥側)、分布図: タシロラン、カヤラン、ヤマホオズキ、ツルソバ、ノニガナ、オッタチカタバミ、マルバフジバカマ、キダチコマツナギ、ナガミヒナゲシ、ブタクサ、サワヒヨドリ、オカオグルマ、ヒナノウスツボ、オオバギボウシ、ノブキ、書籍: 『神奈川県植物誌 1988』(神奈川県植物誌調査

会編, 1988)、『神奈川県植物誌 2001』(神奈川県植物誌調査会編, 2001)、『神奈川県植物誌 2018』(神奈川県植物誌調査会編, 2018)、『植物誌をつくろう』(神奈川県立生命の星・地球博物館編, 2018)

[担当] 田中徳久・大西 亘・石田祐子

[展示協力] 桜美林大学インターンシップ: 小菅悠莉・山口土筆

第 18 巻 溪岸をいろどる植物

[展示期間] 2021 年 3 月 23 日～

[更新概要] 溪岸植物の 1 つとして解説しているサツキの分布について最新の知見を反映し、分布情報を更新した。

[新たな展示の概要] これまで、サツキの分布の東限は神奈川県だと考えられてきたが、近年の植物相調査の進展により、福島県でサツキの自然分布が確認された。

[展示物] 修正内容: 分布図に従来の分布図に福島県の分布点を追記した。解説文では、東限を福島県に修正し、分布域の情報を更新した。また、神奈川県内で絶滅危惧種に選定されていることを追記した。

[担当] 石田祐子・田中徳久・大西 亘

2.1.4. ミュージアムライブラリー情報コーナー

博物館 2 階「ミュージアムライブラリー」入口にある情報コーナーは、最新の科学や研究情報、博物館に関連するタイムリーな話題などを、いち早く来館者に提供することを目的として設置されている。このコーナーには主に紙面による情報を提供する情報展示パネルと、標本や関連資料による情報をウォールケースにて展示するミニ企画展示コーナーがある。

情報展示パネル

友の会紹介コーナー

[展示内容] 生命の星・地球博物館友の会の活動紹介

[展示更新] 随時、特に活動報告など

[担当] 生命の星・地球博物館友の会広報部

博物館周辺の身近な自然

[展示内容] 『自然を楽しむみち』のコース及び解説 1～9 の紹介

ミニ企画展示コーナー

最長3ヶ月を目安に展示替えをしながら、最新の情報を提供することを目的として次の4タイトルの「ミニ企画展示」を開催した（2019年度計画で、開催期間が2020年度に及んだものを含む）。

友の会会員440名と共に－学芸員や私たちと
いっしょに自然を楽しみませんか－

〔展示内容〕友の会では分野別に数々のグループが活動している。今回の展示では、「地学グループ」、「植物観察会」、「よろずスタジオ」、「里山むしにくクラブ」、「樹木観察基礎講座」、「地図を楽しもう」の7つの活動の様子をポスターで紹介した。

〔展示期間〕2020年3月19日～2020年8月31日

〔担当〕博物館友の会

調べてみよう！動物の骨

〔展示内容〕2020年度博物館実習生（動物分野）5名が実習の一環として取り組んだミニ展示。テーマは「動物の骨」。四肢動物の骨の形と機能や進化について調べ、展示した。

〔展示期間〕2020年10月3日～2020年10月25日

〔担当〕広谷浩子・加藤ゆき

シダの世界へようこそ

〔展示内容〕身近な植物のひとつであるシダ植物には様々な形の葉がある。この展示では、さく葉標本（押し葉標本）をもとに、シダの葉のさまざまな形を紹介し、身近な「つくし」や「ぜんまい」の標本や、コケのような見た目のシダ植物も展示した。

〔展示期間〕2020年10月31日～2021年1月11日

〔担当〕石田祐子

友の会会員440名と共に－学芸員や私たちと
いっしょに自然を楽しみませんか－

〔展示内容〕友の会では分野別に数々のグループが活動している。この展示では、「里山むしにくクラブ」、「地学グループ」、「植物観察会」、「地図を楽しもう」、「よろずスタジオ」と5つのグループの活動の様子をポスター、標本などで紹介した。

〔展示期間〕2021年3月30日～2021年5月16日

〔担当〕博物館友の会

2.2. 特別展示

当館の持つシンクタンク機能としての調査研究や、データバンク機能としての資料収集などの成果を、広く県民に還元するため、当館特別展示室を使用して特別展・企画展を企画・開催している。2020年度特別展は新型コロナウイルス感染症の拡大による都県境を越える移動の制限等により十分な準備ができないことが予測されたため、延期とした。夏期の展示としては、2019年度に開催したものの3日間で臨時休館となった企画展を延長開催した。

2.2.1. 特別展

開催を予定していた「火山列島の自然（仮）」展は1年延期とした。

2.2.2. 企画展

2019 年度 企画展 ゴンドワナ ～岩石が語る大陸の衝突と分裂～

〔開催期間〕2020 年 2 月 29 日(土)～11 月 8 日(日)

〔開催日数〕119 日 (2019 年度は 3 日間の開催、3 月 4 日～6 月 30 日まで、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館。2020 年度は、7 月 1 日～11 月 8 日までの 116 日間の開催となった。)

〔入場者数〕51,631 人 (2019 年度は 827 人、2020 年度は 50,804 人)

〔展示内容〕2019 年度の年報を参照されたい。

2020 年度企画展「かながわ発 きのかの新種展」

〔開催期間〕2021 年 2 月 20 日(土)～2021 年 5 月 9 日(日)(ただし、緊急事態宣言の発出の影響により、2021 年 3 月 23 日(火)からの開催となった。)

〔開催日数〕2020 年度内は 8 日

〔会場〕1 階 特別展示室

〔後援〕神奈川新聞、t v k (テレビ神奈川)

〔企画担当〕折原貴道

〔企画展実行委員会〕折原貴道、新井田秀一、石浜佐栄子、渡辺恭平、大坪 奏、中村友美子、工藤麻衣

〔展示内容〕神奈川県産のものを中心に、身近な環境で採集された標本をもとに記載されたきのこの新種に関する展示を行った。きのこを含む菌類にはまだ名前の付けられていないものが膨大に存在し、我々の身近な環境からも、次々と新種が発表される状況にある。また、自然史博物館の標本の中には、集める時点では学術的価値がはっきりしなくても、後年研究されることで新種であることが判明し、標本の学術的価値が増すケースも多い。本企画展では、自然史博物館において標本を集め、保管してゆくことが学術的になぜ重要なのか、「新種」をキーワードに広く理解してもらうことを第一の目的とした。さらに、この地道な標本収集・研究・保管の活動が、多くの市民の協力によって成り立っていることも紹介した。

1. きのかは何者? : 我々にとって、きのこは食材としてなじみ深い存在であるが、実際にどのような生物で、生態系においてどのような役割を担っているのか、私たちが知る機会は少ない。そこで、序章として、それらを紹介する展示を行った。
2. 菌類の多様性と未記載種 : 現在地球上に存在するきのこ、カビなどの菌類は、一説には推定 1,200 万種とも言われるが、これまでに実際に学名が付けられたものは、そのうちの 14 万種に過ぎない。それゆえ、私たちのごく身近な環境にも、学名の付いていない菌類が多く生育していることを、標本展示も交えて紹介した。
3. 新種発表までの道のり : きのかの標本を集める段階から新種発表までの過程を、標本や実際の観察記録を交えて紹介した。
4. 市民参加型調査・アマチュア研究者の活躍 : 新種発表など、きのこの基礎研究を支えているのが、各地のアマチュア研究者・愛好家による継続的な調査活動である。代表例として、当館の菌類ボランティアグループによる活動を紹介した。また、アマチュア研究者自身による研究活動もきのこの基礎研究において重要である。ここでは、神奈川県産のきのこの新種を数多く発表されてきたアマチュア研究者、高橋春樹氏の研究について、標本や高橋氏自身による解説動画などにより紹介した。
5. かながわの新種きのこ : 神奈川県内で採集された標本をもとに新種発表されたきのこを、写真とともに多数展示した。
6. 新種はすぐそばにいる—標本を集める意義 : 自然史標本は、必ずしも集める時点では学術的な重要性が明確でなく、後の研究により価値が付加される場合も多くある。そのような例として、近年新種と判明し新たに学名が付けられたキクラゲなどの例を紹介し、その時の価値観に捉われずに標本を集め続けることの重要性を伝える展示をおこなった。

[ポスター・チラシ] 本杉弥生（デザイン他）
[サテライト展示] 小田原合同庁舎の展示コーナーにて、本企画展の関連展示を行った。

期間：2021年3月24日～5月7日
場所：小田原合同庁舎 1階展示コーナー

2.3. その他の展示

2.3.1. 子ども自然科学作品展

新型コロナウイルス感染症拡大のため中止した。

2.3.2. 子ども自然科学作品展交流会

新型コロナウイルス感染症拡大のため中止した。

2.4. SEISA ミュージアムシアター

展示の理解をより深めるために、200インチの大型ハイビジョンスクリーンを使い、ハイビジョン映像（番組）3本と、子どもも大人も楽しめるインタラクティブ・クイズ映像（番組選びとクイズの回答をボタンで選ぶ参加型映像）を上映している。また、学会や講演会開催時には主会場としても利用されている。なお、シアターの名称はネーミングライツパートナー制度により、2011年4月1日から「SEISA ミュージアムシアター」となった。

2.4.1. シアターの概要

座席は308席。車椅子用のスペースは5席。中央部にある115席（車椅子用5席を含む）に、インタラクティブ・クイズ回答用の5選択押しボタンスイッチを設置している。照明設備は、場内の明るさを簡単にコントロールできるように、あらかじめコントロールパネルに設定している。また、演者などステージ上を照らし出すためのスポット照明を用意している。

学会・講演会開催時には、パソコンなどデジタル機器の画面をスクリーンに投影できるように、ステージ上と映写室に設置した調整卓に接続できるようにしている。

なお、映像機器については2013年にデジタルハイビジョン対応機器に更新した。音響機器については、2016年に更新した。

2.4.2. シアターの上映番組

SEISA ミュージアムシアターでは、ハイビジョン番組を3本と、インタラクティブ・クイズ映像を1本の計4種類を上映している。

ハイビジョン番組は、「生命の星・地球」という博物館の基本テーマと同じタイトルで常設展示の理解をより深めるストーリーを映像で紹介している。2本の番組タイトルは、「生命の星・地球 奇跡の旅立ち」と「生命の星・地球 生命の輪舞」で、いずれも上映時間は15分である。「奇跡の旅立ち」では、地球の誕生から、初期の生命の発生、そしてその生命との相互作用によって生命の星としての条件を整えてきた過程を説明している。「生命の輪舞」では、生物の上陸以降をフォローし、進化とともに動物と植物の間の密接な関係を説明することによって、私たち人類のあり方を問うている。

これらに加え、新たにハイビジョン映像「躍動する大地 花あふるる火の山 箱根」を製作し、2013年8月3日から上映を行っている。温泉地として有名なこの地は、火山でもある。また、その地形の険しさから、古くから東西を結ぶ交通の難所としても知られている。さらに、日本を代表する自然として、江戸時代に訪れた外国人によって世界に紹介されてきた。火山活動の

激しさは、関東平野にも影響を及ぼすほど大規模なものだったとされている。このような箱根火山の生い立ちだけではなく、火山活動が生み出し、火山活動に強く影響を受けている自然とその環境を紹介した内容となっている。上映時間は20分である。

インタラクティブ・クイズ映像は、「怪人ネイチャーランドの挑戦」と題した子どもも大人も楽しめるクイズ番組である。これは、怪人ネイチャーランドが盗み出した水晶玉を、来館者がクイズに正解することにより一つずつ取り返し、いくストーリーで、来館者の答えがストーリーの展開を変えていくといった、インタラクティブ（相互作用）型の博物館オリジナル作品となっている。クイズのテーマは、「地球は生きている」、「植物は変身の天才だ!」、「魚のサバイバル」、「動物の足跡捜査隊」、「ヒトの謎を科学する!」の5種類である。最初に、どのテーマを行いたいか来館者が選択し、1位になったテーマを上映している。インタラクティブ・クイズは、案内員がクイズの進行を行っている。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため上映を取りやめた。

SEISA ミュージアムシアター上映プログラム

	時間	タイトル		時間	タイトル
通 常 期	9:30～9:45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち	多 客 期	9:30～9:45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	10:00～10:15	生命の星・地球 生命の輪舞		10:00～10:15	生命の星・地球 生命の輪舞
	10:30～10:50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根		10:30～10:50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根
	11:30～11:50	インタラクティブ・クイズ映像		11:30～11:50	インタラクティブ・クイズ映像
				12:30～12:50	インタラクティブ・クイズ映像
	13:00～13:20	インタラクティブ・クイズ映像			
				13:30～13:50	インタラクティブ・クイズ映像
	14:00～14:15	生命の星・地球 奇跡の旅立ち			
	14:30～14:45	生命の星・地球 生命の輪舞		14:30～14:45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	15:00～15:20	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根		15:00～15:20	生命の星・地球 生命の輪舞
				15:30～15:50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根

2.4.3. シアターの上映回数

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、7月1日の再開館時から上映を中止した。

通常期は、ハイビジョン映像およびインタラクティブ・クイズ映像「怪人ネイチャーランド」を、午前、午後それぞれ1回ずつ、計8回上映している。

なお、2020年度に関しては、学校休業期と重なる多客期（2020年4月1日～5日、4月29日～5月6日、7月18日～8月31日、3月26日～3月31日）についてはインタラクティブ・クイズを午後に1回増やし、計9回の上映を予定していた。

2.4.4. その他の利用

ハイビジョン映像及びインタラクティブ・クイズの通常上映のほか、講演会や学会等の会場として提供している。2020年度は、新型コロナ

ウイルス感染症拡大防止対策のため、利用を行わなかった。

2.5. ミューズ・フェスタ 2021

「開かれた博物館」としての活動の充実といっそうの発展を図るため、地元自治体や自治会、博物館友の会などとともに、地域との交流を深め、県民の参加型事業として開館記念日事業を2002年度から実施している。

2020年度は、2021年3月13日・14日の2日間を予定したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止とした。

2.6. 臨時休館時のウェブ情報発信

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時休館やイベントの中止に伴い、利用者向けのお知らせをウェブサイトのトップページや関連ページに掲載したほか、「ウェブで楽しむ地球博」等のコンテンツで臨時休館中でも楽しめる情報を発信した。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に関連するウェブサイトでの情報発信は2020年2月から始まり、その内容は年報第25号に掲載したが、2020年3月4日からの臨時休館に伴うものについてはここに再掲載している。

2020年3月4日から6月30日までの臨時休館に伴う主な情報発信

更新日	内容種別	発信内容
3月2日	お知らせ	3月4日から15日まで臨時休館し17日から再開館予定
	お知らせ	3月6日午後のミュージアム・リレー（当館開催）中止
	お知らせ	臨時休館に伴いミニ企画展示が3月3日に終了
3月3日	お知らせ	県立の社会教育施設の情報のリンクを提示
3月6日	お知らせ	3月22日企画展関連講演会「ゴンドワナ大陸を語る」延期
3月11日	お知らせ	3月末まで臨時休館（トップページのバナーも新設）、この期間の催し物は中止または延期

（次ページに続く）

(前ページから続く)

更新日	内容種別	発信内容
3月12日	ウェブで楽しむ地球博	新コンテンツ「ウェブで楽しむ地球博」
3月24日	お知らせ	4月1日以降、当分の間、臨時休館
3月26日	お知らせ	4月5日・12日のよろずスタジオ中止、4月11日の「春の里山の植物」中止
3月28日	お知らせ	4月17日の友の会イベント植物観察会「春の花を訪ねて」中止、4月18日の講座「植物図鑑の使い方ー春の花編ー」中止、4月19日の講座「化石講座ーゾウ化石を調べようー」の延期
4月2日	ウェブで楽しむ地球博	企画展「 Gondwana大陸ー岩石が語る大陸の衝突と分裂ー」の紹介動画「第2章岩石編」と「第3章生物編」
	お知らせ	4月25日の友の会イベント「身近な植物観察入門」中止
4月8日	お知らせ	8月31日まで臨時休館
	ミニ企画展示	「友の会会員440名とともにー学芸員や私たちといっしょに楽しみませんかー」の展示内容詳細（臨時休館時限定）
4月9日	ウェブで楽しむ地球博	新コーナー〈学芸員の展示余話〉（以降7月1日まで週2回連載）
	お知らせ	8月31日までの友の会主催のイベント中止
	お知らせ	学芸員実習の申込期間を5月31日まで延長
5月1日	お知らせ	県立社会教育施設6館共同企画「おうちでミュージアム&ライブラリー」リンク
5月2日	ウェブで楽しむ地球博	紙芝居風動画「アオバトたちのだいぼうけん」
	企画展	企画展「 Gondwana大陸ー岩石が語る大陸の衝突と分裂ー」の展示内容詳細（臨時休館時限定）
5月5日	ミニ企画展示	「友の会会員440名と共にー学芸員や私たちといっしょに自然を楽しみませんかー」展示内容詳細をウェブサイト限定公開中の案内
5月20日	ウェブで楽しむ地球博	レイアウト大幅変更。コーナーごとに構成。〈学芸員の展示余話〉・〈企画展「 Gondwana大陸」〉・〈アオバト〉・〈ぬりえひろば〉・〈つくってあそぼう〉・〈生きものDEビンゴ!〉・〈地球博の動画コーナー〉・〈火山実験動画〉・〈電子百科〉
5月21日	お知らせ	団体予約の受付中止
5月26日	お知らせ	6月30日まで臨時休館、イベントは8月31日まで中止
5月27日	お知らせ	7月1日から再開館
	ウェブで楽しむ地球博	〈地球博の動画コーナー〉に「早回し動画で見る○○」（臨時休館中限定）
5月28日	ウェブで楽しむ地球博	〈アオバト〉・〈つくってあそぼう〉に「アオバトすごろく」
5月31日	ウェブで楽しむ地球博	〈ぬりえひろば〉に「ぬりえdeおめん」、「ヒオウギぬりえ」、「標本deぬりえ（カニと貝）」
6月12日	お知らせ	7月1日からの再開館について（詳細）
6月23日	企画展	「 Gondwana大陸ー岩石が語る大陸の衝突と分裂ー」11月8日まで会期延長
	ミニ企画展示	「友の会会員440名とともにー学芸員や私たちといっしょに楽しみませんかー」8月31日まで会期延長
6月26日	ウェブで楽しむ地球博	〈ぬりえひろば〉に「くらべてみよう! 4つのほにゅうるい」
6月30日	ウェブで楽しむ地球博	〈生きものDEビンゴ!〉に「いろいろな葉っぱと花編」

7月1日から1月11日までの再開館（新型コロナウイルス感染症拡大防止）に伴う主な情報発信

更新日	内容種別	発信内容
7月1日	お知らせ	再開館および設備・施設の利用休止
7月8日	お知らせ	9月以降の講座・観察会の今後中止の可能性
7月10日	ウェブで楽しむ地球博	〈地球博の動画コーナー〉に「とくべつじっけんーそらとぶたねー」（よろずスタジオ再開までの限定公開）
7月22日	ウェブで楽しむ地球博	〈地球博の動画コーナー〉に「当館の入館ルート変更動画」
7月25日	お知らせ	博物館周辺の混雑状況お知らせ専用の公式Twitter
8月19日	お知らせ	10月17日の「本当は怖いアメリカザリガニー最悪の水辺の外来種について勉強しようー」中止
	お知らせ	団体予約の受付をFAX限定で再開

(次ページに続く)

(前ページから続く)

更新日	内容種別	発信内容
8月27日	お知らせ	友の会イベント上半期の中止
9月10日	お知らせ	11月14日の「初めてのシダーシダ植物観察のポイント」、12月5日の「くらべてみよう鳥たちのつばさ」、「くらべてみよう動物たちの手足」、12月6日の「比べてみよう動物の手足」、「比べてみよう鳥の翼」中止
10月22日	お知らせ	「ご来館される皆様へ」の一部修正
10月28日	お知らせ	2021年1月16日-17日、1月30日-31日の「魚をもっと知りたい人の魚類学講座」(1)、(2)中止
11月5日	お知らせ	2021年3月14日-15日のイベント「ミューズ・フェスタ2021」中止
11月15日	ミニ企画展	「シダの世界へようこそ」の展示内容詳細(11月14日講座「初めてのシダ」中止に伴う対応)
	お知らせ	友の会イベント下半期(一部)の中止
11月28日	ミニ企画展	「シダの世界へようこそ」1月11日まで会期延長
	ウェブで楽しむ地球博	〈生きものDEビンゴ!〉に「いろいろなおちば編」
12月4日	ウェブで楽しむ地球博	新コーナー〈あつ森で地球博〉(地球博の標本を飾ろう!、なが〜い生きものを飾ろう!、本物の化石発掘現場を再現しよう!、博物館の名物ご飯を飾ろう!)
1月8日	お知らせ	1月12日から2月7日まで臨時休館
	お知らせ	2月6日の「ほねほねパズルで学ぶ動物の骨のかたちとくらし」、「早春の地形地質観察会」中止
1月9日	お知らせ	1月24日からの「博物館ボランティア入門講座」中止

1月12日から3月22日までの臨時休館に伴う主な情報発信

更新日	内容種別	発信内容
1月15日	ウェブで楽しむ地球博	〈地球博の動画コーナー〉に「早回し動画で見る〇〇」(臨時休館中の再掲載)
1月19日	お知らせ	友の会イベント下半期(一部)の中止
	ウェブで楽しむ地球博	〈学芸員の展示余話〉再連載(3月23日まで週2回連載)
2月3日	お知らせ	臨時休館延長のお知らせ(3月7日まで延長)
2月5日	ウェブで楽しむ地球博	〈ぬりえひろば〉に「サルのぬりえ」
2月9日	ウェブで楽しむ地球博	〈あつ森で地球博〉に「地球博の天井画を飾ろう!」
2月21日	お知らせ	臨時休館中の刊行物通信販売を中止
3月6日	お知らせ	臨時休館延長のお知らせ(3月22日まで延長)
3月19日	お知らせ	段階的緩和期間中の対応(3月23日から当面の間、事前予約制を実施)
	来館予約	来館予約ページの掲載
3月20日	お知らせ	来館予約を開始(3月23日から当面の間事前予約された方に限り入館可能)
	お知らせ	2020年度企画展「かながわ発 きのこの新種展」の開始を3月23日に変更
3月21日	お知らせ	「ご来館されるみなさまへ」変更
3月23日	ウェブで楽しむ地球博	〈学芸員の展示余話〉最終回
	来館予約	「来館予約システムに関するよくあるお問い合わせ」
3月25日	お知らせ	リバウンド防止期間中の対応(4月21日まで事前予約制を実施)
	お知らせ	4月10-11日、24-25日の「魚をもっと知りたい人の魚類学講座」(1)、(2)中止
3月28日	お知らせ	英語ページにて事前予約制をお知らせするアラート
3月30日	来館予約	4月8日から15日の予約フォームを掲載
	ウェブで楽しむ地球博	〈ぬりえひろば〉に「サクラのぬりえでペーパークラフト」

3. シンクタンク機能

研究機関である博物館は、県内はもとより国内外のシンクタンクとして、学芸員が様々な活動を行っている。ここでは、それらの活動を項目ごとに取りまとめた。基本的に当館での活動を中心に項目分けし、各学芸員の自己申告に基づき掲載している。そのため取り上げていない活動も多い。2020 年度に実施した研究のうち、当該年度に研究が終了したテーマについて、Ⅲ資料の項（103～114 ページ）に成果報告を掲載した。

3. 1. 調査研究事業

調査研究活動に関する要項に基づき、総合研究 2 テーマ、グループ研究 1 テーマ、個人研究 20 テーマに関する研究を行った。以下「研究担当者：研究テーマ」を掲載する。

総合研究

田口公則・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子・西澤文勝・大島光春・樽 創・河尻清和・柴田健一郎・野崎 篤・笠間友博・山口珠美・高橋直樹・川手新一：現代的な視点による神奈川県地質史の構築
荏部治紀・加藤英寿・千葉 聡・川上和人・鈴木 創・佐々木哲郎：小笠原諸島火山列島における動植物相と島嶼での進化

グループ研究

大島光春・田口公則：被写体認識基盤サービスを利用した展示物への来館者の興味・関心調査

個別研究

田中徳久：神奈川県の維管束植物相の長期的モニタリングとその変遷
佐藤武宏：イボキサゴ *Umbonium moniliferum* に対する在来種 ツメタガイ *Glossaulax didyma* と導入種サキグロタマツメタ *Euspira fortunei* の捕食の変遷について
加藤ゆき：神奈川県におけるサギ類集団営巣地の現状
荏部治紀：神奈川県周辺のトンボ類における南方種の分布拡大について 5
渡辺恭平：日本産ヒメバチ上科寄生蜂の分類学的研究（Ⅲ）
松本涼子：後頭部の形態から読み解く四肢動物

の首の運動機能の進化

鈴木 聡：丹沢地域における哺乳類の分布調査
広谷浩子：水辺の哺乳類相をもとにした早川水系の環境評価
瀬能 宏：相模湾およびその隣接海域における沿岸魚類の分類および生物地理学的研究
大西 亘：現代植物標本室における標準的な管理手法の実践的な構築
折原貴道：「空飛ぶ地下生菌仮説」の検証—無性胞子に着目した、トリュフ型菌類の島嶼系統地理
石田祐子：神奈川県の半自然草原の特性と構成種の分布
大島光春：古生物標本の 3D データ化とデータの活用に関する研究
樽 創：*Stegodon miensis*（ミエゾウ）の大きさに関する研究
田口公則：相模層群以降の温暖期における貝化石群の比較 一下末吉層産の貝化石—
山下浩之：四国海盆のマドメガムリオンに産する斑れい岩類の岩石学的研究
新井田秀一：デジタル標高モデル（DEM）や地球観測衛星画像を用いた南関東地域の地形解析
石浜佐栄子：大磯丘陵の新第三系～第四系層序と堆積環境の復元に関する再検討
西澤文勝：神奈川県に分布する後期更新世指標テフラの火山ガラスの主成分化学組成
大坪 奏：今関コレクションのアーカイブ・システムの確立

3. 2. 研究助成金による研究

日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）をはじめとする外部助成金による研究と、共同研究や共同施設利用研究などについて、種類別に「研究代表者を除く当館の分担者*、研究協力者**）：研究テーマ、研究課題番号等」の順に掲載した。研究組織、研究内容と成果の詳細については、III 資料の項（113～114 ページ）に掲載した。

3. 2. 1. 日本学術振興会科学研究費補助金による研究

基盤研究（A）

前藤 薫（渡辺恭平*）：次世代技術と自然史財を高度に活用した広義寄生蜂の多様性情報基盤の構築（19H00942）

基盤研究（B）

鈴木寿志（田口公則*）：変動帯の文化地質学（17H02008）

安田 敦（西澤文勝*）：単一火山を給源とする類似したテフラを識別・対比するための手法開発（20H01982）

基盤研究（C）

加藤ゆき（広谷浩子*・大島光春*・大坪 奏*）：外来生物問題を教える博物館—動物園ネットワークの構築に関する研究（16K01052）

田中徳久：博物館資料の潜在的価値の顕在化—海を渡った植物標本からの生物多様性情報の発掘—（17K01218）

広谷浩子（加藤ゆき*）：博物館で「自然財」をまもる—哺乳類標本の作製技術・情報管理の体系化と継承—（17K01219）

松本涼子：後頭部の形態から読み解く四肢動物の首の運動機能の進化（17K05698）

田口公則（大島光春*・広谷浩子*）：感情と観覧行動からの展示文脈：何をどのように見て、感じ、思考しているのか（18K01112）

新井田秀一：歴史的な鳥瞰図に対する博物館学的な視点から観た数値標高モデルによる再構築（19K01149）

瀬能 宏：分野横断的な標準和名の命名ルール制定に向けた生物名称の史的変遷の解明（20K01131）

石浜佐栄子（加藤ゆき*・大坪 奏*）：幼児と親に豊かな博物館体験をいかに提供するか—会話を誘発する新たな展示デザイン（20K01132）

佐藤武宏（田口公則*）：小学校・幼稚園に身近な自然を持ち込むためのプッシュ型支援に関する研究（20K02753）

丹治雄一（山下浩之*・田口公則*）：岩石・石材を素材とした歴史系および自然系博物館による地域学習プログラムの協働開発（18K01111）

田上 響（松本涼子*）：比較解剖学的・組織学的手法による古生物の嘴の復元（18K03828）

大澤剛士（大西 亘*）：自然生態系と連続した土地利用はハビタットの質を引き継ぐか？（20K06096）

挑戦的研究（萌芽）

大和政秀（折原貴道*）：アーバスキュラー菌根菌胞子果の同定分類と有性生殖の探索（19K22269）

若手研究（B）

大坪 奏：自然史博物館に残された絵画資料「標本画」の活用と共通課題克服のための実践的研究（16K16344）

折原貴道：空飛ぶ地下生菌仮説の検証—菌類の分生子に着目した、島嶼系統地理の新たな展開（17K15184）

渡辺恭平：菌食性昆虫捕食寄生蜂の多様性と寄生蜂—寄主—キノコ相互作用系の解明（17K15185）

若手研究

西澤文勝：南九州カルデラ地域の前—中期更新世火砕流堆積物の層序と爆発的火山噴火史の解明（19K13438）

国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（A））
松本涼子：絶滅四肢動物から解き明かす現生両生類の首の進化（18KK0393）

3. 2. 2. 各種助成金による研究

環境研究総合推進費（環境問題対応型研究）

荒谷邦雄（荏部治紀*）：危機的状況にある奄美・琉球の里地棲希少水生昆虫類に関する実効的な保全・生息地再生技術の開発（4-1901）

花博自然環境助成事業

折原貴道（生命の星・地球博物館 入生田菌類誌調査グループ）：市民参加型調査に基づく大規模な地域菌類誌の出版

3. 3. 著作活動・学会発表等

平田大二（ひらた だいじ） 地学（鉱物）
[普及的著作等]

平田大二，2020. たくさんの自然科学のとびら．自然科学のとびら，Vol.26, No.3, 神奈川県立生命の星・地球博物館．

平田大二，2021. 「月球儀の表と裏」．第40回学芸員の展示余話．<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no40>.

田中徳久（たなか のりひさ） 植物学（植物生態）
[論文]

田中徳久，2021. 2018–2020 年に見出した神奈川県地域植物相の重要な記録となる標本．神奈川自然誌資料，(42)：143–147.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

田中徳久，2020. 神奈川県を基準産地とする植生単位．植生情報，(24)：12–16.

村上雄秀・中村幸人・鈴木伸一・阿部聖哉・原田敦子・田中徳久，2020. 日本の森林植生の群落体系（2019 年版）．植生情報，(24)：26–35.

渡邊重彦・田中徳久，2020. 横浜植物会年報総目次（第 39 号～48 号）．横浜植物会編，横浜植物会の歴史—創立 111 周年記念誌—（横浜植物会年報第 50 号），pp.92–93. 横浜植物会，横浜．

渡邊重彦・田中徳久，2020. 野外例会の開催地（2010〔平成 22〕年から 2019〔令和元〕年）．

横浜植物会編，横浜植物会の歴史—創立 111 周年記念誌—（横浜植物会年報第 50 号），pp.78–85. 横浜植物会，横浜．

田中徳久，2020. 植物の学名に名を遺す横浜植物会会員．横浜植物会編，横浜植物会の歴史—創立 111 周年記念誌—（横浜植物会年報第 50 号），pp.102–104. 横浜植物会，横浜．

渡邊重彦・田中徳久，2020. 会や会員の方々が関わった刊行物などの著作．横浜植物会編，横浜植物会の歴史—創立 111 周年記念誌—（横浜植物会年報第 50 号），pp.104–120. 横浜植物会，横浜．

渡邊重彦・田中徳久，2020. 横浜植物会の顧問と運営委員、会員の伝記と記録、追悼文．横浜植物会編，横浜植物会の歴史—創立 111 周年記念誌—（横浜植物会年報第 50 号），pp.124–126. 横浜植物会，横浜．

田中徳久・勝山輝男，2020. 横浜の植物相 2020. 横浜植物会編，横浜の植物 2020—横浜の植物（2003）補遺一．pp.5–8. 横浜植物会，横浜．

田中徳久・勝山輝男（編），2020. 横浜市産維管束植物の区別分布表—2020—．横浜植物会編，横浜の植物 2020—横浜の植物（2003）補遺一．pp.9–76. 横浜植物会，横浜．

篠原康之・佐々木シゲ子・山口太郎・渡辺重彦・田中徳久・勝山輝男，2020. 『横浜の植物』（2003）補遺．横浜植物会編，横浜の植物 2020

—横浜の植物（2003）補遺—, pp.77-124. 横浜植物会, 横浜.

田中徳久・渡辺重彦, 2020. 横浜の植物相研究—先人たちの植物標本—. 横浜植物会編, 横浜の植物 2020—横浜の植物（2003）補遺—, p.125-135. 横浜植物会, 横浜.

渡辺重彦・篠原康之・田中徳久, 2020. 標本の採集地を横浜市の区の変遷から読み解く. 横浜植物会編, 横浜の植物 2020—横浜の植物（2003）補遺—. p.136. 横浜植物会, 横浜.

田中徳久, 2020. サイエンスミュージアムネットで公開されている神奈川県で採集された標本の同定変更. *Flora Kanagawa*, (89) : 1067-1070.

田中徳久, 2020. 未登録標本の扱いは慎重に—横浜の植物相からサンシチソウを削除—. *Flora Kanagawa*, (89) : 1070-1071.

[普及的著作等]

田中徳久, 2020. 訪ね損ねた春の花を訪ねて. 友の会通信, (108) : 4.

田中徳久, 2020. 八方尾根の植物群落. 横浜植物会年報, (49) : 29-31.

田中徳久, 2020. 展示室にそびえ立つ巨木 第2回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話. <https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no2>

田中徳久, 2020. 先輩学芸員の残したもの—30万点の標本と「神奈川県植物誌」の基礎—. 自然科学のとびら, 26 (4) : 30-31.

田中徳久, 2021. 県民が作った緑の全戸籍? 第41回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話. <https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no41>

佐藤武宏(さとう たけひろ) 動物学(無脊椎動物)
[論文]

荏部治紀・寺山隼人・加賀玲子・佐藤武宏・坂部 貢, 2020. 岐阜県東濃地方の絶滅危惧種マダラナニワトンボ生息地におけるネオニコチノイド系農薬汚染の実態. *TOMBO*, (62) : 26-37.

山下龍之丞・山川宇宙・佐藤武宏, 2021. 神奈川県の田越川感潮域から記録された希少貝類3種. 神奈川自然誌資料, (42) : 95-99.

小沢広和・中井静子・佐藤武宏・中尾有利子,

2021. 教職課程科目「地学概論 I」における初歩的な計算問題の実践例と課題. 日本大学教職課程紀要, (4) : 91-96.

[普及的著作等]

佐藤武宏, 2020. ユーレイカ（わかったぞ）！ ユーレイカの姿勢. 第4回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話. <https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no4>

佐藤武宏, 2020. ザ・日本のカニ. 第21回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話. <https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no21>

佐藤武宏, 2020. 全部エビなんです. 第23回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話. <https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no23>

佐藤武宏, 2020. 不思議な貝からひらめくものは? 第29回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話. <https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no29>

加藤ゆき(かとう ゆき) 動物学(鳥類)
[論文]

葉山久世・加藤ゆき・篠田授樹・松本令以・久米宗男・石井 隆・池内俊雄, 2020. 特定外来生物カナダガンの生態系からの除去の活動記録, *Binos* (27) : 105-122.

加藤ゆき・重永明生, 2020. 神奈川県西部におけるツバメチドリの観察記録, *Binos* (27) : 23-25.

加藤ゆき・川合英利・重永明生, 2021. 神奈川県小田原市におけるコウノトリ *Ciconia boyciana* の観察記録, 神奈川自然誌資料 (42) : 149-153.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

小林さやか・星野由美子・岩見恭子・川田伸一郎・加藤ゆき, 2020. 日本鳥学会 2019 年度大会自由集会報告 W01 第3回収蔵庫は宝の山! —標本の収集と保存を考える—, 日本鳥学会誌 69 (1) : 122-124.

[普及的著作等]

加藤ゆき, 2020. 鳥の翼の形. 第14回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話.

<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no14>

加藤ゆき, 2021. 冬鳥を楽しむ. 地球博「学芸」voice, 神静民報社, 2021 年 1 月 23 日発行.

加藤ゆき, 2021. レッドデータの鳥類. 自然科学のとりら, 27 (1) : 1.

加藤ゆき・広谷浩子, 2020. 外来生物問題をどのように伝えるのか? 自然史博物館の取り組み. 金属, 90 (9) : 45-51.

苅部治紀 (かるべ はるき) 動物学 (昆虫類) [論文]

苅部治紀・寺山隼人・加賀玲子・佐藤武宏・坂部貢, 2020. 岐阜県東濃地方の絶滅危惧種マダラナニワトンボ生息地における ネオニコチノイド系農薬汚染の実態. Tombo, 62: 26-37.

Karube H., Phan, Q. T., & Ngo Q. P., 2020. Additional records of Vietnamese Odonata. III. Odonata from central Vietnam, with description of a new species of *Heliogomphus* (Odonata: Gomphidae). Tombo, 62: 38-52.

Karube H., Shingo Sano S., & Phanarat., 2020. New record of *Chlorogomphus arooni* Asahina, 1981 (Odonata: Chlorogomphidae) from Cambodia. Tombo, 62: 38-52. 70-72.

Ishikawa H., & Karube H., 2020. A New Species of the Genus *Hexacentrus* (Orthoptera: Tettigoniidae) from Hahajima, the Ogasawara Islands, South Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 26 (2) : 333-335.

Ngo Q. P., Phan, Phan, Q. T., Karube H., Kompier T., Bui A. P., & Le H. S., 2020. Description of the female and notes on ecology of *Sieboldius nigricolor* (Fraser, 1924) from central Vietnam (Odonata: Gomphidae). A Journal of the International Dragonfly Fund IDF 152: 1-7.

苅部治紀・加賀玲子, 2021. 神奈川県内の絶滅危惧種キバネツノトンボの現状. 神奈川県立博物館研究報告 50: 137-141.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

苅部治紀・加賀玲子, 2020. 大東諸島からスナアカネを初確認. Tombo, 62: 136.

杉山美樹・苅部治紀・関東準之助, 2020. 八重山

諸島 (西表島) からタガメの再確認. Rostria, No. 65, 2020: 49-50.

苅部治紀, 2020. 危機が迫る絶滅危惧トンボ類の保全. 昆虫と自然, (742) : 2-3.

苅部治紀, 2020. ハネナガチョウトンボの現状と保全. 昆虫と自然, (742) : 18-21.

[普及的著作等]

苅部治紀, 2020. オガサワラシジミ衰亡から学ぶべきこと. 自然保護, (579) : 30-31.

苅部治紀, 2020. カンボジアの水生昆虫. 自然科学のとりら, 26 (2) : 10-11.

[学会発表等]

苅部治紀・亀田 豊, 2021. 水田だけではない 明らかにになった絶滅危惧水生昆虫へのネオニコチノイド系農薬の影響. 日本生態学会岡山大会

渡辺恭平 (わたなべ きょうへい) 動物学 (昆虫類) [論文]

Watanabe, K., 2020. Taxonomic study of the tribe Banchini (Hymenoptera: Ichneumonidae: Banchinae) from Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, Supplementary Series, (2) : 1-58.

Watanabe, K., 2020. Review of the genus *Gnathochorisis* Förster, 1869 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Orthocentrinae) from Japan, with description a new species. Japanese Journal of Systematic Entomology, 26 (1) : 48-52.

Watanabe, K., H. Mukai, H. Kitajima & M. Sueyoshi, 2020. The ichneumonid parasitoids of the fungus gnats genus *Neoempheria* Osten Sacken (Diptera: Mycetophilidae) infesting edible fungi in the sawdust-based cultivation houses. Japanese Journal of Systematic Entomology, 26 (1) : 53-61.

Morishita, S. & K. Watanabe, 2020. Review of the genus *Enizemum* Förster (Hymenoptera: Ichneumonidae: Diplazontinae) from Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 26 (1) : 153-156.

Taniwaki, T., A. Tamura & K. Watanabe, 2020. Species richness, abundance, and diversity of ichneumonid wasps in Japanese beech forests

- impacted by sika deer and sawfly herbivory. Entomological Science, 23 (4) : 393–404. (doi: <https://doi.org/10.1111/ens.12437>)
- Watanabe, K., 2020. Notes on the genus *Pellis* Sheng & Sun, 2014 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Banchinae), with a new record from Japan. Zootaxa, 4877 (2) : 386–390. (doi: 10.11646/zootaxa.4877.2.10.)
- Watanabe, K., 2020. Revision of the genus *Cymodusa* Holmgren, 1859 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Campopleginae) from Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 26 (2) : 201–205.
- Watanabe, K., 2020. New distribution records of the subfamily Tryphoninae (Hymenoptera, Ichneumonidae) in Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 26 (2) : 208–215.
- Riedel, M. & K. Watanabe, 2021. Contribution to the genus *Coelichneumon* Thomson in Japan (Hymenoptera, Ichneumonidae, Ichneumoninae). Zootaxa, 4948 (4) : 501–545.
- 渡辺恭平・瀬能 宏, 2021. 神奈川県小田原市で確認されたアシグロアオゴミムシ *Chlaenius (Pachydinodes) leucops* (Wiedemann, 1823) (コウチュウ目, オサムシ科). 神奈川自然誌資料, (42) : 65–70.
- 志村映実・櫻井大和・渡辺恭平・中濱直之・奥田真未・岩元明敏・岩崎貴也, 2021. 神奈川大学湘南ひらつかキャンパスにおける地表徘徊性甲虫相と建設以前からの変化. 神奈川自然誌資料, (42) : 77–86.
- 渡辺恭平・川島逸郎, 2021. 神奈川県箱根町におけるミズバチ *Agriotypus gracilis* Waterston, 1930 (ハチ目, ヒメバチ科) の再発見. 神奈川自然誌資料, (42) : 29–32.
- Watanabe, K., 2021. Taxonomic and zoogeographic study of the Japanese Phygadeuontinae (Hymenoptera, Ichneumonidae), with descriptions of 17 new species. Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science), (50) : 55–136.
- 小林純子・渡辺恭平, 2021. ゴキブリヤセバチ (ハチ目, ヤセバチ科) の秋田県からの新分布記録. 昆虫ニューシリーズ, accepted.
- Morishita, S. & K. Watanabe, 2021. Review of the genus *Diplazon* Nees, 1819 (Hymenoptera: Ichneumonidae: Diplazontinae) from Japan. Zootaxa, accepted.
- [著作・著書・調査報告書・資料等]
- 渡辺恭平・向井裕美, 2020. 第 10 章 シイタケを守る: ハエヒメバチの多様性と生態. 前藤薫 (編), 寄生バチと狩りバチの不思議な世界, pp. 201–217. 一色出版, 東京.
- 渡辺恭平・前藤 薫, 2020. 第 14 章 ハチの採集と同定. 前藤薫 (編), 寄生バチと狩りバチの不思議な世界, pp. 291–314. 一色出版, 東京.
- 渡辺恭平・齋藤 理, 2020. 神奈川県から発見されたタイワンヒラアシキバチ. 神奈川虫報, (201) : 89–90.
- 岩崎響亮・渡辺恭平, 2020. 酒匂川河川敷でヤナギハムシの生息を確認. 神奈川虫報, (201) : 88.
- 渡辺恭平, 2020. 日本産ウスマルヒメバチ族 Banchini の同定資料. 神奈川虫報, (202) : 14–21.
- 渡辺恭平, 2020. 日本および周辺地域に産するハチヒメバチ亜科 (ハチ目, ヒメバチ科) の属への検索表. 神奈川虫報, (202) : 43–55.
- 渡辺恭平, 2020. 南足柄市でカバオビドロバチを採集. 神奈川虫報, (202) : 86.
- 渡辺恭平・加藤誠士・加藤和紀, 2020. 狩川本流で採集されたシマゲンゴロウ. 神奈川虫報, (202) : 86.
- 渡辺恭平・樽 創・川島逸郎, 2020. 小田原市でイワツバメシラミバエを採集. 神奈川虫報, (202) : 81–82.
- 渡辺恭平, 2020. 岐阜県、愛知県、滋賀県から記録されたヒメバチについて—記録の訂正と追加—. つねきばち, (35) : 39–46.
- 渡辺恭平, 2020. 田塾 正氏より寄贈された対馬産のヒメバチ. つねきばち, (35) : 47–48.
- 渡辺恭平, 2020. 2019 年および 2020 年に神奈川県内で採集した昆虫の記録. 神奈川虫報, (203) : 66–81.
- 栗原草太・渡辺恭平, 2020. ミヤマカラスアゲハ春型を川崎市宮前区で採集. 神奈川虫報, (203) : 65.
- 山口華穂・渡辺恭平, 2020. 大井町でリュウキュ

ウムラサキを採集．神奈川虫報，(203)：19.
 [普及的著作等]
 渡辺恭平，2020年4月11日．家の近所で見つかった本州初記録のハチの話．第25回 神静民報 Chikyuhaku「学芸」voice. 神静民報社，小田原.
 渡辺恭平，2020. コオイムシ．広報おおい（大井町広報誌），(656): 16.
 渡辺恭平，2020. 恐怖の外来種 クビアカツヤカミキリ．自然科学のとびら，26（2）：1.
 渡辺恭平，2020. 昆虫を上手に採る術（すべ）．神奈川県立生命の星・地球博物館友の会通信，(109): 3.
 渡辺恭平，2020. 古民家に暮らすハチたち．かながわトラストみどり財団，機関誌ミドリ，(118)：6-9.
 渡辺恭平，2020. 新刊紹介「寄生バチと狩りバチの不思議な世界」．花蝶風月（神奈川昆虫談話会連絡誌），176: 7.
 渡辺恭平，2020. 虫本紹介～新しい本から古い本まで～．花蝶風月（神奈川昆虫談話会連絡誌），176: 2-6.
 渡辺恭平，2020. ヒメアカタテハ．広報おおい（大井町広報誌），662: 20.
 渡辺恭平，2020. 昆虫愛好家垂涎の珍虫 テントウゴキブリ．第10回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話．<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no10>
 渡辺恭平，2020. 世界最大級のハチ、タランチュラホーク．第18回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話．<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no18>
 渡辺恭平，2021. セイヨウミツバチ．広報おおい（大井町広報誌），(665): 16.
 渡辺恭平，2021. 学芸員の雑記帳①．神奈川県立生命の星・地球博物館友の会通信 111号，2-3.
 渡辺恭平，2021. モルフォチョウのおなか．第24回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話．<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no24>
 渡辺恭平，2021. 日本の国蝶 オオムラサキ．第28回生命の星・地球博物館学芸員の展示余

話．<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no28>
 渡辺恭平，2021. 博物館で世界昆虫めぐり．第37回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話．<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no37>
 [学会発表等]
 神保宇嗣・鈴木まほろ・渡辺恭平・持田 誠・平田慎一郎・大澤剛士，2021年2月13日．パネル討論会：これからの日本の生物多様性情報インフラを考える．地球規模生物多様性情報機構日本ノード．オンライン講演．

松本涼子（まつもと りょうこ）
 動物学（両生・爬虫類）

[論文]
 Dong, L., Matsumoto, R., Kusuhashi, N., Wang, Y. & Evans, SE. 2020. A new choristodere (Reptilia: Choristodera) from an Aptian-Albian coal deposit in China. *Journal of Systematic Palaeontology*, 18 (15) : 1223-1242.
 酒井佑輔・真鍋 真・松本涼子・藪本美孝・平山 廉．2020. 福井県大野市九頭龍地域の下部白亜系手取層群伊月層より産出する脊椎動物化石．福井県立恐竜博物館紀要 19: 105-112.
 [普及的著作等]
 松本涼子，2020. Professional：博物館学芸員．新版理科の世界 3. 大日本図書．p 122.
 松本涼子，2020. 世界最大のカメ、オサガメがやってきた．自然科学のとびら．26（4）：28-29.
 松本涼子，2020. 生命展示室の入り口で足を止めよう！メソサウルスの見どころ．第6回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話．<http://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no6>
 松本涼子，2020. カエルの鳴き声クイズに挑戦．第19回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話．<http://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no19>
 松本涼子，2020. カメの祖先だと考えられていたこともありましたが．第27回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話．<http://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/>

index.html#no27

松本涼子, 2020. 少ししゃがんでミズオオトカゲの骨格を見ると・・・. 第31回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話. <http://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no31>

[学会発表等]

Tada, S., Matsumoto, R., Hanai, T., Iwami, Y., Tomita, N., Tsuihiji, T. 2020. Evaluation of endothermy based on nasal structures in extant Amniota. 第20回東京大学生命科学シンポジウム. 2020年10月30日.

多田誠之郎・松本涼子・花井智也・岩見恭子・富田直樹・對比地孝亘 鼻腔構造にもとづく非鳥類恐竜類の代謝状態の解明. 日本古生物学会第170回例会(口頭発表). 2021年2月6日.
酒井佑輔・真鍋真・松本涼子・藪本美孝・平山廉 福井県大野市九頭竜地域の下部白亜系手取層群伊月層より産出する脊椎動物化石. 日本古生物学会第170回例会(口頭発表). 2021年2月7日.

鈴木 聡(すずき さとし) 動物学(哺乳類)
[論文]

花上諒大・崎山直夫・加登岡大希・鈴木 聡・石川 創・山田 格・田島木綿子・樽 創, 2021. 相模湾・東京湾沿岸で記録されたハクジラ亜目マイルカ科について. 神奈川自然誌資料, (42): 1-21.

[普及的著作等]

鈴木 聡, 2020. 比べてみよう! 5体のクマ剥製. 第13回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話. <https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no13>

鈴木 聡, 2020. 哺乳類の性的二型: イタチとゾウアザラシの意外な共通点. 自然科学のとびら, 26(2): 12-13.

鈴木 聡, 2020. ノウサギの衣替え. 神静民報.

鈴木 聡, 2021. 収蔵資料のウェブ公開. 自然科学のとびら, 27(1): 6-7.

広谷浩子(ひろたに ひろこ) 動物学(哺乳類)
[普及的著作等]

広谷浩子, 2021. ウェルカム・ベアの由来. 自然

科学のとびら, 27(1): 4.

広谷浩子, 2020. 最後の展示は人類です. 第7回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話. <http://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no7>

広谷浩子, 2021. サルの世界の楽しみかた. 第34回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話. <http://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no34>

加藤ゆき・広谷浩子, 2020. 外来生物問題をどのように伝えるのか? 自然史博物館の取り組み. 金属, 90(9): 45-51.

瀬能 宏(せのう ひろし) 動物学(魚類)
[論文]

山川宇宙・碧木健人・津田吉晃・瀬能 宏, 2020. 三重県で採集されたオカメハゼおよびクチサケハゼ. 南紀生物, 62(1): 22-25.

Araki, M., K. Uehara, H. Senou and H. Motomura, 2020. First records of the pughead-pipefish *Bulbonaricus davaoensis* (Teleostei: Syngnathidae) from Japan. Species Diversity, 25: 163-169. DOI: 10.12782/specdiv.25.163

Takigawa, Y., S. Kato, T. Nakano, K. Nakai, K. Tomikawa, S. Ishikawa, T. Fujita, K. Hosoya, S. Kawase, H. Senou, T. Yoshino and M. Nishino, 2020. The Vega Collection at the end of the nineteenth-century survey of Lake Biwa. In Kawanabe, H., M. Nishino and M. Masayoshi, eds., Lake Biwa: interactions between nature and people, Second editions, pp. 247-257. Springer, Cham.

Tea, Y.-K., A. C. Gill and H. Senou, 2020. Two new species of *Pseudojuloides* from Western Australia and southern Japan, with a redescription of *Pseudojuloides elongatus* (Teleostei: Labridae). Copeia, 108(3): 551-569. DOI: 10.1643/CI-19-316

崎山直夫・加登岡大希・瀬能 宏, 2021. 2018年に相模湾から得られたホホジロザメ(ネズミザメ目ネズミザメ科)と同湾および周辺海域における出現状況. 神奈川自然誌資料, (42): 47-52.

山下龍之丞・三井翔太・碧木健人・瀬能 宏,

2021. 神奈川県沿岸より初記録となるヌエハゼ *Siphonogobius nue* Shibukawa & Iwata, 1998 の形態と棲息環境. 神奈川自然誌資料, (42) : 57–64.
- Fujiwara, K., K. Kawama, N. Muto, H. Senou and H. Motomura, 2021. Validity and redescription of the poorly known Japanese blenny *Alticus orientalis* Tomiyama 1955 (Perciformes: Blenniidae). Ichthyological Research. DOI: <https://doi.org/10.1007/s10228-020-00798-8>
- 渡辺恭平・瀬能 宏, 2021. 神奈川県小田原市で確認されたアシグロアオゴミムシ *Chlaenius (Pachydinodes) leucops* (Wiedemann, 1823) (コウチュウ目, オサムシ科). 神奈川自然誌資料, (42) : 65–70.
- 矢頭卓児・手良村知功・江藤 暁・瀬能 宏, 2021. 静岡県沖から得られたホウボウ科魚類バケソコホウボウの形態変異. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (50) : 31–37.
- 田中翔大・斉藤洪成・瀬能 宏, 2021. 小笠原諸島父島から採集されたクチボソボラ *Neomyxus leuciscus* 稚魚とその生物地理学的考察. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (50) : 39–45.
- 波戸岡清峰・瀬能 宏・矢野幾維・鈴木寿之, 2021. 八重山諸島西表島から得られた日本初記録のコクハンカワウツボ (新称) とその出現状況. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (50) : 47–53.
- [著作・著書・調査報告書・資料等]
- 鈴木寿之・渋川浩一・矢野幾維著, 瀬能 宏監修, 2021. 新版日本のハゼ. 584 pp. 平凡社, 東京.
- 瀬能 宏, 2021. 総説: ハゼとはどんな魚か. 鈴木寿之・渋川浩一・矢野幾維著, 瀬能 宏監修, 新版日本のハゼ, pp. 17–21. 平凡社, 東京.
- [普及的著作等]
- 瀬能 宏, 2020. リュウグウノツカイの剥製の秘密. 第3回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話. <http://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no3>
- 瀬能 宏, 2020. あなたはハシナガチョウザメを見たか!? 第17回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話. <http://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no17>
- 西潟正人著, 瀬能 宏監修, 2020. 改訂新版日本産魚料理大全. 389 pp. 緑書房, 東京.
- 瀬能 宏, 2020. ウミテング (ウミテング科). 自然科学のとびら, 26 (4) : 25.
- 瀬能 宏, 2021. 謎のマグロ. 第30回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話. <http://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no30>
- 村瀬敦宣・緒方悠輝也・山崎裕太・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏編, 2021. 新・門川の魚図鑑 ひむかの海の魚たち. 358 pp. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡市.
- [学会発表等]
- Teramura, A., K. Koeda, H. Senou, K. Kikuchi and S. Hirase. 2020 (August 20–21). DNA barcoding of mesopelagic and demersal fish species on the continental shelf and upper slope in Japanese and Taiwanese waters. eDSBS2020, <https://dsbsoc.org/conferences/edsbs/>
- 手良村知功・小枝圭太・瀬能 宏・菊池 潔・平瀬 祥太朗. 2020 (December 22–23). DNA barcoding of mesopelagic and demersal fish species on the continental shelf and upper slope in Japanese and Taiwanese waters. バイタル研究会: 生物多様性のDNA情報学—自然の計測と生命の理解のために. 理化学研究所生命機能科学研究センター分子配列比較解析チーム.
- 手良村知功・小枝圭太・瀬能 宏・菊池 潔・平瀬 祥太朗. 2021 (March 28). 日本近海産深海性魚類のDNAバーコーディング. 令和3年度日本水産学会春季大会, オンライン.
- 大西 亘(おおにし わたる) 植物学(維管束植物) [論文]
- 大井和之・大西 亘, 2021. DNA バーコーディングで明らかにされた真鶴半島におけるビロウ *Livistona chinensis* (Jacq.) R.Br. ex Mart. (ヤシ科) の野生化. 神奈川自然誌資料, 42: 129–134.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

大西 亘, 2020. 自然史系博物館における標本の収集と管理. ニッチェ・ライフ 7: 19-25.

山本絢子・馬場しのぶ・大西 亘, 2020. エイザンスミレとトウカイスミレの推定雑種. FLORA KANAGAWA, 89: 1062-1063.

大西 亘・植物誌調査会藤沢グループ, 2020. ホシケチドメグサは2通りの種子散布機会を持つ. FLORA KANAGAWA, 89: 1063-1065.

大西 亘, 2020. 自然史博物館×デジタルアーカイブ — オープンサイエンスを拓く一例としての魚類写真資料データベース. 井上透(監)・中村覚(編), デジタルアーカイブ・ベーシックス 3 自然史・理工系研究データの活用, pp. 89-111, 233. 勉誠出版. 東京.

[普及的著作等]

大西 亘, 2020. 身近な木々に迫る危機. 神静民報, 2020年5月16日. 神静民報社, 小田原.

[学会発表等]

大西 亘, 2021年1月9日. 自然史系学術情報流通の現状と展望. 第25回情報知識学フォーラム, オンライン開催.

折原貴道(おりはら たかみち) 菌類学

[論文]

大前宗之・山本航平・折原貴道, 2020. *Microstoma apiculosporum* (チャワソタケ目ベニチャワソタケ科) の国内初記録. 日本菌学会会報, 61 (1) : 27-32.

折原貴道, 2020. ヤマイグチ亜科(イグチ科イグチ目)に含まれる日本産地下生菌の多様性と分類. 日本菌学会会報, 61 (2) : 63-80.

陶山 舞・高木 望・出川洋介・佐藤大樹・折原貴道, 2021. 神奈川県におけるフナムシ腸内寄生菌フナムシヤドリ(新称) *Asellaria ligiae* の生息状況. 神奈川自然誌資料, (42) : 53-56.

Yamamoto K., N. Endo, M. Ohmae, T. Orihara, 2021. *Balsamia oblonga* (Helvellaceae), a new species from a subalpine forest in Japan. Truffology, 4 (1) : 1-7.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

佐々木廣海・折原貴道, 2020. 北海道で開催された地下生菌観察会. 北海道キノコの会会報,

60: 13-15.

折原貴道, 2020. 前川研究室での思い出. 前川二郎教授定年退職記念誌, pp. 4-5, 前川二郎教授定年退職記念事業会, 鳥取.

折原貴道, 2021. 神奈川県博物館協会総合防災計画活動報告. 神奈川県博物館協会会報, (92) : 55-57.

[普及的著作等]

折原貴道, 2021. 学芸員ボイス『菌類標本を集める—その特殊性』. 神静民報 2021年2月20日付.

折原貴道, 2021. 新種発表の裏側—「ありふれた種」の標本を集める重要性. 自然科学のとりら, 27 (3) : 2-3.

[学会発表等]

折原貴道・中島稔・山本航平・大前宗之・畠山颯太・大塚健祐, 2020年6月20日. 国内ユーカリ植栽地から発生が確認された南半球原産の地下生菌3種について. 一般社団法人日本菌学会第64回大会, 大阪市立自然史博物館, 大阪.(現地開催中止; 講演要旨発表のみ)

折原貴道, 2021年1月7日. 分類学は実は最先端?—未知のきのここと向き合う楽しさ. 第20回日本分類学会連合公開シンポジウム「分類学のすすめ—未来の分類学者に向けて—」(国立科学博物館共催). オンライン開催.

石田祐子(いしだ ゆうこ)

植物学(植物生態学・植生学)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

石田祐子, 2021. 神奈川県立生命の星・地球博物館の収蔵資料公開スタート. FROLA KANAGAWA, 90: 1086-1087.

[普及的著作等]

石田祐子, 2020. リンドウの花の性. 第9回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話. <https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no9>

石田祐子, 2020. ハマオモト—博物館の歴史を知る! ? —. 第15回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話. <https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no15>

石田祐子, 2021. ハコネコメツツジは何属か? .

第 25 回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話．<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no25>

石田祐子，2021. 果実までもがトゲトゲのバラ．第 38 回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話．<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no38>

石田祐子，2020. 自宅でできる標本調査の下調べ．SHINANENSE 長野県植物誌改訂委員会 News Letter, Vol4 (3) (No.24) : 3-5.

石田祐子，2021. 富士箱根地域のサクラと言え
ば？ 神静民報．

[学会発表等]

石田祐子・中村幸人，2021 年 3 月 17-21 日．北
アルプス後立山連峰北部の高山荒原の植生地
理学的研究．日本生態学会第 68 回全国大会．
岡山（オンライン開催）．

大島光春（おおしま みつはる）

古生物学（哺乳類）

[論文]

大島光春・高橋 知・建見 聡・熊谷健太・三谷
恭子・ちがさき丸ごとふるさと発見博物館ア
クションプロジェクト運営部会，2021. エコ
ミュージアム活動における継続的な「企画展」
開催の意義—ちがさき丸ごとふるさと発見博
物館（神奈川県）の事例から—．展示学，（60・
61）：28-29. 日本展示学会．

[普及的著作等]

大島光春，2020. 最古の化石の最新情報．第 5
回生命の星・地球博物館学芸員の展示余
話．<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no5>

大島光春，2020. カモノハシ恐竜の鶏冠．第 16
回生命の星・地球博物館学芸員の展示余
話．<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no16>

大島光春，2020. カモノハシ恐竜の歯．第 32
回生命の星・地球博物館学芸員の展示余
話．<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no32>

大島光春，2020. 恐竜の歯．第 35 回生命
の星・地球博物館学芸員の展示余話．

<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no35>

大島光春，2020. トリケラトプスの歯．第 39
回生命の星・地球博物館学芸員の展示余
話．<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no39>

井島真知・大島光春，2020. 展示の評価．全科協
ニュース，50 (5) : 2. 全国科学博物館協議会．
井島真知・大島光春 編，2020. 特集 展示の評価．
全科協ニュース，50 (5) : 2-9. 全国科学博物
館協議会．

大島光春，2020 年 9 月 26 日．境界域に生きる．
神静民報．

大島光春，2021. ほね．よんでたのしむいきもの
づくしものづくし 11, pp. 1-4. いきものづく
しものづくし 11 別冊．福音館書店，東京．

大島光春，2021. 来館者が持参したデジタル・デ
バイスを解説に利用している現場から．全科協
ニュース，51 (2) : 2-3. 全国科学博物館協議会．

大島光春 編，2021. 特集 来館者が持参したデジ
タル・デバイスを解説に利用している現場か
ら．全科協ニュース，51 (2) : 2-9. 全国科学
博物館協議会．

[学会発表等]

大島光春・高橋 知・建見 聡・熊谷健太・三谷恭子・
ちがさき丸ごとふるさと発見博物館アクショ
ンプロジェクト運営部会，2020 年 9 月 20 日．
エコミュージアム活動における継続的な「企
画展」開催の意義—ちがさき丸ごとふるさと
発見博物館（神奈川県）の事例から—．第 39
回日本展示学会研究大会，オンライン．

樽 創（たる はじめ） 古生物学（哺乳類）

[論文]

Shota Mitsui, Hajime Taru, Fumio Ohe, Chien-
Hsiang Lin, Carlos Augusto Strüssmann, 2021.
Fossil fish otoliths from the Chibanian Miyata
Formation, Kanagawa Prefecture, Japan, with
comments on the paleoenvironment. Geobios,
64: pp. 47-63.

花上諒大・崎山直夫・加登岡大希・鈴木 聡・石川 創・
山田 格・田島木綿子・樽 創，2021. 相模湾・
東京湾沿岸で記録されたハクジラ亜目マイル

カ科について．神奈川自然誌資料，(42)：1-21.
前田大智・樽 創・福嶋 徹・高栞祐司・鏑本武久，
2021. 東京都昭島市の下部更新統加住層（上総
層群）から産出したシカ属の化石．神奈川県
立博物館研究報告（自然科学），(50)：21-29.

Kazue Ohishi, Masao Amano, Ken Nanamatsu,
Nobuyuki Miyazaki, Yuko Tajima, Tadasu K.
Yamada, Ayaka Matsuda, Mari Ochiai, Takashi
F. Matsuishi, Hajime Taru, Hajime Iwao and
Tadashi Maruyama, 2020. Serologic survey of
Brucella infection in cetaceans inhabiting along
the coast of Japan. The Journal of Veterinary
Medical Science, 82 (1)：43-46.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

渡辺恭平・樽 創・川島逸郎，2020. 小田原市で
イワツバメシラミバエを採集．神奈川虫報，
202: 81-82.

[普及的著作等]

樽 創，ゴンフォテリウムの眠った場所．第
11 回生命の星・地球博物館学芸員の展示余
話．[https://nh.kanagawa-museum.jp/www/
contents/1598971982765/index.html#no11](https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no11)

[学会発表等]

前田大智・樽 創・福嶋 徹・高栞祐司・鏑本武久，
2020 年 12 月 5 日．東京都昭島市の更新統加
住層から産出したシカ化石．愛媛大学理学部，
第 20 回日本地質学会四国支部総会・講演会．

田口公則（たぐち きみのり） 古生物学（貝類）
[論文]

志澤泰彦・田口公則，2021. 「展示見学ポートフォリ
オづくり」における概念地図法を用いた一考察
ー理科教育法の課外授業の実践報告ー．日本大
学生物資源科学部「教職課程紀要」，4: 51-59.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

松島義章・田口公則・川名ひろみ，2020. 材木
座町屋遺跡（材木座五丁目 946 番 1 番地）出
土の貝類．神奈川県・鎌倉市材木座町屋遺跡
（No.261）発掘調査報告書，221-236.

山下浩之・田口公則，2021. 総合研究「現代的な
視点による神奈川県地質史の構築」刊行にあ
たって 伊豆ー小笠原弧北端部の地質概要．
神奈川博調査研報（自然），16: 1-6.

田口公則・山下浩之・石浜佐栄子，2021. 足柄地
域の地質：フィリピン海プレートの北縁、伊
豆衝突帯の現場．神奈川博調査研報（自然），
16: 35-48.

石浜佐栄子・笠間友博・西澤文勝・田口公則・
山下浩之，2021. 衝突帯と付加体の間で形成
された大磯丘陵の地質と地史に関する再整
理．神奈川博調査研報（自然），16: 49-68.

柴田健一郎・野崎 篤・高橋直樹・笠間友博・西
澤文勝・田口公則，2021. 三浦半島の新第三系
と第四系：付加体一外縁隆起帯一前弧海盆堆
積物．神奈川博調査研報（自然），16: 69-106.

野崎 篤・笠間友博・西澤文勝・田口公則，2021.
多摩丘陵および下末吉台地の第四系．神奈川
博調査研報（自然），16: 107-123.

河尻清和・笠間友博・西澤文勝・野崎 篤・田口
公則，2021. 相模野台地に分布する中津層群
と段丘堆積物．神奈川博調査研報（自然），
16: 125-136.

[普及的著作等]

田口公則，2020. 天井に光る“地球”．第 22
回生命の星・地球博物館学芸員の展示余
話．[https://nh.kanagawa-museum.jp/www/
contents/1598971982765/index.html#no22](https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no22)

田口公則，2020. 100 号記念「歴代編集者
Q&A」．自然科学のとびら，26 (3)：20.

田口公則・松島義章，2021. フォトグラメトリで
タイワンシラトリの産状を再現．自然科学の
とびら，27 (1)：5.

[学会発表等]

田口公則，2020 年 7 月 14 日．地域石材を文化
地質学の文脈に活かす：大磯町の石材「シン
ドーサキの石」を例に．JpGU - AGU Joint
Meeting 2020: Virtual, オンライン．

田口公則・下出朋美，2021 年 1 月 30 日～2 月 7
日．「展示見学ポートフォリオ」の画像を用
いた来館者行動の分析：どのように巡り、何
を見て、感動したか．全日本博物館学会第 46
回研究大会，オンデマンド．

山下浩之（やました ひろゆき） 地学（岩石学）
[論文]

Basch, V., A. Sanfilippo, C. Sani, Y. Ohara, J. Snow,

O. Ishizuka, Y. Harigane, K. Michibayashi, A. Sen, N. Akizawa & H. Yamashita, 2020. Crustal accretion in a slow-spreading back-arc basin: Insights from the Mado Megamullion oceanic core complex in the Shikoku Basin. *Geochemistry, Geophysics, Geosystems*, <https://doi.org/10.1029/2020GC009199>.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

山下浩之・田口公則, 2021. 総合研究「現代的な視点による神奈川県地質史の構築」刊行にあたって 伊豆－小笠原弧北端部の地質概要. 神奈川博調査研報 (自然), 16: 1–6.

川手新一・河尻清和・山下浩之, 2021. 丹沢山地の地質－古伊豆・小笠原北端の衝突帯に関連して－. 神奈川博調査研報 (自然), 16: 13–34.

田口公則・山下浩之・石浜佐栄子, 2021. 足柄地域の地質：フィリピン海プレートの北縁、伊豆衝突帯の現場. 神奈川博調査研報 (自然), 16: 35–48.

石浜佐栄子・笠間友博・西澤文勝・田口公則・山下浩之, 2021. 衝突帯と付加体の間で形成された大磯丘陵の地質と地史に関する再整理. 神奈川博調査研報 (自然), 16: 49–68.

山口珠美・山下浩之・萬年一剛・小林 淳, 2021. 箱根火山の地質と形成史: 最近の研究レビュー. 神奈川博調査研報 (自然), 16: 137–160.

[普及的著作等]

山下浩之, 2020. 地球上に存在した巨大大陸「ゴンドワナ」. 公明新聞, 18806号, 2020年4月31日.

山下浩之, 2020. 余見の宝篋印塔に使われた石材. 広報おおい, 2020年9月1日.

山下浩之, 2021. 余見の宝篋印塔に使われた石材 その2. 広報おおい, 2021年3月1日.

山下浩之, 2021. 樹脂に埋め込まれた隕石. 第26回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話. <https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no26>

山下浩之, 2021. 最古の岩石は本当に最古? . 第36回生命の星・地球博物館学芸員の展示余話. <https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no36>

[学会発表等]

小原泰彦・沖野郷子・秋澤紀克・藤井昌和・針金

由美子・平内健一・石塚 治・町田嗣樹・道林克禎・Sanfilippo Alessio・Sani Camilla・Basch Valentin・Snow Jonathan・Sen Atlanta・谷 健一郎・山下浩之, 2020. 四国海盆の海洋下部地殻と最上部マントル：マドメガムリオン航海から探る. JpGU-AGU Joint Meeting 2020.

Basch, V., A. Sanfilippo, C. Sani, Y. Ohara, J. Snow, O. Ishizuka, Y. Harigane, K. Michibayashi, A. Sen, N. Akizawa & H. Yamashita, 2020. Crustal accretion in a slow-spreading back-arc basin: Insights from the Mado Megamullion oceanic core complex (Shikoku Basin, Philippine Sea). 2020 Fall Meeting, AGU, Dec. 10.

秋澤紀克・小原泰彦・石塚 治・山下浩之, 2020. 背弧海盆におけるマグマ活動：マドメガムリオン（四国海盆）の例. 日本地球化学会第67回オンライン年会.

小原泰彦・沖野郷子・秋澤紀克・藤井昌和・針金由美子・平内健一・石塚 治・町田嗣樹・道林克禎・Sanfilippo Alessio・Sani Camilla・Basch Valentin・Snow Jonathan・Sen Atlanta・谷 健一郎・山下浩之, 2020. 四国海盆海洋コアコンプレックスから明らかにする背弧海盆海洋地殻. 海と地球のシンポジウム, 東京大学大気海洋研究所・海洋研究開発機構, 2020.12.17

新井田秀一（にいだ しゅういち） 環境科学 [論文]

新井田秀一, 2021. 地球観測衛星画像やDEMを用いた神奈川の地形判読. 神奈川県立博物館調査研究報告 (自然科学), (16): 181–190.

[普及的著作等]

新井田秀一, 2020. 角スコープのような足柄平野. 地球博「学芸」voice, 神静民報社, 2020年7月11日発行.

石浜佐栄子（いしはま さえこ） 地学（堆積学） [論文]

石浜佐栄子・笠間友博・西澤文勝・田口公則・山下浩之, 2021. 衝突帯と付加体の間で形成された大磯丘陵の地質に関する再整理. 神奈川県立博物館調査研究報告 (自然科学), (16): 49–68.

田口公則・山下浩之・石浜佐栄子, 2021. 足柄地

域の地質：フィリピン海プレートの北縁、伊豆衝突帯の現場．神奈川県立博物館調査研究報告（自然科学），（16）：35-48.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

石浜佐栄子，2020. 学芸員が知りたいことを、来館者からの評価で測る～特別展「地球を『はぎ取る』」を例に～．全科協ニュース，50（5）：4-7.

[普及的著作等]

石浜佐栄子，2020. 100号記念「歴代編集者Q&A」．自然科学のとびら，26（3）：21.

石浜佐栄子，2020. どうやってここへ？展示室の切り取り・型取り・はぎ取り標本．自然科学のとびら，26（4）：26-27.

石浜佐栄子，2020. 小田原城の地層．地球博「学芸」voice，神静民報社，2020年6月13日発行．

石浜佐栄子，2021. これか～！今の地球じゃないコマチアイト．第8回学芸員の展示余話．Online，posted on 2020. 5. 5. <https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no8>.

西澤文勝(にしざわ ふみかつ) 地学(火山地質学)
[論文]

小林 淳・青木かおり・村田昌則・西澤文勝・鈴木毅彦，2020. 伊豆諸島，新島火山宮塚山イベント以降のテフラ層序と噴火史．火山，65: 21-40.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

西澤文勝，2020. テフラを見る．富士山考古学研究会編，富士山噴火の考古学：火山と人類の共生史，pp.186-189. 吉川弘文館，東京．

石浜佐栄子・笠間友博・西澤文勝・田口公則・山下浩之，2021. 衝突帯と付加体の間で形成された大磯丘陵の地質と地史に関する再整理．神奈川県立博物館調査研究報告（自然科学），16: 49-68.

笠間友博・西澤文勝，2021. 神奈川県に分布するテフラー関東ローム層と中期更新世の指標テフラー．神奈川県立博物館調査研究報告（自然科学），16: 161-180.

河尻清和・笠間友博・西澤文勝・野崎 篤・田口公則，2021. 相模野台地に分布する中津層群と段丘堆積物．神奈川県立博物館調査研究報告（自然科学），16: 125-136.

野崎 篤・笠間友博・西澤文勝・田口公則，2021. 神奈川県立博物館調査研究報告（自然科学），16: 107-123.

柴田健一郎・野崎 篤・高橋直樹・笠間友博・西澤文勝・田口公則，2021. 三浦半島の新第三系と第四系：付加体－外縁隆起帯－前弧海盆堆積物．神奈川県立博物館調査研究報告（自然科学），16: 69-106.

[普及的著作等]

西澤文勝，2020. 小田原の成り立ち．小田原市郷土文化館編，小田原市郷土文化館常設展示ガイド 小田原の歴史と文化，pp.14. 小田原市，小田原．

西澤文勝，2020. 日本最大の隕石展示、マンドラビラ隕石．第1回学芸員の展示余話．Online. Available from internet: <https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no1>

西澤文勝，2020. 写真もみてね！地球の熱と火山の噴火．第12回学芸員の展示余話．Online. Available from internet: <https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no12>

西澤文勝，2020. 噴火の様子が違うわけ．第20回学芸員の展示余話．Online. Available from internet: <https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1598971982765/index.html#no20>

[学会発表等]

村田昌則・小林 淳・青木かおり・高橋尚志・西澤文勝・鈴木毅彦 2020. 伊豆諸島，神津島火山における過去3万年間の噴出量．日本火山学会講演予稿集2020年度秋季大会：87.

山本真也・西澤文勝・吉本充宏・宮入陽介・横山祐典・菅 寿美・大河内直彦，2020. Compound-specific ^{14}C analyses of fatty acids as potential dating tools for lake sediments: A case study from Lake Kawaguchi, central Japan. Abstracts of JpGU-AGU Joint Meeting 2020: HQR06-05.

大坪 奏（おおつぼ かなで） アーカイブズ

[普及的著作等]

大坪 奏，2020年12月12日．コロナ禍の博物館とウェブサイト．神静民報．

3.4. レファレンス対応人数

2020年度の学芸員のレファレンス業務について、件数の表記が可能なものを分野別に、問い合わせの手法によって分類し、表に示した。

レファレンス対応人数・マスコミに掲載された件数

	研究者						研究者以外						レ フ ア レ ン ス 合 計	同 定 標 本 数	マ ス コ ミ 掲 載 数	マ ス コ ミ 放 送 ・ 放 映
	メ ー ル	電 話	手 紙	来 館	出 張	小 計	メ ー ル	電 話	手 紙	来 館	出 張	小 計				
昆虫類	113	12	6	2	0	133	263	57	8	24	387	739	872	1,301	5	2
魚類	331	17	2	12	0	362	725	40	6	51	10	832	1,194	6,702	5	11
両生・爬虫類	37	2	1	2	0	42	84	12	1	6	0	103	145	32	0	7
鳥類	25	9	0	1	0	35	93	25	4	1	0	123	158	177	0	3
哺乳類	2	0	0	0	0	2	52	5	1	48	222	328	330	1,813	2	2
その他動物	15	0	0	2	1	18	83	20	0	18	3	124	142	139	1	5
植物	13	0	1	3	2	19	108	24	10	7	13	162	181	243	0	5
菌類	43	10	8	13	8	82	58	21	10	32	14	135	217	225	2	1
古生物	26	0	0	3	0	29	39	2	0	12	1	54	83	15	0	0
地学	10	1	0	2	0	13	17	24	5	20	0	66	79	88	0	0
地球環境	2	0	0	1	0	3	8	6	0	6	0	20	23	32	0	0
合 計	617	51	18	41	11	738	1,530	236	45	225	650	2,686	3,424	10,767	15	36

マスコミ等の問合せ元（掲載未確認のものを含む）

	主な問い合わせ元(放送局・出版社等)	主な番組等
昆虫類	NHK/朝日新聞/神奈川新聞/伊豆毎日新聞/読売新聞熱海通信部/静岡新聞/タウンニュース/山と溪谷社	へんてこ生物アカデミー/昆虫すごいぜ/新日本風土記
魚 類	NHK/テレビ朝日/TBSテレビ/日本テレビ/DHCテレビ/毎日放送/中京テレビ/フジテレビ/FMヨコハマ/日本経済新聞社大阪本社/神奈川新聞/朝日新聞/タウンニュース	潜れ！さかなクン/シャキーン！/ダーウィンが来た！/ワイルドライフ/うたう旅～骨の髄まで届けます～/裸の少年/# 渋谷オルガン坂生徒会/東大王/そんなコト考えた事なかったクイズ！トリニクって何の肉！/?ザ！鉄腕！DASH!!/日本人のおなまえ！/ザワつく金曜日/冒険バイヤー/林先生の初耳学/ぐるぐるナインティナイン/相葉マナブ/ヒルナンデス/釣りびと万歳
両生・爬虫類	TBSテレビ/NHK/FMヨコハマ	東大王/なりきりムーニャン生きもの学園/ワイルドライフ/サイエンスZERO
鳥 類	TBSテレビ/タウンニュース	東大王
哺乳類	NHK/日本テレビ/TBSテレビ/テレビ東京	ダーウィンが来た！/ザ！鉄腕！Dash!!/東大王/世界一受けたい授業/所さんの学校では教えてくれないそこんトコロ！
その他動物	テレビ朝日/NHK/日本テレビ/フジテレビ/テレビ朝日/TBSテレビ/ABCテレビ/東京新聞	相葉マナブ/ミミクリーズ/嵐にしがれ/裸の少年/東大王/トリニクって何の肉!/?所さんの目がテン！/なりきり！ムーニャン生きもの学園/潜れ！さかなクン/ワイルドライフ/サイエンス/水曜日のダウンタウン/
植 物	株式会社 千代田ラフト/NHK/TBSテレビ/テレビ朝日	マチスコープ/東大王/裸の少年/羽鳥慎一モーニングショー/自然百景
菌 類	NHK/TVK/FMヨコハマ/読売新聞/神静民放社	ダーウィンが来た！/所さん！大変ですよ/カナフルTV
古生物		
地学		
地球環境	桂石文化振興財団	

3.5. 各種委員・役員・非常勤講師

委員・役員については、「役職名（必要に応じ機関・団体名）」の順に記載した。非常勤講師に関しては、「学校名、科目名」の順に記載した。査読については、和文誌については「雑誌名（依頼元）」を日本語で、欧文誌については「雑誌名（依頼元）」を欧文で記載した。

斎藤靖二

[委員・役員]

総務省 平和祈念館運営に関するアドバイザー

公益財団法人日本博物館協会理事

公益財団法人日本博物館協会「博物館研究」編集委員

公益財団法人日本博物館協会 棚橋賞・博物館活動奨励賞選考委員会委員

一般財団法人全国科学博物館振興財団評議員会議長

独立行政法人国立科学博物館附属自然教育園環境問題特別委員会委員

独立行政法人国立科学博物館契約監視委員会委員

国立研究開発法人海洋研究開発機構 地球掘削科学推進委員会委員長

聖光学院中学校・高等学校 SSH 運営委員会委員

公益財団法人東京地学協会会長（代表理事）

平田大二

[委員・役員]

全国科学博物館協議会理事

神奈川県博物館協会理事

独立行政法人国立科学博物館の評価に関する有識者会議委員（文化庁）

小田原市文化財保護委員会委員（小田原市教育委員会）

相模原市文化財保護審議会委員（相模原市教育委員会）

横須賀市文化財専門審議会委員（横須賀市教育委員会）

（一社）日本地質学会理事会理事

（公社）東京地学協会コンプライアンス委員会委員

（公社）東京地学協会外部アドバイザリー委員会委員

地学雑誌編集委員

地質の日事業推進委員会委員長

学校法人日本大学文理学部地球科学科・外部アドバイザー委員会委員

学校法人玉川学園 SSH 運営指導委員会委員
[査読]

地学雑誌（（公社）東京地学協会発行）

地学教育（日本地学教育学会）

田中徳久

[委員・役員]

植生学会編集委員（植生学会）

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）

かながわ生物多様性計画の改定に関する検討委員会委員（神奈川県）

神奈川県植物誌調査会運営委員

横浜植物会運営委員

大和市文化財保護審議会委員

茅ヶ崎市環境審議会委員

大磯町環境審議会委員

大磯町文化財専門委員

箱根町文化財保護委員

寺家ふるさと村「四季の家」管理運営委員会委員
[非常勤講師等]

神奈川大学理学部非常勤講師（前期）「地域の自然史」

桜美林大学非常勤講師（後期・集中）「野外安全管理」
[査読]

植生学会誌（植生学会）

佐藤武宏

[委員・役員]

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）

[非常勤講師]

神奈川大学理学部非常勤講師（前期）「地域の自然史」

日本大学生物資源科学部非常勤講師（後期）「博物館概論」

[査読]

神奈川自然誌資料

加藤ゆき
[委員・役員]
日本鳥学会監事（日本鳥学会）
神奈川県鳥類目録編集委員会委員（日本野鳥の
会神奈川支部）
周南市ツル保護協議会委員（山口県周南市）
相模原市環境影響評価審査会委員（神奈川県相
模原市）
[査読]
日本鳥学会誌（日本鳥学会）
神奈川自然誌資料

苅部治紀
[委員・役員]
日本トンボ学会会長
日本トンボ学会編集委員会委員長
日本トンボ学会自然保護委員長
日本甲虫学会自然保護委員
小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員会委員
環境省令和元年度絶滅のおそれのある野生生物
の選定・評価検討会昆虫分科会検討委員
環境省希少野生生物推進員
環境省小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議委
員 環境省グリーンアノール対策ワーキング
グループ 座長
環境省兄島陸産貝類保全プロジェクト会議検討
委員
林野庁小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理
委員会委員
林野庁小笠原諸島固有森林生態系修復事業アド
バイザー
東京都賀島列島植生回復調査検討委員会委員
東京都父島列島外来樹木対策検討委員会委員
東京都北進線改修事業に関わる専門家委員会委員
[査読]
Trombo（日本トンボ学会）
Aeschna（トンボ研究会）
保全生態学研究（日本生態学会）

渡辺恭平
[委員・役員]
日本昆虫学会代議員（日本昆虫学会）
日本昆虫目録編集委員（日本昆虫学会）

神奈川昆虫談話会幹事（神奈川昆虫談話会）
JBIF ワーキンググループメンバー
[査読]
Fauna Ryukyuana（琉球大学風樹館）
神奈川自然誌資料
Animal Systematics, Evolution and Diversity
（Korean Society of Systematic Zoology）
ZooKeys

松本涼子
[委員・役員]
日本古生物学会和文誌「化石」編集
白山市恐竜パーク運営委員
神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神
奈川県）
国立科学博物館協力研究員
[査読]
Palaeontology（英国古生物学会）
化石（日本古生物学会和文誌）
神奈川自然誌資料

鈴木 聡
[委員・役員]
日本哺乳類学会分類群名・標本検討委員会（日
本哺乳類学会）
中大型哺乳類分布調査検討委員（自然環境研究
センター）
神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神
奈川県）
自然誌学会連合博物館部会委員
[非常勤講師等]
神奈川大学理学部非常勤講師（前期）「地域の自
然史」
[査読]
Mammal Study（日本哺乳類学会）
Journal of Veterinary Medical Science（日本獣医
学会）
神奈川自然誌資料

広谷浩子
[委員・役員]
日本人類学会人類学普及委員（日本人類学会）
神奈川県鳥獣総合対策協議会サル対策専門部会

委員（神奈川県）
神奈川県西湘地域鳥獣対策協議会委員（神奈川県）
厚木市野生鳥獣対策会議委員（厚木市）
[非常勤講師等]
都留文科大学非常勤講師「博物館展示論」、「博物館資料保存論」
桜美林大学非常勤講師博物館実習「バリアフリー実習 1・2」
[査読]
神奈川自然誌資料

瀬能 宏
[委員・役員]
日本魚類学会代議員（日本魚類学会）
日本魚類学会副会長（代表理事）（日本魚類学会）
日本魚類学会自然保護委員希少海産魚問題検討部会委員（日本魚類学会）
日本魚類学会標準和名検討委員会委員長（日本魚類学会）
日本生物地理学会評議員（日本生物地理学会）
神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員長（神奈川県）
希少野生動植物種保存推進員（環境省）
絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会海水魚類分科会委員（環境省）
令和 2 年度農林水産技術会議研究課題設定部会（水産業の部）委員（神奈川県）
[査読]

タクサ
Cybium
魚類学雑誌（2 篇）
Ichthyological Research
Zootaxa
神奈川自然誌資料

大西 亘
[委員・役員]
日本植物分類学会植物データベース専門委員会委員長
デジタルアーカイブ学会評議員
神奈川県レッドリスト評価・選定委員会植物・菌類部会委員（神奈川県）
神奈川県植物誌調査会運営委員

種生物学会監査委員
[査読]
神奈川自然誌資料
折原貴道
[委員・役員]
日本地下生菌研究会会長
日本地下生菌研究会事務局
日本地下生菌研究会編集・出版統括
日本地下生菌研究会総会・シンポジウム担当
一般社団法人日本菌学会代議員
一般社団法人日本菌学会庶務担当幹事
一般社団法人日本菌学会 2020-2021 年度菌類観察会実行委員
一般社団法人日本菌学会第 65 回大会実行委員（シンポジウム企画）
日本菌学会関東支部企画幹事 [菌類観察会担当]
日本菌学会関東支部第 7 回勝本賞選考委員会委員
神奈川県レッドリスト選定・評価委員会植物・菌類部会委員（神奈川県）
神奈川県博物館協会総合防災計画推進委員会委員長
神奈川県博物館協会機能研究部会幹事
文部科学省科学技術・学術政策研究 科学技術予測センター専門調査員
[査読]
Journal of Fungi (MDPI)
神奈川自然誌資料
Fungal Systematics and Evolution (Westerdijk Fungal Biodiversity Institute, The Netherlands)

石田祐子
[委員・役員]
神奈川県植物誌調査会運営委員
長野県植物誌改訂委員
[査読]
植生学会誌
神奈川自然誌資料

大島光春
[委員・役員]
全科協ニュース編集委員（全国科学博物館協議会）

湘南台文化センターこども館運営委員会委員
茅ヶ崎市教育委員会文化生涯学習プラン推進委員会委員
[非常勤講師等]
帝京科学大学（後期）博物館経営論（分担）

樽 創
[委員・役員]
日本哺乳類学会分類群名・標本検討委員会（日本哺乳類学会）
神奈川地学会幹事
あきる野市文化財保護審議会委員（あきる野市教育委員会）
[査読]
神奈川自然誌資料

田口公則
[委員・役員]
日本地質学会生涯教育委員会委員
日本共生科学会編集委員
全日本博物館学会行事委員
神奈川県博物館協会第 68 回全国博物館大会プロジェクト委員
神奈川県地学会幹事
[非常勤講師等]
日本女子大学非常勤講師「博物館実習」

新井田秀一
[委員・役員]
箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員
[非常勤講師等]
日本大学生物資源科学部非常勤講師（後期集中）

「博物館展示論」
神奈川大学理学部非常勤講師（前期）「地域の自然史」

山下浩之
[委員・役員]
箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員
史跡江戸城石垣石丁場跡調査整備委員会専門委員（熱海市教育委員会）
史跡江戸城石垣石丁場跡調査整備委員会専門委員（伊東市教育委員会）
小田原市郷土文化館協議会委員（小田原市教育委員会）
[非常勤講師]
学校法人玉川大学農学部非常勤講師（後期）「地学」
学校法人玉川大学農学部非常勤講師（後期）「地学実験」

西澤文勝
[委員・役員]
箱根ジオパーク推進協議会幹事会役員
神奈川地学会幹事
[非常勤講師等]
公立大学法人東京都立大学大学院都市環境科学研究科地理環境学域非常勤講師（後期）「都市環境科学特別講義 4」
東京都立大学都市環境科学研究科地形・地質学研究室客員研究員
東京都立大学火山災害研究センター学外メンバー
[査読]
火山（日本火山学会）
地学雑誌（東京地学協会）

3.6. 講師依頼等

当博物館学芸員等への講師依頼件数を、依頼元と実施場所（館内・館外）の区分で一覧表に示した。行政機関・各種団体からの依頼については、実施日順にその内容を示した。（延べ件数集計のため、複数日にわたるものはそれぞれの実施日を計上している。独立行政法人は行政機関に含め集計した。）

なお、学校（小・中・高・大・養護等および教員研修）からの依頼については、「5.2. 学校教育への対応」（61～62 ページ）「5.3. 博物館実習」（62～63 ページ）に記載した。

講師依頼元の内訳

		小学校	中学校	高校	大学・短大 大学院	教員研修	行政機関	各種団体	合 計
館内	件数	1	1	3	12	0	0	3	20
	人数	12	189	57	99	0	0	41	398
館外	件数	6	0	1	0	1	19	8	35
	件数合計	7	1	4	12	1	19	11	55

行政機関・各種団体の依頼（館内実施）

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数	備考
9/5(土)	神奈川県植物相と博物館の役割	公益財団法人かながわトラストみどり財団	田中徳久	15	当館及びその周辺
9/9(水)	小田原ガイド協会ガイド養成講座「ジオパークⅠ」	NPO法人小田原ガイド協会	山下浩之	17	
9/26(土)	施設見学	神奈川理科サークル	田口公則 石浜佐栄子	9	

行政機関・各種団体の依頼（館外実施）

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数	備考
7/12(日)	子ども未来館プログラム 「はじめての人類学ー生命の誕生からホモ・サピエンスまでー」	江戸川区子ども未来館	広谷浩子	20	江戸川区子ども未来館
8/2(日)	箱根ビジターセンター夏休み催事「箱根虫塾」	一般財団法人自然公園財団	渡辺恭平	10	箱根ビジターセンター周辺
8/10(月)	箱根ビジターセンター夏休み催事「箱根虫塾」	一般財団法人自然公園財団	渡辺恭平	10	箱根ビジターセンター周辺
8/15(土)	姫の沢公園 昆虫観察会	姫の沢公園パートナーズ(熱海市ー指定管理者)	渡辺恭平	15	姫の沢公園
8/16(日)	夜の公園で昆虫観察会	県立おだわら諏訪の原公園 指定管理者おだわら諏訪の原公園パートナーズ	渡辺恭平	25	県立おだわら諏訪の原公園
8/22(土)	夜の公園で昆虫観察会	県立おだわら諏訪の原公園 指定管理者おだわら諏訪の原公園パートナーズ	渡辺恭平	25	県立おだわら諏訪の原公園
8/23(日)	江戸城石垣石丁場跡セミナー 石丁場跡をジオパークとして楽しむために-多賀の岩石について-	熱海市教育委員会	山下浩之		南熱海マリンホール
9/5(土)	地域防災及び街づくりへの情報提供	葉山下山口白石地区まちづくり推進協議会	平田大二		三浦郡葉山町長者ヶ崎付近
9/13(日)	きょうりゅうのふしぎ(午前：4歳～小学2年の親子) 恐竜のふしぎ(午後：小学3年～6年生)	大和生涯学習センター やまとみらい	大島光春		大和市文化創造拠点シリウス生涯学習センター

(次ページに続く)

(前ページから続く)

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数	備考
9/16(水)	小田原ガイド協会ガイド養成講座「ジオパークⅡ」	NPO法人小田原ガイド協会	山下浩之		巡検（博物館～早川）
9/26(土)	おおい自然園『酒匂川の岩石観察会』	大井町教育委員会	山下浩之	10	大雨増水のため大井町生涯学習センター（室内実習）
9/27(日)	すわのはらバッタ観察会	県立おだわら諏訪の原公園 指定管理者おだわら諏訪の原公園パートナーズ	渡辺恭平	50	県立おだわら諏訪の原公園
9/27(日)	きのご観察会	県立21世紀の森	折原貴道		県立21世紀の森園内
10/3(土)	災害への備えをどうするか	みらいふる鎌倉 （鎌倉市老人クラブ連合会）	平田大二	80	鎌倉市福祉センター
11/7(土)	くずはの家えのき会15周年記念講演「地球の楽しみ方-時間と空間を超えた旅-」	秦野市くずはの家えのき会	平田大二		秦野市立本町公民館
11/14(土)	おだわら市民学校基礎課程・専門課程「小田原の自然環境を学ぶ」	小田原市	斎藤靖二	56	小田原市生涯学習センターけやき
11/14(土)	おおい自然園展示会 ギャラリートーク	大井町教育委員会	山下浩之		大井町生涯学習センター
11/15(日)	平成2年度こども館ワークショップ事業「秋の自然ウォッチング」	藤沢市湘南台文化センター	大西 亘	20	湘南台文化センターこども館
11/19(木)	令和2年度HAKONE大学「箱根火山と富士火山」	箱根町教育委員会	西澤文勝	20	箱根町社会教育センター
11/21(土)	箱根ジオパークサポーター講座第2回「河原の地層や石ころを観察しよう」	箱根ジオパーク推進協議会	石浜佐栄子		JR御殿場線 谷峨駅周辺
11/25(水)	おだわら市民学校北条ゆかりの史跡巡り②～石垣山一夜城・早川石丁場～	小田原市文化部生涯学習課	山下浩之		石垣山一夜城・早川石丁場
11/26(木)	令和2年度HAKONE大学「ジオサイト探訪②」	箱根町教育委員会	西澤文勝	20	箱根町社会教育センター
11/28(土)	はだの生涯学習講座「ジオパーク～秦野の自然環境と地域振興の関係性～」	秦野市教育委員会	平田大二		秦野市立本町公民館
12/9(水)	講座「私たちの引地川～再生の軌跡をたどり、川の未来を考える～」第1回「川を通して環境を考える～都市河川の価値はどこにあるのか？～」	指定管理者 株式会社小小学館 集英社プロダクション 大和市生涯学習センター	荻部治紀		大和市文化創造拠点シリウス生涯学習センター
12/13(日)	「はじめての人類学—生命の誕生からホモ・サピエンスまで—」	江戸川区こども未来館	広谷浩子	15	江戸川区こども未来館
3/2(火)	かわさき市民アカデミー2020年度後期 自然Ⅱ(川崎学)講座『つぶさに観る自然の姿』神奈川県に残されていた縄文海進最盛期の汀線高度を知る	特定非営利活動法人川崎市民アカデミー	田口公則		川崎市生涯学習プラザ
3/25(木)	講演会「博物館における資料の増加と収蔵スペース不足の問題について」	千葉県立中央博物館	瀬能 宏		リモート開催

3.7. 学術交流

当館で開催された様々な学会や研究会などの総会・例会・講演会等について記載した。なお、「他団体・機関との連携行事」に記載がある、一般に公開した講演会は57ページに詳細を記載のため省略した。

実施団体	実施日	開催内容	講師等	実施場所等
魚の会	6/20（土）	総会	瀬能 宏	書面会議（58名）

3.8. 他施設・団体への協力

他博物館、学会などへの協力関係について、協力先、期間、内容、担当者等を記載した（開催日初日順）。

協力先団体名	実施日	協力内容等	担当者	実施場所等
神奈川県水産技術センター・ 神奈川県内各漁業協同組合	4/6（月）	相模湾沿岸ハマグリ資源調査	佐藤武宏	平塚市地先
	4/10（金）			
	4/17（金）			
	6/22（月）			逗子市地先
	11/13（金）			藤沢市地先
	3/1（月）			平塚市地先
	3/8（月）			
	3/15（月）			
箱根ジオパーク推進協議会幹事会	5/11（月）	幹事会への出席 学術部会への参加	飯田泰道 山下浩之 西澤文勝	小田原合同庁舎
	8/25（火）			
	11/4（水）			
	11/20（水）			
	1/20（水）			
	オンライン			
津山洋学資料館	7/4（土） ～9/22（火）	令和2年度夏季企画展「箕作博士の 水族館」展示等協力	瀬能 宏	津山洋学資料館
箱根ジオパーク推進協議会	書面開催	総会出席	平田大二	
神奈川キノコの会	10/25（日）	野外勉強会	折原貴道	小田原子どもの森公園 わんぱくらんど
				小田原市いこいの森
箱根ラリック美術館	11/24（火） ～3/31（水）	令和3年度企画展示「ルネ・ラリック の水のかたち」展示品のモチーフと なった魚類の同定および解説監修 （準備段階における協力）	瀬能 宏	箱根ラリック美術館

3.9. 外部研究者の受け入れ

調査研究活動に関する要項に基づき、外部研究者の受け入れを行っている。2020年度は外来研究員18名を受け入れた。なお、今年度の研究成果に関しては、Ⅲ 資料の項（105～113ページ）に掲載した。

3.10. 名誉館員

博物館名誉館員称号授与要項に基づき、館長として勤務した職員、学芸員として20年以上勤務し、かつ研究上特に業績のあった職員等を名誉館員に認定している。これまでに認定された「名誉館員氏名（認定年月日）」を以下に掲載する。

館長

濱田隆士 （2000年4月1日）（2011年逝去）

青木淳一 （2006年4月1日）

学芸員

高橋秀男 （2000年4月1日）（2019年逝去）

奥野花代子 （2009年4月1日）

村岡健作 （2000年4月1日）

山口佳秀 （2012年4月1日）

生出智哉 （2000年4月1日）

高桑正敏 （2012年4月1日）（2016年逝去）

松島義章 （2002年4月1日）（2021年逝去）

新井一政 （2013年4月1日）

中村一恵 （2004年4月1日）（2015年逝去）

勝山輝男 （2019年4月1日）

今永 勇 （2005年4月1日）

笠間友博 （2019年4月1日）

4. データバンク機能

博物館には、貴重な自然遺産を集積し、将来へ継承していく使命がある。ここでは、そのデータバンクとしての博物館の機能として、博物館資料の整備および利用状況をまとめた。

4.1. 資料概況

4.1.1. 収蔵資料登録実績

2021年3月31日現在の収蔵資料の登録実績は右表のとおりである。なお、開館以来年度ごとの資料登録実績に関しては、Ⅲ 資料の項（94～95ページ）に掲載した。この登録件数は、資料番号を付したものを計数しており、同一の資料番号に枝番を付したものは、加えて計数していない。また、Ⅲ 資料の項（95ページ）には、登録点数も掲載した。登録点数は、枝番を付したものも個別に計数した数である。

標本収蔵資料の登録実績

分 野	2019年度 までの 登録件数	2020年度 の 登録件数	合 計
維管束植物	329,686	13,217	342,903
植物群落	264	0	264
コケ	9,519	0	9,519
菌類・変形菌類	30,242	395	30,637
藻類	4,575	0	4,575
植物その他	1,725	0	1,725
魚類	55,239	3,136	58,375
哺乳類	5,831	232	6,063
鳥類	3,090	14	3,104
両生類	1,280	222	1,502
爬虫類	745	144	889
軟体動物	32,772	2,531	35,303
甲殻類	20,717	101	20,818
動物その他	114	0	114
昆虫	77,457	1,531	78,988
クモ	353	0	353
化石	18,923	407	19,330
岩石	14,564	1,581	16,145
鉱物	34,049	0	34,049
地質・ボーリング	6	0	6
はぎ取り	70	0	70
地学その他	23	1	24
衛星画像	1,110	0	1,110
合計	642,354	23,512	665,866

アーカイブズ収蔵資料の登録実績

分 野	2019年度 までの 登録件数	2020年度 の 登録件数	合 計
植物標本写真	1,179	81	1,260
魚類写真	196,534	6,710	203,244
哺乳類写真	101	155	256
鳥類写真	602	229	831
両生類写真	153	291	444
爬虫類写真	83	76	159
昆虫写真	1,104	1,118	2,222
クモ写真	1	0	1
衛星処理画像	162	1	163
景観画像	3,024	106	3,130
博物館活動	51,277	5,727	57,004
菌類細密画	498	0	498
甲殻類細密画	575	0	575
合計	255,293	14,494	269,787

4.1.2. 購入資料

[菌類] 合計 2 点

ヤミイロクヌギタケのレプリカ 1 点
ジャガイモタケのレプリカ 1 点

[昆虫] 合計 93 点

世界の昆虫コレクション

[魚類] 合計 33 点

世界の淡水魚類

[爬虫類] 合計 3 点

エリマキトカゲ剥製 1 点
グリーンバジリスク剥製 1 点
ブラウンバジリスク骨格 1 点

[哺乳類] 合計 1 点

ナマケモノ剥製 1 点

[古生物] 合計 1 点

プレシオソレックス産状レプリカ 1 点

[地質] 合計 1 点

地層型取り資料（足柄層群塩沢層） 1 点

[衛星画像] 合計 3 点

M7007 釧路沖 (D7007S-2) 1 点
M7026 南鳥島海域 (D7026S-2) 1 点
M7027 沖ノ鳥島海域 (D7027S-1) 1 点

4.1.3. 寄贈資料

寄贈を受け、2020 年度に博物館情報システムへの登録が完了した資料に関して、「資料名 件数（寄贈者（敬称略）」の順に記した。寄贈者が同一の場合には、当該年度の寄贈資料をまとめ、代表する資料名、合計件数を記した。なお、寄贈を受けたが、博物館情報システムに未登録の資料に関しては、本項には記載していない。

登録件数は、標本 23,512 件、アーカイブズ 14,494 件である。

[維管束植物] 合計 13,156 件

[菌類・地衣類] 合計 306 件

キツチダンゴ 1 件
コノハシメジ 1 件
コツチグリほか 6 件
クサウラベニタケほか 3 件
ナカグロアセタケ 1 件
クジラタケほか 35 件
タマゴタケ 1 件
トキイロヒラタケ 1 件
アカアシボソチチタケ 1 件

タカネイタチタケ類似種 1 件

ナガミノツチレイシタケ 1 件
ホソモジゴケ 1 件

ホシミノタマタケ属の一種 1 件
イヌワラビさび病菌 1 件
カシ類紫かび病菌ほか 2 件
ハナホウキタケ類似種 1 件
Phaeoisaria sp. 1 件
アセラリア・リギアエ 5 件
コウヤボウキさび病菌 1 件
チャセイヨウショウロ 2 件
イワヒメワラビさび病菌 1 件
Leucoscypha leucotricha 1 件
アミガサホウライタケ 1 件
スクレロガステル属の一種 1 件
イボセイヨウショウロ 1 件
ジャノヒゲ炭素病菌 1 件
ヌメリコウジタケ属の一種 1 件

ヌメリガサ科の一種 1 件

ウスカワタケ属の一種ほか 5件
フラジェロスキファ属の一種 1件
アカハチノスタケほか 4件
ハナヤスリタケ 1件
プレオスポラ科の一種 1件
ウメノキゴケほか 4件
サマツモドキ属の一種 1件

ヨシ類さび病菌ほか 2件
ウチキクロボシゴケほか 3件
キシメジ類似種 1件
コガネショウロタケ 1件

ヘクソカズラさび病菌ほか 104件
フミヅキタケ属の一種 1件
タブペスタロチア病菌 1件
アオゾメクロツブタケほか 3件
コガネショウロタケほか 2件
ヒロハヘビノボラズさび病菌ほか 7件

シバさび病菌 3件
アラゲキクラゲほか 10件
ハナガサイグチ 1件
ノボリリュウタケ属の一種ほか 25件

アセラリア・リギアエ 12件
タケ類赤衣病菌 1件
ハナホウキタケ類似種 1件
ヒメレンゲゴケほか 5件
ホシミノタマタケ 1件
キイロヒメベニヒダタケ〔仮称〕ほか 7件

キイロイグチ 1件
クロムラサキニガイグチ 1件

シロキツネノサカズキほか 8件
イロガワリ類似種ほか 2件
ウラベニガサ属の一種ほか 5件
レモンチチタケ〔城川仮称〕 1件

Orthopteromyces raphidophora Ri &
Degawa 1件
Rossbeevera bispora 1件

スマレ類さび病菌 1件
ヤリテンツキ黒穂病菌 1件
ユリ暗斑病菌 仮称 1件

[魚類] 合計 3,009 件

アユほか 19件〔いであ株式会社〕
ボウズハゼほか 129件〔パシフィックコンサルタンツ株式会社〔小田原市委託〕〕
カラドジョウほか 25件〔一寸木 肇〕
パラアンバッシス・ランガ 1件〔浦野貴士〕
イゴダカホデリ 1件〔岡部 久〕
クロトガリザメほか 144件〔下光利明〕
カスリハタほか 7件〔下瀬 環〕
テンジクハナダイ 1件〔加藤 晃〕
ドンコ 1件〔岩崎響亮〕
ヤギウオ 1件〔旗 薫〕
スミツキハナダイ 1件〔吉澤敏明〕
ホシフグほか 25件〔宮崎佑介〕
アゴアマダイ 1件〔宮澤正之〕
ヒメキチジほか 26件〔饗場空璃〕
タヌキベラほか 4件〔芹澤政喜〕
テングノタチ 1件〔熊谷翔太〕
メイタガレイほか 11件〔栗山義男〕
ツマグロスジハゼ 1件〔向井貴彦〕
ナミマツカサ 1件〔江森正典〕
ノドグロヒメアンコウ 1件〔江藤 暁〕
アヤヨシノボリほか 147件〔荒尾一樹〕
アカテンモチノウオほか 4件〔高瀬 歩〕
ウグイ 5件〔佐藤たまき〕
アサバガレイほか 36件〔坂本幸博〕
ウバザメ 1件〔崎山直夫〕
イトヒキコハクハナダイほか 90件〔桜井 雄〕
フタホシヒゲトラギスほか 5件〔三井翔太〕
タカハダカほか 5件〔三浦寛子〕
キュウセンほか 3件〔山口泰広〕
エゾウグイほか 28件〔山川宇宙〕
ショウサイフグほか 21件〔山田和彦〕
ボライタチウオほか 2件〔志賀靖弘〕
ゴコウハダカ 1件〔寺西聡子〕
キダイほか 380件〔手良村知功〕
メダイ 1件〔手良村知功・加藤柊也〕
ドジョウほか 4件〔重永明生〕
カワビシャほか 2件〔松沢陽士〕

クエ 1件 [松島義章]
 ダルマガレイ属未同定種ほか 5件 [新江ノ
 島水族館 (崎山直夫)]
 ヒガシマドジョウほか 21件 [諏訪 仁]
 シチセンスズメダイ 1件 [生物学研究所]
 ナガレメイタガレイ 13件 [西潟正人]
 ボロサクラダイ 1件 [石井宣之]
 ミナミメダカ(東日本型)ほか 6件 [川合英利]
 ヒオドシほか 52件 [前田達郎]
 インドオキアジほか 3件 [草野洋佑 (小田
 原市漁業協同組合)]
 マハタモドキほか 1162件 [村瀬敦宣]
 クロボウズギス 1件 [中西 健 (下田海中
 水族館)]
 ウミテング 1件 [中村良成]
 スズキほか 5件 [津田幸彦]
 テンジクハナダイ属未同定種ほか 2件
 [椎名雅人]
 ハナザメほか 347件 [田中 猛]
 ヒレナガユメタチほか 2件 [田中優平 (東京都
 島しょ農林水産総合センター八丈事業所)]
 リュウグウハゼほか 87件 [田中翔大]
 コケノコギリほか 3件 [島田和彦]
 トウカイスズメダイほか 3件 [棟方航平]
 アカエソ属未同定種ほか 37件 [棟方航平・
 加藤 晃]
 ホンモロコほか 8件 [馬場春都]
 ビワコオオナマズほか 9件 [馬淵浩司]
 ホトケドジョウ 4件 [八鍬隼之介]
 ヒナモロコほか 19件 [尾山大知]
 クマサカフグ 1件 [尾川泰将]
 シオイタチウオほか 6件 [服部伊吹]
 ヒナハゼ属の1種1ほか 7件 [碧木健人]
 ドボアテリナ・パラウエンシス 2件 [木村清志]
 アカモンガラほか 56件 [野村智之]
 ギムノトラックス・ポリウラノドン 1件
 [矢野維幾]
 シロカサゴ 1件 [立崎憲一]
 キバラヨシノボリ 5件 [鈴木寿之]
 ウミタナゴ 1件 [和田俊章]

[哺乳類] 合計 222 件
 ニホンザル 37 件

ホッキョクグマほか 3 件

ニホンザル 2 件
 ニホンザルほか 35 件
 タヌキ 1 件
 ニホンイノシシ 2 件
 ニホンアナグマ 1 件
 ニホンアナグマ 1 件
 タイワンザル 1 件
 ニホンザル 1 件
 タヌキほか 10 件
 タイワンジカほか 7 件
 ニホンザル 7 件
 ホッキョククジラ 1 件
 ツキノワグマほか 2 件
 ハクビシン 1 件
 ニホンザル 9 件
 ニホンテン 1 件
 ニホンジカ 1 件

 ニホンザル 1 件
 ニホンザルほか 85 件
 フタユビナマケモノ 1 件
 ニホンイノシシ 1 件
 ニホンザルほか 5 件
 ニホンジカほか 2 件
 ユビナガコウモリ 1 件
 オグロワラビーほか 3 件

[鳥類] 合計 5 件

ヤマドリ 1 件
 シロハラ 1 件
 カンムリバト 1 件
 セグロカモメ 1 件
 コサギ 1 件

[両生類] 合計 175 件

タゴガエル 1 件
 オオハナサキガエルほか 2 件

スマガエルほか 2 件
 ヤマアカガエルほか 3 件

モリアオガエルほか 29 件

ノーザン ツーラインド サラマンダー 1 件

ハコネサンショウウオほか 41 件

ツチガエルほか 55 件

アカハライモリ 1 件

モリアオガエルほか 9 件

トウキョウサンショウウオほか 4 件

レッド アイ ツリーフロッグほか 4 件

ツチガエル 1 件

アンダーソンサラマンダーほか 22 件

[爬虫類] 合計 116 件

シマヘビ 1 件

ニホンヤモリ 1 件

ニホンイシガメほか 3 件

タカチホヘビほか 3 件

エラブウミヘビ属未同定ほか 2 件

タイマイ 1 件

ニホンカナヘビほか 3 件

フトアゴヒゲトカゲ 1 件

ヒガシニホントカゲ 1 件

ニホンヤモリ 1 件

ニホンカナヘビほか 2 件

グリーンイグアナほか 33 件

カミツキガメ 1 件

インドホシガメ 63 件

[軟体動物] 合計 2,524 件

Valvata tricarinata ほか 2 件

オオカラミミズほか 2 件

クレオパトラガイほか 17 件

Thiara amarula ほか 8 件

Thiara 属の一種 2 件

Melanopsis tricarinata ほか 7 件

ツメタガイほか 2,225 件

フネアマガイ 1 件

ユウシオガイほか 3 件

マキミゾアマオブネほか 9 件

ツノダシヘナタリ 1 件

タイワンワスレほか 28 件

Elimia livescens ほか 33 件

サザナミマクラガイほか 89 件

ミワスレガイほか 72 件

Brotia pagodula ほか 2 件

Caecum crebricinctum ほか 4 件

オオヘビガイほか 19 件

[甲殻類] 合計 101 件

スジエビほか 5 件

フジテガニほか 27 件

タイワンヒライソモドキほか 14 件

オオキンセンモドキ 1 件

ウオノエ科・種未同定 4 件

ムツハアリアケガニほか 14 件

チゴイワガニほか 12 件

ガタバクベニツケガニほか 3 件

ヒラモクズガニ 1 件

ガタバクベニツケガニほか 9 件

アゴヒロカワガニほか 5 件

マメアカイソガニほか 6 件

[昆虫] 合計 1,110 件

オオイチモンジ 1 件

フタキボシケシゲンゴロウ 1 件

チャバネアオカメムシほか 2 件

コガタウツギヒメハナバチ 1 件

ヒメツノカメムシ 1 件

ヘラクヌギカメムシ 1 件

キバネツノトンボほか 8 件

ヒメオオメナガカメムシほか 56 件

ウスバシロチョウほか 1,026 件
ウツギヒメハナバチ 1 件
ヒョウモンチョウほか 12 件

[化石] 合計 113 件

サメ 87 件
ステゴロフォドン 1 件
ヴィンクティフェル・コンプトニ 1 件

ヴィンクティフェル・コンプトニほか 3 件

ヒゲクジラ 1 件
キダリス 1 件
下顎骨ほか 2 件
リコプテラ・ダヴィディ 3 件
ヒゲクジラ類ほか 9 件
レビドトゥス・マンテリイほか 5 件

[岩石] 合計 1,040 件

超高温グラニュライトほか 254 件
サフィリン超高温グラニュライトほか 2 件

サフィリン超高温グラニュライトほか 13 件

堇青石超高温グラニュライトほか 3 件

超高温グラニュライトほか 3 件

珪線石超高温グラニュライトほか 2 件

大型シュードリュースイトほか 1 件

玄武岩溶岩ほか 13 件

サフィリン超高温グラニュライトほか 6 件

コマチアイト 1 件

サフィリングラニュライト 1 件

大隅石超高温グラニュライトほか 33 件

ネフェリン閃長岩ほか 9 件

ザクロ石黒雲母流紋岩ほか 7 件

角閃岩捕獲岩 1 件
斑れい岩ほか 55 件
黒雲母流紋岩溶岩ほか 52 件

黒雲母流紋岩溶岩 1 件
アルカリ玄武岩ほか 148 件

火山礫凝灰岩ほか 82 件
ザクロ石片麻岩ほか 12 件
無斑晶質玄武岩ほか 4 件
ザクロ石流紋岩ほか 24 件
ガラス質流紋岩溶岩ほか 17 件

単斜輝石安山岩ほか 41 件
火山碎屑岩ほか 41 件
マリン岩ほか 53 件
含カンラン石複輝石安山岩ほか 32 件

モンチカイトほか 18 件
モンチカイトほか 2 件
角閃石アルカリ斑れい岩ほか 2 件

石灰珪質岩スカルンほか 46 件

大隅石超高温グラニュライトほか 33 件

玄武岩溶岩 1 件
炭酸塩チムニーほか 2 件
炭酸塩ノジュールほか 9 件

富士宝永テフラ 1 件
火山碎屑物（火山礫）1 件

火山碎屑物（火山灰）1 件
火山碎屑物ほか 3 件
火山碎屑物 1 件
始良 Tn テフラほか 4 件
火山碎屑物（火山灰）1 件
火山碎屑物（火山灰）1 件

火山碎屑物（火山礫）ほか 2件

火山碎屑物（火山礫）ほか 1件

[植物標本写真] 合計 1件

ラショウモンカズラ 1件

[魚類写真] 合計 5,456 件

ミギマキ×タカノハダイほか 13件[さかなクン]

アマゴ×ヤマメほか 4件 [バシフィックコン

サルタンツ株式会社（小田原市委託）]

キンブナほか 303 件 [阿部章夫]

オオニベ 1 件 [安達任伯]

サザナミトサカハギ 1 件 [伊部浩司]

イチモンズズメダイほか 8 件 [井越幸夫]

アカオビハナダイ 1 件 [井上啓子]

アブラハヤほか 9 件 [一寸木 肇]

イトヨリダイ科未同定属未同定種 1 件

[稲取漁協（小池氏）]

クエ 1 件 [稲葉美佐雄]

オハグロベラ属未同定種 1 件 [横関 修]

ヤミクモハゼ近似種 1 件 [岡田尚子]

ヤミクモハゼ近似種ほか 3 件 [岡田明日香]

ベラ科未同定属未同定種ほか 2 件 [屋本恵子]

クロトガリザメ 1 件 [下光利明]

カマストガリザメ 1 件 [下村亮太（小田原
魚市場）]

ユキフリソデウオほか 2 件 [加山藍子]

オヨギトラギス 1 件 [加藤昌一]

メイチダイ 1 件 [釜井昌二]

フタゴハゼ 1 件 [丸木敏裕]

ヤギウオ 1 件 [旗 薫]

テングノタチ 1 件 [吉岡健太郎]

ヒメウバウオほか 2 件 [吉田俊司]

ハウセキキントキほか 2 件 [吉田奈央]

マハタモドキ 1 件 [吉野達哉]

ヒメハナダイ 1 件 [吉澤敏明]

マハゼほか 4 件 [宮崎佑介]

アイゴほか 3 件 [橋本郁代]

サルゴセントロン・コルヌータム 1 件 [橋本博則]

アカブチムラソイほか 2 件 [橋本博典]

ヒメゴンベ 1 件 [桐谷範彦]

カラスダラ 1 件 [芹澤政善]

カスリフサカサゴほか 2 件 [金子裕昭]

スディアンテナリウス・サブテレス 1 件
[熊谷翔太]

フエダイほか 11 件 [栗岩 薫]

テングノタチ 1 件 [栗生裕二]

ヤミハタほか 62 件 [御宿昭彦]

ホウボウほか 13 件 [江藤幹夫]

キタノメダカ 1 件 [荒尾一樹]

カレイ科未同定属未同定種 1 件 [高橋 智]

デルタズメダイ 1 件 [高山優美]

フエフキダイ属未同定種ほか 14 件 [高瀬 歩]

マダラハタほか 5 件 [高田菜穂子]

モンヒモウミヘビ 1 件 [黒木清二]

スジコバン 1 件 [黒柳都夫]

ギンユゴイ 1 件 [黒澤ゆり]

モンツキハギほか 5 件 [黒澤敏弘]

アマクチビほか 4 件 [今関真二郎]

サンゴハナビスメリ 1 件 [今川 郁]

イトヒラアジほか 11 件 [佐藤 俊]

ダイダイヤッコ 1 件 [佐野利枝]

クロオビエビス 1 件 [斎藤正幸]

ニジエビスほか 2 件 [細井大生]

ツマジロオコゼ 1 件 [細木祐子]

サザナミダイほか 68 件 [坂本幸博]

クロコショウダイほか 3 件 [崎山直夫]

ボラ 1 件 [三浦寛子]

キハッソク 1 件 [三宮重徳]

クビアカハゼ 1 件 [山口明男]

キバラヨシノボリ 6 件 [山崎 曜]

サンゴタツほか 20 件 [山崎公裕]

マーカスミノカエルウオ 2 件 [山田智恵子]

アイスズメダイ 1 件 [山田博和]

オオヤマトカマス 1 件 [山田和彦]

マダラトラギスほか 12 件 [山本 敏]

クロオビエビス 1 件 [山本智之]

イワアナコケギンボほか 10 件 [山崎裕太]

アオギハゼ 1 件 [糸井泰久]

アゴアマダイ属未同定種 1 件 [寺師純子]

キバラヨシノボリ 12 件 [鹿野雄一]

ニッコウイワナ 1 件 [柴崎弘太朗]

ヒレコダイほか 24 件 [手良村知功]

オオヨシノボリほか 29 件 [住倉英孝]

ハナザメほか 16 件 [緒方悠輝也]

ヒメフエダイほか 2件 [小杉正則]
ツマジロオコゼ 1件 [小谷明日香]
アカハラヤッコほか 18件 [小野 均]
イナズマタテガミカエルウオ 1件 [小林恵美子]
シロオビハゼほか 404件 [松野清伯]
アマクチビ 1件 [上田浩彰]
ネズミギスほか 45件 [新宮邦彦]
クロオビエビス 1件 [森 健司]
アワセイソハゼ属未同定種 1件 [森下 修]
モヨウタケウツボほか 9件 [森山 敦]
スミゾメハナハゼ 1件 [森田康平]
アカテンコバンハゼ 1件 [諏訪 誉]
タカハヤ 1件 [西野弘晃]
クロトガリザメ 1件 [西野勇馬]
ヤイトハタほか 2件 [青木]
ウナギギンポ 1件 [石井祥太]
ナミハタ 1件 [石井宣之]
ブラウントラウトほか 11件 [石原龍雄]
アオスジモンガラほか 15件 [石崎宏人]
パラケイリヌス・ベラエ 1件 [石野昇太]
キバラヨシノボリ 7件 [赤塚義之]
ドワーフ・スリングジョウ・ラスほか 1,353件
[浅野 勤]
チカメタカサゴ 1件 [前田健児]
メイチダイ属の1種1ほか 12件 [前田達郎]
アオスジテンジクダイほか 2件 [前田優子]
カマストガリザメ 1件 [草野洋佑 (小田原
市漁業協同組合)]
マサゴハゼほか 242件 [村瀬敦宣]
ペトロスキルテス・ゼスタスほか 2件 [大山貴弘]
クマノカクレウオ属未同定種ほか 2件
[大塚幸彦]
テンス属未同定種 1件 [大塚理人]
アケボノハゼほか 3件 [池田宜生]
ウシマンボウ 1件 [中谷智美]
ハナザメ 1件 [中島田正希]
ヒレコダイ 1件 [中澤 啓]
ウミシヨウブハゼ属未同定種ほか 38件
[中澤博子]
カスリハタ 1件 [長谷川大樹]
シボリ属未同定種 1件 [長嶋祐成]
ヤセアマダイ 1件 [長尾正樹]
オナガウツボ 2件 [鳥越 翔]

キビレアカレンコほか 4件 [津田幸彦]
プテラゴグス・フラジェリフェルほか 7件
[津波古 健]
ウチウミマダラエソ 1件 [辻 隼人]
ミナミキントキほか 3件 [田村有子]
セダカダイミョウサギほか 7件 [田中宏幸]
カマストガリザメほか 15件 [田中弘文]
リュウグウハゼほか 48件 [田中翔大]
アケゴロモヘビギンポ・ハクテンヘビギンポ
未確定種ほか 7件 [渡井幹雄]
ミナミヒメハゼほか 6件 [渡邊浩昭]
イシダイ 1件 [土屋駿和]
コモンハタ 1件 [島田和彦]
ワキグロアカフエダイほか 7件 [東 智弘]
マダラトビエイほか 444件 [藤田 轟]
メイチダイ属未同定種ほか 2件 [藤田晴大]
コイほか 5件 [内田大貴]
スズメダイ科未同定種 1件 [内田武志]
カミソリウオほか 1,375件 [内野啓道]
ミナミハナダイほか 396件 [内野美穂]
ヒラスズキほか 7件 [日浦大稀]
ヤスジニセモチノウオほか 55件 [任 賢治]
イトヒキヌメリ属未同定種 1件 [白川直樹]
アゴアマダイ科未同定属未同定種ほか 2件
[八木克憲]
イワサキスズメダイ 1件 [尾関健二]
ベンガルフエダイ 1件 [尾崎広史]
イラほか 5件 [尾川泰将]
ホオジロザメ 1件 [布施友輝]
フタホシフエダイ 1件 [服部伊吹]
シミズシマイサキほか 12件 [福地伊芙映]
スマレエビス 1件 [豊川健人]
ササノハベラ属未同定種 1件 [豊嶋康志]
マダイ 1件 [北嶋 円]
ギンカガミ 1件 [堀口和重]
クモハゼ属の1種ほか 2件 [木曾敦子]
ヒメフエダイほか 2件 [野口洋昌]
カマストガリザメ 1件 [矢嶋 寛 (魚國)]
ツマリテングハギほか 9件 [有山 誠]
チゴダラほか 52件 [有馬義裕]
モンツキカエルウオほか 2件 [有馬啓人]
パラケイリヌス・ベラエほか 3件 [立岡博之]
アイスズメダイほか 16件 [立崎憲一]

シマイソハゼ属未同定種 1件 [鈴木 徹]
トゴットメバル 1件 [鈴木康裕]
カエルアンコウ 1件 [鈴木晋一]
ホシハゼ属近似属 1 の 1 種 1 ほか 8 件
[鈴木直司]
ミナベヒメジほか 15 件 [鈴木美智代]
コヒレダルマザメ 1 件 [鰐淵理太]
ニタリ 1 件 [眞田樹也]
イタチザメ 1 件 [濱田秀昭]

[哺乳類写真] 合計 128 件

ニホンアナグマほか 2 件
シベリアイタチ 1 件
シベリアイタチほか 4 件
キツネ 1 件
アマミノクロウサギほか 16 件
シベリアイタチほか 6 件
ニホンイノシシほか 2 件
アライグマほか 6 件
ハクビシンほか 11 件
イエネコほか 9 件
ニホンイタチほか 2 件
ニホンテンほか 10 件
アフリカゾウほか 31 件
ニホンイノシシほか 4 件
イエネコほか 6 件
ニホンアナグマ 1 件
カピバラ 1 件
ニホンイタチほか 14 件
シベリアイタチ 1 件

[鳥類写真] 合計 31 件
ツバメチドリほか 29 件
コオリガモほか 2 件

[両生類写真] 合計 159 件

アズマヒキガエルほか 4 件

モリアオガエルほか 4 件
モリアオガエルほか 2 件
トノサマガエル 1 件
タゴガエルほか 145 件

ニホンアマガエルほか 3 件

[爬虫類写真] 合計 69 件

アオダイショウ 1 件
グリーンアノール 1 件

ニホンイシガメ 1 件
シロマダラ 1 件
ニホントカゲほか 3 件

ヤマカガシほか 55 件

ニホンカナヘビ 5 件

ニホンヤモリ 2 件

[景観画像] 合計 1 件

ラショウモンカズラ生育地 1 件

4.1.4. 職員採集その他による資料（新たに登録されたもの）

標本収蔵資料の登録実績

分 野	登録件数	分 野	登録件数	分 野	登録件数	分 野	登録件数
維管束植物	61	魚類	127	甲殻類	0	鉱物	0
植物群落	0	哺乳類	10	動物その他	0	地質・ボーリング	0
コケ	0	鳥類	9	昆虫	421	はぎ取り	0
菌類・地衣類	89	両生類	47	クモ	0	地学その他	1
藻類	0	爬虫類	28	化石	294	衛星画像	0
植物その他	0	軟体動物	7	岩石	537		
合 計							1,631

アーカイブズ収蔵資料の登録実績

分 野	登録件数	分 野	登録件数	分 野	登録件数	分 野	登録件数
植物標本写真	80	両生類写真	132	衛星処理画像	1	甲殻類細密画	0
魚類写真	1,254	爬虫類写真	7	景観画像	105		
哺乳類写真	27	昆虫写真	1,118	博物館活動	5,727		
鳥類写真	198	クモ写真	0	菌類細密画	0		
合 計							8,649

4.2. 図書資料収集状況

2020 年度に受け入れた和書の冊数は、購入が 160 冊、寄贈が 1,025 冊、編入が 2 冊であった。洋書については、購入が 5 冊、寄贈が 55 冊であった。受入図書の合計は 1,247 冊である。そのほか CD-ROM の寄贈が 9 タイトルであった。

2020 年度受入図書（冊数）

	購入	寄贈	編入	管理換	合計
和書	160	1,025	2	0	1,187
洋書	5	55	0	0	60
合計	165	1,080	2	0	1,247

2021 年 3 月 31 日現在の所蔵資料総数

分野	登録数		分野	登録数	
国内刊行図書	31,408	(冊)	寄贈国外雑誌	688	(タイトル)
国外刊行図書	4,787	(冊)	ビデオソフト	332	(巻)
購入国内雑誌	15	(タイトル)	CD-ROM	77	(タイトル)
購入国外雑誌	8	(タイトル)	マイクロフィルム	34	(リール)
寄贈国内雑誌	3,299	(タイトル)			
合計				40,648	(点)

4.3. 資料利用状況

4.3.1. 研究目的の利用

博物館資料について、特に学術上の研究のため利用する場合、「資料の特別利用」の制度にて資料利用を可能にしている。館外貸出承認申請書を提出し、承認を受けることで、博物館資料を閲覧、計測、撮影、掲載などに利用することが可能である。2020年度について、特別利用の利用数は次のとおりである。

分野別の利用件数

			閲覧			撮影			解析			その他			合計			
			人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	
動物	哺乳類	標本							3	26	26	1	4	4	4	30	30	
		画像																
		属性																
	鳥類	小計							3	26	26	1	4	4	4	30	30	
		標本																
		画像																
		属性																
		小計																
		両生類	標本							17	99	105				17	99	105
	画像																	
	属性																	
	爬虫類	小計							17	99	105				17	99	105	
		標本																
		画像																
		属性																
		小計							17	99	105				17	99	105	
		魚類	標本				2	428	428	59	1,354	1,489				61	1,782	1,917
	画像					1	1	1	28	190	401	2	33	38	31	224	440	
	属性								5	9,958	11,167				5	9,958	11,167	
		小計				3	429	429	92	11,502	13,057	2	33	38	97	11,964	13,524	
		昆虫	標本							12	2,782	2,782				12	2,782	2,782
			画像															
	属性																	
		小計							12	2,782	2,782				12	2,782	2,782	
		軟体動物	標本							6	20	159				6	20	159
			画像															
	属性																	
	甲殻類	小計							6	20	159				6	20	159	
その他動物		標本																
		画像																
	属性																	
植物	小計																	
	標本	33	33	33				2	7	7				35	40	40		
	画像	2	3	3										2	3	3		
	属性																	
菌類	小計	35	36	36				2	7	7				37	43	43		
	標本							2	2	6				2	2	6		
	画像																	
	属性																	
古生物	小計							2	2	6				2	2	6		
	標本							3	23	464				3	23	464		
	画像																	
	属性																	
地球環境	小計							3	23	464				3	23	464		
	標本							3	3	43				3	3	43		
	画像																	
	属性																	
景観画像	小計							3	3	43				3	3	43		
	画像																	
	属性																	
	小計																	
博物館	画像																	
	属性																	
	小計																	
	合計		35	36	36	3	429	429	140	14,464	16,649	3	37	42	181	14,966	17,156	

利用について通常の閲覧利用は「閲覧」とし、特に撮影を伴うものを「撮影」、データ解析を目的とするものを「解析」、「その他」には、学術発表利用（学会等発表、論文発表での画像掲載等）を含めた。

標本：実物標本、レプリカ等；画像：フィルム・プリントなどの画像、デジタルカメラやスキャン等によるデジタル画像；属性：標本情報

4.3.2. 研究目的以外の利用

博物館資料について、資料を借用し普及・教育などに利用する場合、「資料の館外貸出し」の制度にて資料利用を可能にしている。館外貸出承認申請書を提出し、承認を受けることで、博物館資料を借用し、展示、教材利用、掲載・放映などに利用することができる。2020 年度について、館外貸出の利用数は次のとおりである。

分野別の利用件数

			展示			教材			掲載・放映			その他			合計		
			人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数
動物	哺乳類	標本	1	1	1	7	42	51	3	3	11				11	46	63
		画像							3	11	3				3	11	3
		属性															
		小計	1	1	1	7	42	51	6	14	14				14	57	66
	鳥類	標本				1	1	13							1	1	13
		画像															
		属性															
		小計				1	1	13							1	1	13
	両生類 爬虫類	標本				1	3	6	1	1	1				2	4	7
		画像															
		属性															
		小計				1	3	6	1	1	1				2	4	7
	魚類	標本	1	5	5	1	2	4	2	10	10				4	17	19
		画像	3	35	40	1	1	1	43	483	605				47	519	646
		属性															
		小計	4	40	45	2	3	5	45	493	615				51	536	665
	昆虫	標本															
		画像	1	3	3				1	2	2				2	5	5
		属性															
		小計	1	3	3				1	2	2				2	5	5
	軟体動物 甲殻類 その他動物	標本															
		画像	1	1	1				1	4	4				2	5	5
		属性															
		小計	1	1	1				1	4	4				2	5	5
植物	標本	1	9	9										1	9	9	
	画像							1	2	2				1	2	2	
	属性																
	小計	1	9	9				1	2	2				2	11	11	
菌類	標本							1	1	1				1	1	1	
	画像																
	属性																
	小計							1	1	1				1	1	1	
古生物	標本	8	82	361										8	82	361	
	画像							2	3	3				2	3	3	
	属性																
	小計	8	82	361				2	3	3				10	85	364	
地球環境	標本	11	87	129	1	4	4							12	91	133	
	画像				2	6	6	15	31	36				17	37	42	
	属性																
	小計	11	87	129	3	10	10	15	31	36				29	128	175	
景観画像	画像																
	属性																
	小計																
博物館	画像																
	属性																
	小計																
合計			27	223	549	14	59	85	73	551	678				114	833	1,312

標本：実物標本等；画像：フィルム・プリントなどの画像、デジタルカメラやスキャン等によるデジタル画像；属性：標本情報

4.4. 資料燻蒸

博物館資料を良好な状態で保存するために燻蒸を行った。

大収蔵庫の燻蒸

2020年6月15日から19日まで、酸化エチレン・テトラフルオロエタンの混合ガス（混合比、酸化エチレン15%、テトラフルオロエタン85%）による殺虫、殺卵、殺カビを目的とした燻蒸を行った。なお、例年燻蒸期間中は休館の措置が取られる（今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対応のため臨時休館中）。

燻蒸装置を使った燻蒸

標本製作室に設置されている燻蒸装置を使用し、酸化エチレン・テトラフルオロエタンの混合ガスによる殺虫、殺卵、殺カビを目的とした燻蒸を行った。鳥獣はく製や昆虫標本、書籍などを対象とし13回実施した。

5. 学習支援機能

県民の生涯学習活動を様々な場面で支援することは、博物館の社会的使命の一つである。当館ではこれに応えるために企画情報部を組織し、事務職員と研究職員（学芸員）とが協力態勢をとっている。この中で、県民の生涯学習支援を多種多様な場面で数多く進めるとともに、学校教育支援にも取り組んでいる。

近年、県民の学ぼうとする意欲が高まる中で、生涯学習ニーズに応えるため、自然史博物館である当館の特質を活かした自然科学講演会、各種の講座などの学習支援事業を展開している。

また、学校教育における支援要請、理科等の教科学習、総合的な学習の時間、インターンシップの受け入れ、教員の各種研修の受け入れ、教材開発の支援などに応えた。

さらに、一般の方々や児童・生徒の自学自習の場として、ミュージアムライブラリーを設けている。ここには博物館学習指導員が配置され、種々の学習相談に応じている。特に学校を中心とする団体での利用者には、要請に応じて学習指導員によるガイダンスの便宜も図っている。

県民のボランティア活動等を受け入れ、支援することは、広く生涯学習の機会を確保することであるとともに、博物館の社会的使命として重要な柱である。そのためボランティア活動の受け入れや養成講座の実施、博物館実習等の受け入れ、博物館友の会の運営支援などの活動を通じて、県民・地域とともにある博物館を目指している。

5.1. 生涯学習への対応

5.1.1. 自然科学講演会等

本年度開催された、自然科学に関する館主催・共催の講演会・シンポジウム、学会の開催に関連して一般公開のかたちで実施（予定）された講演会等の行事について、次表に記した。

自然科学講演会（博物館行事に関連した一般の方々向け講演会）

内容・演題 等	実施日	実施場所	対象者	講師名	講師所属	人数
企画展関連講演会 ゴンドワナ大陸を語る	5/6(水・祝)	SEISAミュージアムシアター	一般	白石和行 有馬 眞	元国立極地研究所長 横浜国立大学名誉教授	中止
計						0

他の団体・機関との連携行事（博物館をとりまく諸機関との連携による講演会・シンポジウム・研究会等）

行事名	実施日	実施場所	対象者	講師名	講師所属	人数
日本測地学会との共催 2020年度秋季大会 講演会	10/21(水)	講演会はZoom利用のオンライン形式で実施	学会員 一般			中止
	～					中止
	10/23(金)					中止
日本測地学会との共催 小中学生向け公開講座	10/24(土)	感染症対策のため オンライン形式で実施	小中学生			－
魚の会 令和2年度第1回講演会 「東南アジアでの沿岸魚類調査－未知の魚と図鑑作り」	10/25(日)	西側講義室	会員 一般	木村清志	三重大学名誉教授	15
魚の会 令和2年度第2回講演会 「駿河湾の深海ザメの話」	11/22(日)	西側講義室	会員 一般	田中 彰	東海大学客員教授	20
防災講演会 －関東大震災をふりかえり、これからの防災に活かす－ 『関東大震災における小田原市根府川地区の被災状況に学ぶ』 『関東大震災を乗り越えて』	3/27(土)	講義室	会員 一般	井上公夫 内田昭光	(財)砂防フロンティア整備推進機構 小田原市根府川 離れの宿「星ヶ山」	中止
計						35

5.1.2. 講座等

博物館が実施した講座を当日受付の講座と事前申し込みが必要な講座に分け記載した。同名講座でも、募集・受付の異なるものは別講座とした。神奈川県総合教育センターの研修として受講した場合、その人数を記載した。

当日受付の講座

2 講座のべ3 日間を予定したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

当日受付の講座

No.	講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
1	夏休み昆虫ひろば	8/8(土)	東側講義室	どなたでも	渡辺恭平	-	-	中止
2		8/22(土)			荏部治紀	-	-	中止
3	模型水路で川のはたらきを観察しよう	8/10(月・祝)	実習実験室	どなたでも	石浜佐栄子	-	-	中止

事前申込が必要な講座

募集 41 講座のうち、実施は 10 講座、参加者延べ数 122 名。

事前申込が必要な講座

No	講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
1	春の里山の植物	4/11(土)	舞岡ふるさと村（横浜市戸塚区）	小学生～成人	田中徳久	40	25	中止
2	植物図鑑の使い方～春の花編～	4/18(土)	実習実験室	小学4年生～成人	大西 亘	30	12	中止
3	化石講座 ゾウ化石を調べよう	4/19(日)	実習実験室	高校生～成人	樽 創	10	9	中止
		5/17(日)						中止
		7/12(日)						中止
		10/4(日)						中止
		11/8(日)						中止
4	磯の生きものウォッチング①	4/26(日)	三ツ石海岸（真鶴町）	小学生とその保護者	佐藤武宏	40	32	中止
5	磯の生きものウォッチング②	5/24(日)				40	36	中止
6	おやこで貝がらをしよう①	5/5(火・祝)	実習実験室	小学生とその保護者	佐藤武宏	20	9	中止
7	おやこで貝がらをしよう②					20	0	中止
8	親子でノジュール割りに挑戦～ボリビア産の化石を調べよう～	5/9(土)	実習実験室	小学生～中学生とその保護者	田口公則	15	27	中止
9	春の地形地質観察会 プレート境界の地形をさぐる	5/10(日)	山北駅周辺（山北町）	小学4年生～成人	山下浩之	30	105	中止
10	初夏の昆虫観察会	5/30(土)	中井町	小学4年生～学生とその保護者	渡辺恭平	20	11	中止
11	いろいろな顕微鏡で菌類をみてみよう	6/28(日)	実習実験室	小学4年生～成人	折原貴道	15	5	中止
12	博物館の展示解説を作ってみよう	7/24(金・祝)	実習実験室	学生、成人	大島光春	12		中止
13	きのこさがしオリンピック		博物館及び周辺	小学生～中学生とその保護者	折原貴道	30		中止
14	貝殻のふしぎを調べよう（ホタテ）		実習実験室	小学4年生～成人	田口公則	12		中止
15	貝殻のふしぎを調べよう（アサリ）	8/2(日)			佐藤武宏	12		中止
16	貝殻のふしぎを調べよう（巻貝）	8/23(日)			佐藤武宏	12		中止
17	展示見学ポートフォリオづくり（教員向け）	7/27(月)	実習実験室	教員	田口公則	10		中止
		7/28(火)						中止
18	先生のための火山噴火実験講座	8/5(水)	実習実験室	小・中学校教員、教員志望の大学生・大学院生	西澤文勝	12		中止
19	大地の成り立ちと変化～中学校教員のための地層学入門～	8/9(日)	実習実験室	教員	石浜佐栄子	10		中止
20	あなたのパソコンで地形を見る（教員向け）	8/11(火)	実習実験室	教員	新井田秀一	12		中止
21	きのこの観察と同定	9/26(土)	箱根早雲公園（箱根町）	小学4年生～成人	折原貴道	15	55	11

（次ページに続く）

(前ページから続く)

No	講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
22	秋の里山の植物	10/3(土)	舞岡ふるさと村(横浜市戸塚区)	小学生～成人	田中徳久	20	34	15
23	川と用水路の生き物を調べよう	10/4(日)	吉田島周辺(開成町)	小学生～成人	荏部治紀	25	117	18
24	比べてみよう哺乳類の骨～頭骨編～	10/10(土)	実習実験室	学生、成人	大島光春	12	10	8
25	植物図鑑の使い方～樹木編～	10/17(土)	実習実験室	小学4年生～成人	大西 亘	30	12	11
26	本当は怖いアメリカザリガニ～最悪の水辺の外来種について勉強しよう～	10/17(土)	はるひ野(川崎市麻生区)	小学生～成人	荏部治紀	20		中止
27	あなたのパソコンで地形を見る	10/18(日)	実習実験室	成人	新井田秀一	6	21	6
28	博物館で「せいめいのれきし」を楽しむ～絵本片手にワークショップ～	11/3(火・祝)	実習実験室	成人、教員	田口公則	10	10	7
29	秋の地形地質観察会～神奈川県鳥瞰図スペシャル～	11/7(土)	博物館及び小田原周辺	中学生～成人	新井田秀一	20	26	19
30	野生動物の自動撮影入門	11/7(土)	国府津(小田原市)	小学生～成人	鈴木 聡	10	10	8
		11/15(日)	博物館および国府津(小田原市)					(7)
31	初めてのシダ～シダ植物観察のポイント～	11/14(土)	実習実験室	中学生～成人	石田祐子	20		中止
32	先生のための地層と化石入門～七沢石のふるさとを巡る～	11/28(土)	実習実験室	教員	田口公則	10	7	一般6 研修1
		11/29(日)	七沢(厚木市)					
33	くらべてみよう鳥たちのつばさ	12/5(土)	実習実験室	小学生～中学生	加藤ゆき	20		中止
34	くらべてみよう動物たちの手足	12/5(土)	実習実験室	小学生～中学生	広谷浩子	20		中止
35	比べてみよう動物の手足	12/6(日)	実習実験室	高校生～成人	広谷浩子	20		中止
36	比べてみよう鳥の翼	12/6(日)	実習実験室	高校生～成人	加藤ゆき	20		中止
37	魚をもっと知りたい人のための魚類学講座①	1/16(土)	実習実験室	中学生～成人	瀬能 宏	10		中止
		1/17(日)						中止
38	魚をもっと知りたい人のための魚類学講座②	1/30(土)			瀬能 宏	10		中止
		1/31(日)						中止
39	ボランティア入門講座(全体講座)	1/24(日)				38	19	中止
	ボランティア入門講座(分野別講座)	1/26(火)						
		1/28(木)						
		1/30(土)						
		1/31(日)						
		2/3(水)						
		2/4(木)						
		2/7(日)						
		2/11(木)						

(次ページに続く)

(前ページから続く)

No	講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
40	ほねほねパズルで学ぶ動物の骨のかたちとくらし	2/6(土)	実習実験室	小学生～中学生とその保護者	鈴木 聡	10		中止
41	早春の地形地質観察会	2/6(土)	相模湖周辺 (相模原市)	中学生～成人	西澤文勝	15		中止
計						763	592	110 うち 研修1

5.1.3. よろずスタジオ

毎月第3日曜日を除く日曜日に学習指導員による「よろずスタジオ」を計画した。テーマは、恐竜の折り紙ひろば他8講座。第3日曜日には、友の会との共催による「よろずスタジオ」を計画した。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施回数はそれぞれ2講座4回と1講座1回だった。

博物館主催 よろずスタジオ

イベント名	計画回数	実施回数	実施場所	対象者	担当者	定員	参加者数	子どもの数
恐竜の折り紙ひろば	12	0	東側講義	子どもと	学習指導員	感染症対	0	0
スタンプラリー クイズでGO!	1	0	室ほか	保護者	企画普及課	策のため	0	0
博物館のぬり絵ひろば	6	2				入場数制	86	42
そらとぶたね	3	0				限あり	0	0
けんぴきょうで大発見!	4	0					0	0
博物館検定	3	0					0	0
生きものパズル	5	0					0	0
ハコフグ帽子のぬり絵	3	2					83	35
生きものスケッチ	3	0					0	0
合計	40	4	(2講座のべ4回実施)				169	77

友の会との共催 よろずスタジオ

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	参加者数	子どもの数
アンモナイトのレプリカを作ろう!	4/19(日)	東側講義室	子どもと その保護者	田口公則	入場数 制限あり	中止	
巻貝の中をのぞいてみよう!	5/17(日)			佐藤武宏		中止	
葉脈標本をつくろう!	6/14(日)			友の会スタッフ		中止	
いろんなキノコを見てみよう	9/13(日)			友の会スタッフ		中止	
動物の歯とたべもの	10/18(日)			大島光春		38	17
木の実・草のみでリースを作ろう	11/15(日)		その他一般	友の会スタッフ		中止	
ミツクリザメを観察しよう!	12/20(日)			瀬能 宏		中止	
砂で遊ぼう	1/17(日)			石浜佐栄子		中止	
昆虫の体を調べてみよう!	2/21(日)			渡辺恭平		中止	
合 計						38	17

5.1.4. 夏休みの自由研究を支援する催し物

学習指導員が対応する、夏休みの小・中学生理科自由研究の相談は、表の期間での実施を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

自由研究を支援する催し物

催し物名	実施期間	相談場所	対象者	講師	相談件数
夏休み自由研究なんでも相談 「テーマの決め方・調べ方・まとめ方」	7/18(土) ～8/16(日)	ミュージアム・ライブラリー	小中学生	学習指導員	中止

5.1.5. 特別展・企画展に関する講座・イベント

講演会を企画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

5.2. 学校教育への対応

5.2.1. 理科等の教科学習・講義および総合的な学習の時間への対応

博物館で対応したもの

実施日	区分	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数	実施場所
10/4(日)	大学	教職課程「地学実験」 展示物見学・収蔵庫見学	慶應義塾大学教職課程センター	石浜佐栄子	12	
10/29(木)	高校	生物の進化を学ぶ	相洋高等学校（3年生）	広谷浩子	19	
10/30(金)	小学校	流れる水のはたらき	箱根町立湯本小学校	石浜佐栄子	12	
11/5(木)	高校	生物の進化を学ぶ	相洋高等学校（3年生）	広谷浩子	19	
11/5(木)	大学	地球化学教室ゼミ	東邦大学理学部	平田大二	6	
11/19(木)	高校	生物の進化を学ぶ	相洋高等学校（3年生）	広谷浩子	19	
11/20(金)	大学	野生動物学講座のバックヤード見学	東京農業大学	鈴木 聡 佐藤武宏 広谷浩子 加藤ゆき 松本涼子	45	
12/23(水)	中学校	博物館見学と箱根巡検	武蔵中学校	山下浩之 西澤文勝	189	午前：見学 午後：箱根巡検（大観山等）
合計					321	

依頼元等へ出向いて対応したもの

実施日	区分	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数	実施場所
10/14(水)	小学校	第2学年サイエンスコミュニケーション科「たねのふしぎ」	大田区立清水窪小学校	大西 亘		大田区立清水窪小学校
10/28(水)	小学校	環境学習事業 はだのエコスクール「体からわかる私たちの進化」	秦野市環境産業部環境共生課	広谷浩子	75	秦野市立南小学校
10/29(木)	小学校	環境学習事業 はだのエコスクール「体からわかる私たちの進化」	秦野市環境産業部環境共生課	広谷浩子	75	秦野市立南小学校
11/12(木)	高校	キャリア教育「先輩セミナー」	県立横浜平沼高等学校	平田大二	318	横浜平沼高等学校
12/11(金)	小学校	6年生理科「大地のつくりと変化」	茅ヶ崎市立今泉小学校	西澤文勝		茅ヶ崎市立今泉小学校
1/19(火)	小学校	6年生理科「大地のつくりと変化」	横浜市立東俣野小学校	西澤文勝	61	横浜市立東俣野小学校
2/10(水)	小学校	6年生理科「大地のつくりと変化」	小田原市立酒匂小学校	西澤文勝		小田原市立酒匂小学校
合計					529	

5.2.2. 職場体験およびインターンシップ受け入れ

職業体験やインターンシップは、総合学習の一環とした取り組みも含まれ、区別することが難しい。進路学習的な取り組みとしての博物館体験を抽出し記載した。活動内容は、学芸員の仕事や資格を得るための進路および展示室、収蔵庫などの見学、行事等への参加を行った。

職場体験およびインターンシップ

実施日	区分	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数	実施場所
2/5(金)	大学	ECO-TOPプログラムにおけるインターンシップ	桜美林大学	田中徳久	2	館内
2/6(土)						
2/19(金)						
2/20(土)						
2/26(金)						

5.2.3. 教員の各種研修受入

総合教育センター研修枠として実施した博物館講座は、59 ページに記載した（No.32 の講座）。博物館内での研修については、新型コロナウイルス感染症対策のため、受入を行わなかった。

依頼元等へ出向いて対応したもの

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数	実施場所
11/5(木)	日々の授業に生かせる教材・教具の開発	足柄下郡教育会理科研究会	新井田秀一		湯河原町立湯河原小学校

5.3. 博物館実習

5.3.1. 博物館実務実習

当館では自然誌系分野を専攻し、学芸員資格の取得をしようとする学生を、博物館実習生として受け入れている。2020 年度は、大学院・大学から 31 名の実習生を受け入れた。

実習は、例年企画情報部企画普及課が担当する共通実習 2 日間と学芸部が担当する分野別実習 7 日間で構成されるが、2020 年度は新型コロナウイルスの感染予防のために、全実習生が集合する共通実習を 1 日に短縮し、各分野での実習も密状態にならないように工夫して実習を実施した。詳細は以下のとおりであった。（8 月受入延べ人数：121 人 9 月受入延べ人数：118 人 10 月受け入れ延べ人数：40 人）

実習日と主な実習内容

全員共通日程（1 日間）

〔担当〕企画普及課職員

〔期日〕8 月 21 日（金）

〔内容〕オリエンテーション、館長講話、常設展示見学、収蔵庫など館内諸施設見学、管理課長、企画普及課長、学芸部長による館の概要・展示内容・研究状況などの説明。

グループ別実習（7 日間）

〔担当〕学芸部各グループ（詳細は以下の通り）

◎植物グループ（4 名）

〔担当〕田中徳久・大西 亘・石田祐子・折原貴道

〔期間〕8 月 22 ～ 23・27 ～ 31 日

〔内容〕植物標本の製作、配架など

◎菌類グループ（3名）

〔担当〕折原貴道・田中徳久・大西 亘・石田祐子

〔期間〕8月22～23日・9月2～5・8～9日

〔内容〕菌類標本の製作、配架、菌類の野外調査など

◎動物グループ（5名）

〔担当〕佐藤武宏・加藤ゆき・松本涼子・鈴木 聡・広谷浩子

〔期間〕9月21・22・24～27・29・30日

〔内容〕標本製作、標本整理、標本情報登録など

◎魚類グループ（5名）

〔担当〕瀬能 宏

〔期間〕10月8～11・13～16日

〔内容〕魚類標本の製作、撮影、登録、配架、メンテナンスなど

◎昆虫グループ（4名）

〔担当〕荏部治紀・渡辺恭平

〔期間〕8月22～25・28～31日

〔内容〕昆虫標本の製作、標本ラベルの取り付け、野外調査など

◎古生物グループ（4名）

〔担当〕大島光春・樽 創・田口公則

博物館実務実習受け入れ状況

大学	学部等	人数
帯広畜産大学	大学院	1
北海道大学	大学院理学院	2
東海大学札幌校	生物学部	2
東京海洋大学	海洋生命科学部	1
東京都立大学	都市環境学部	1
帝京科学大学	生命環境学部	3
東京都市大学	知識工学部	1
東京農業大学	農学部	2
日本女子大学	理学部	1
日本大学	文理学部	3
	生物資源科学部	3
明治大学	農学部	2
八洲学園大学	生涯学習部	1
神奈川大学	理学部	3
北里大学	海洋生命科学部	2
鹿児島大学	水産学部	2
琉球大学	理学部	1
合計		31

〔期間〕8月26～30日・9月1～3日

〔内容〕化石標本の整理、レプリカ製作、フォトグラメトリ制作、ジャンボブック展示の模擬展示

◎地学グループ（6名）

〔担当〕山下浩之・新井田秀一・石浜佐栄子・西澤文勝

〔期間〕9月11～13・15～19日

〔内容〕岩石標本整理、ワークショップの実施、講座の補助など

5.3.2. 博物館見学実習

当館では大学における学芸員養成課程のうち、博物館学の見学実習の一環として、専攻・専門分野を問わず実習を受け入れている。一般向けの展示のみならず、館施設全体の見学を通して、

大学生に博物館の機能や社会的意義を深く理解させることが目的である。今年度は3大学4件26名の見学実習を受け入れた。

博物館実務実習受け入れ状況

実施日	内容	依頼元	対応者	人数
9/5(土)	博物館実習	日本女子大学	田口公則	9
9/6(日)	博物館実習	日本女子大学	田口公則	9
11/8(日)	博物館実習Ⅰ（個人見学の事前学習用動画撮影）	日本大学生物資源科学部	佐藤武宏	1
11/28(土)	博物館見学実習	桜美林大学	佐藤武宏	7
合 計				26

5.4. ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動

ミュージアムライブラリーでは、来館者の学習意欲に応えられるよう、自然誌関係の図書、雑誌等を揃え、自由に閲覧できる開架式環境と、閉架式図書資料等の閲覧が行える環境を整備している。また、博物館情報システムによる情報検索ができるほか、学芸員による学習相談や学校現場での豊かな経験を生かした学習指導員による学習相談、学校をはじめ各種諸団体利用者の見学に関する支援を行っている。2020年度のライブラリー利用者は50,140人で、1日平均利用者数は298人であった。また、有料コピーサービスを来館者には直接、来館できない利用者には郵送で、それぞれ実施している。これらのコピーサービスには、延べ71件の申込があった。

なお、新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置として発出された緊急事態宣言により、4月1日～6月30日、1月12日～3月21日の間は臨時休館となった。

ミュージアムライブラリー月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	－	－	－	28	31	25	26	23	20	7	－	8	168
利用者数	－	－	－	8,855	12,736	8,452	6,625	6,252	4,114	1,076	－	2,030	50,140
平均利用者数	－	－	－	316	411	338	255	272	206	154	－	254	298

5.5. 学習指導員による学習支援活動

当博物館は、県民の皆さんに、より身近で開かれた博物館、学校との連携をはかる博物館、生涯学習を支援する博物館を目指しており、これらの実現のために館全体で様々な事業に取り組んでいる。そのためのサポートとして5名の学習指導員（非常勤）を配置している。

当館の学習指導員は、学校現場および博物館での豊かな経験を生かし、児童・生徒をはじめ一般の方々からのレファレンスに関する業務や自由研究のアドバイスなどの学習支援、また学校をはじめ各種諸団体利用者に対する展示物のガイダンスなど、来館者へのサービスに関する業務を行っている。

5.5.1. 学習支援・レファレンス業務

学習指導員は学習指導員室に常駐し、様々な相談に応じている。児童・生徒の質問を受け付けたり、自由研究等へのアドバイスを行ったり、設定された課題解決のためにその筋道を示した

りする学習支援を行っている。このほか、来館者のレファレンス受付や、博物館に持ち込まれた動植物や鉱物、化石の同定や質問に対して、学芸員との連携を図っている。学芸員のレファレンス対応状況については、「3.4 レファレンス対応人数」(35 ページ) 参照。

5.5.2. 団体利用者へのサービス

[団体利用の申込受付]

学習指導員は、団体利用者からの電話、FAX、直接の来館等に対応し、予約の申込みを受け付けている。地域や年齢など来館される方々は多岐にわたっている。

[下見見学への対応]

事前の下見のために来館した団体に対しては、施設の利用方法や館内の見どころ等を説明するほか、希望者には博物館の展示を紹介したビデオ映像の貸し出しも行っている。

この下見見学の多くは学校関係者や、子ども会、ボーイスカウト、障がいのある方々の施設・団体である。

[ガイダンスサービス]

ガイダンスを希望した団体には所要時間 15 ～

20 分程度で、学習指導員が展示室の構成や主な展示物の説明、館内の見どころ等についてわかりやすく紹介し、また利用にあたっての注意事項について説明をしている。本年度の利用状況は以下のとおりである。

学習指導員によるガイダンスの月別対応状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	－	－	－	0	0	4	12	17	11	1	－	0	45
人数	－	－	－	0	0	123	324	452	355	17	－	0	1,271

5.5.3. 団体利用状況

2020 年度の団体利用人数は、123 団体、7,027 人で、入館者数全体 131,986 人に対する割合は

5.32%であった。団体利用件数の内訳は、学校教育関係（保育園を含む）と学校以外で分類した。

団体の種別内訳

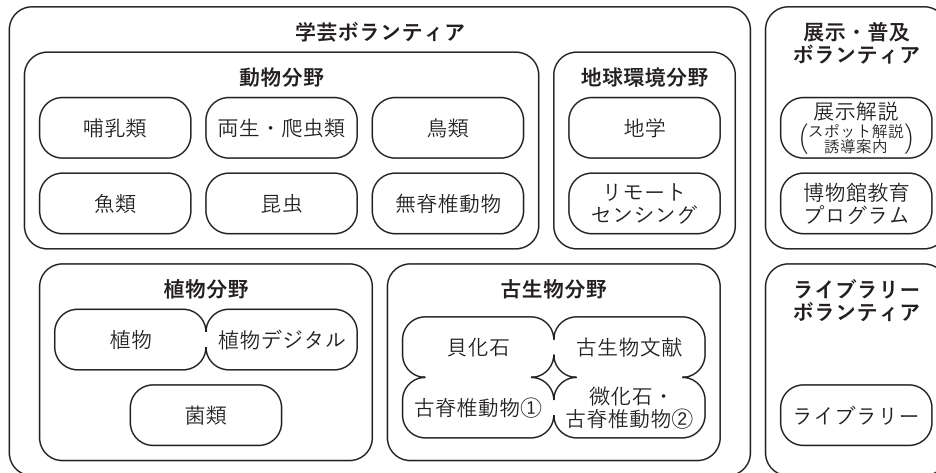
		神奈川県内から			県外・海外から			合計		
		件数	件割合	人数	件数	件割合	人数	件数	件割合	人数
学校教育		84	68.3%	5,920	26	21.1%	935	110	89.4%	6,855
	幼稚園・保育園	10	8.1%	391	0	0.0%	0	10	8.1%	391
	小学校	58	47.2%	4,849	20	16.3%	698	78	63.4%	5,547
	小中一貫校	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0
	中学校	3	2.4%	355	2	1.6%	206	5	4.1%	561
	中高一貫校	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0
	高等学校	6	4.9%	194	0	0.0%	0	6	4.9%	194
	特別支援校・学級	5	4.1%	93	1	0.8%	6	6	4.9%	99
	大学	2	1.6%	38	3	2.4%	25	5	4.1%	63
学校以外		13	10.6%	172	0	0.0%	0	13	10.6%	172
合 計		97	78.9%	6,092	26	21.1%	935	123	100.0%	7,027

団体の地区別利用状況（上段：件数；下段：人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	%
小田原	0	0	0	0	2	1	2	2	2	0	0	0	9	7.3%
	0	0	0	0	16	17	43	38	138	0	0	0	252	3.6%
足柄下	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3	2.4%
	0	0	0	0	0	0	12	19	23	0	0	0	54	0.8%
足柄上	0	0	0	1	0	0	0	1	5	0	0	0	7	5.7%
	0	0	0	5	0	0	0	35	270	0	0	0	310	4.4%
二宮・大磯・平塚	0	0	0	0	1	1	3	6	2	0	0	0	13	10.6%
	0	0	0	0	9	31	133	313	45	0	0	0	531	7.6%
秦野・伊勢原・厚木	0	0	0	0	0	1	0	3	1	0	0	0	5	4.1%
	0	0	0	0	0	160	0	438	8	0	0	0	606	8.6%
県央・相模原	0	0	0	0	0	0	4	3	2	0	0	0	9	7.3%
	0	0	0	0	0	0	301	319	40	0	0	0	660	9.4%
茅ヶ崎・藤沢・鎌倉	0	0	0	0	2	2	3	1	6	0	0	0	14	11.4%
	0	0	0	0	13	35	410	20	637	0	0	0	1,115	15.9%
横須賀・三浦・逗子	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0.8%
	0	0	0	0	0	0	0	34	0	0	0	0	34	0.5%
横浜	0	0	0	0	0	2	7	11	8	0	0	1	29	23.6%
	0	0	0	0	0	105	433	743	798	0	0	118	2,197	31.3%
川崎	0	0	0	0	0	0	0	3	4	0	0	0	7	5.7%
	0	0	0	0	0	0	0	138	195	0	0	0	333	4.7%
県内 全域・地区不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
東京都	0	0	0	0	0	2	0	2	1	1	0	0	6	4.9%
	0	0	0	0	0	18	0	24	189	17	0	0	248	3.5%
千葉県	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	1.6%
	0	0	0	0	0	0	106	0	0	0	0	0	106	1.5%
静岡県	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0.8%
	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	6	0.1%
山梨県	0	0	0	0	0	0	7	5	2	0	0	0	14	11.4%
	0	0	0	0	0	0	243	146	94	0	0	0	483	6.9%
埼玉県	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	3	2.4%
	0	0	0	0	0	0	73	19	0	0	0	0	92	1.3%
茨城県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
その他の道府県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
神奈川県合計	0	0	0	1	5	7	20	32	31	0	0	1	97	78.9%
	0	0	0	5	38	348	1,332	2,097	2,154	0	0	118	6,092	86.7%
県外・海外合計	0	0	0	0	0	2	11	9	3	1	0	0	26	21.1%
	0	0	0	0	0	18	422	195	283	17	0	0	935	13.3%
合 計	0	0	0	1	5	9	31	41	34	1	0	1	123	100.0%
	0	0	0	5	38	366	1,754	2,292	2,437	17	0	118	7,027	100.0%

5.6. 博物館のボランティア活動

当館では、ボランティア活動を生涯学習の一環と位置づけ、登録制の博物館ボランティア制度を設けている。活動内容は、資料整理や展示準備、調査研究、展示解説等さまざまである。登録には職員推薦（随時）あるいは入門講座の受講（年一回開催）の二つの方法がある。活動分野は大きく「学芸ボランティア」「展示・普及ボランティア」「ライブラリーボランティア」に分かれており、希望する分野に登録し活動する。年度単位の登録で、希望により更新できる。



5.6.1. 学芸ボランティア

各分野で、担当学芸員の指導・指示により、博物館資料の収集、整理や調査研究への協力、標本作製、標本等の資料のデータ入力などを主な活動内容としている。分野により標本作製の手法や手順は異なり、専門的な技術や知識を習

得する場ともなっている。この他にも、特別展などの展示制作補助、講座や観察会の補助などを通じて博物館を支えている。担当学芸員と活動内容や日程を調整しながら活動する。

5.6.2. 展示・普及ボランティア

各自の都合の良い日に来館し、得意な展示分野についての案内や解説を行っている（スポット解説）。視覚障がい者の方の誘導や、展示ラベルへの点字シールの製作・貼付などの活動も行う（誘導・案内）。制服としてスタッフジャンパーを貸与している。

当分野は「学芸ボランティア」「館運営ボランティア（現ライブラリーボランティア）」の登録者から希望を募り 2002 年度から始まった活動である。2004 年度からはボランティア入門講座で

も展示解説分野を設置し、講座修了者が活動に加わっている。

2015 年度からは、子ども向け当日参加型ワークショップ（よろずスタジオ）の運営を補助する「博物館教育プログラム」の分野を新設している。この分野については、当館の登録ボランティアの他に、小田原短期大学と連携し、同保育学科の学生にも参加をいただいている（2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により活動を見合わせた）。

5.6.3. ライブラリーボランティア

さまざまな専門書や一般向け図書を収蔵するミュージアムライブラリーで、図書の整理・装備（ラベル・透明カバー貼り等）や補修等の活

動を行っている。担当職員と活動内容や日程を調整しながら活動する。

5.6.4. 分野別登録人数と活動状況

分野別の登録人数は右表、活動状況は下表のとおりである。

2020 年度「博物館ボランティア」登録人数

	登録人数		
	合計	男	女
実人数（※）	388	203	185
学芸ボランティア	377	191	186
展示・普及ボランティア	57	32	25
ライブラリーボランティア	8	1	7

（※）それぞれの分野間で重複登録している人を除いた実人数を示した。実人数のうち、保険加入者は 313 名。

2020 年度「博物館ボランティア」登録人数

			登録数（延べ）			活動人数（延べ）																
			合計	男	女	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
学芸	動物	哺乳類	47	18	29	106	4	0	4	12	17	8	6	25	21	3	0	6				
		両生爬虫類	12	6	6	6	0	0	0	0	0	0	1	4	0	1	0	0				
		鳥類	27	10	17	11	0	0	0	1	1	1	0	0	2	0	0	6				
		魚類	56	36	20	409	21	27	50	58	75	43	44	40	33	3	3	12				
		昆虫	41	33	8	47	2	0	5	3	4	8	9	9	1	1	0	5				
		無脊椎動物	7	4	3	10	0	0	0	1	1	0	1	3	4	0	0	0				
	植物	植物	33	7	26	178	1	0	1	38	16	27	42	26	26	1	0	0				
		菌類	58	30	28	191	2	0	18	23	17	23	32	32	29	8	3	4				
	古生物		68	35	33	201	1	0	0	26	47	31	37	31	26	2	0	0				
	地球環境	地学	28	12	16	159	2	0	0	29	14	40	23	22	22	2	0	5				
		リモートセンシング	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
	延べ人数			377	191	186	1,318	33	27	78	191	192	181	195	192	164	21	6	38			
展示・普及	展示解説		34	22	12	26	0	0	0	0	0	0	5	10	10	1	0	0				
	誘導案内		8	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	博物館教育プログラム		15	6	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	延べ人数		57	32	25	26	0	0	0	0	0	0	5	10	10	1	0	0				
ライブラリー			8	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
全体延べ人数			442	224	218	1,344	33	27	78	191	192	181	200	202	174	22	6	38				

5.6.5. ボランティア入門講座

当館でのボランティア活動を理解していただき、円滑に参加していただくための入門講座を開催している。全体講義のほかに分野別の実習

があり、受講後、翌年度からのボランティアに登録し活動していただく。2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

5.6.6. ボランティア研修

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、展示解説・誘導・教育ボランティアで活動中の

方々に対する研修会は中止した。

5.7. 広報

博物館広報活動は、広く当館の認知度を向上させること及び常設展示をはじめ特別展・企画展といった資料展示や、各種の観察会・講演会といった学習支援活動などを広く周知し、来館・参加をよびかけることを目的としている。

2020 年度の広報活動は、前年度に引き続き催物案内など広報印刷物の作成・配布と、マスメディア等への情報提供および公式 Twitter アカウントによる広報を行った。

5.7.1. 広報印刷物の作成・配布

広報として、特別展・企画展・観察会などの各種催し物を周知するため「催物案内」、イベントの開催に合わせポスターやチラシなどを次の表のとおり作成・配布した。

催物案内は、新型コロナウイルス感染状況の見通しが立たない中、年間を通じた講座開催情

報とせず、前期分の「4 月～8 月分」を発行することとした。

企画展の印刷物は、配架施設の感染症対策によってはチラシ置き場の撤去が考えられたため、ポスターを中心とした作成を行った。

作成印刷物一覧

作成月	印刷物名	仕様（規格、印刷、色数）	印刷部数	主な配布先	配布件数
1	企画展「かながわ発 きのこの新種展」ポスター	①B2判 オフセット印刷 4色刷り	800	①B,C,D,F,G,H	900
		②B3判 オフセット印刷 4色刷り	800	②A,B,C,D,H	
			(計1,600)		
	企画展「かながわ発 きのこの新種展」チラシ	A4判 オフセット印刷 表面4色・裏面1色刷り	6,000	A,B,C,D, E,F,G,H	
2	2021年度4月～8月催し物案内	A4判 オフセット印刷 両面1色刷り	27,000	A,B,C,D, E,F,H	740

主な配布先の凡例。A：小田原市立小中学校；B：県内図書館；C：博物館園；D：県政情報窓口；E：マスメディア；F：小田急電鉄・箱根登山鉄道；G：大雄山線；H：その他。

5.7.2. マスメディア等への情報提供

博物館の催物については、教育局の方針により、記者クラブへ情報提供を行わなかった。

一方、臨時休館中の「Web で楽しむ地球博」のような来館を要しない活動の一部については、記者クラブへ参考資料送付を行った。

この1年間の紹介記事件数は、掲載が確認できたものだけでも135件あった。内訳は、新聞

14件、広報誌・情報誌・雑誌等32件、テレビ5件、ラジオ3件、ウェブサイト等インターネット56件、その他25件であった。

昨年度に引き続き、当館ウェブサイトへの流入元などを参考に、観光情報ウェブサイトに対してイベント情報の登録、発信を行った。

5.7.3. SNS を利用した広報

県内外へ広く活発な広報活動を行うため、次のとおり Twitter による情報発信を行った。

公式 Twitter アカウントによる情報発信

広報アカウントは、特別展等のイベントに限定せず、緊急時や災害時等の情報発信媒体としても活用することとし、開館状況や企画展、博

物館の活動状況、臨時休館中のウェブコンテンツの紹介等について情報発信した。

また、新たに混雑情報発信アカウント「@seimeinohoshiCI」を取得し、当館の混雑状況の情報発信を行った。なお、混雑情報発信アカウントに関してはリツイート数（RT）などはカウントしていない。

Twitter による情報発信

アカウント	実施期間	TW	RT	いいね	IMP
広報アカウント：@seimeinohoshiPR	2020年4月1日～2021年3月31日	194	358	1,043	50,641
混雑情報発信アカウント：@seimeinohoshiCI	2020年8月24日～2021年3月31日	79			

TW：合計ツイート数；RT：ツイート1時間後のリツイートの数；いいね：ツイート1時間後の「いいね」の数；IMP：ツイート1時間後のインプレッション数。

6. 刊行物

6.1. 定期刊行物

博物館の調査研究の成果として、「神奈川県立博物館研究報告（自然科学）」第 16 号を刊行した。本号には 7 編の論文が掲載された。本誌は 49 号から完全電子ジャーナルに移行し、当館ウェブサイト及び J-STAGE で公開している。

神奈川県内の自然誌に関する研究成果の公表、記録を目的とした、「神奈川県自然誌資料」第 42 号を刊行した。本号には 30 編の論文が投稿され、査読を経て 25 編が掲載された。本誌は 41 号から完全電子ジャーナルに移行し、当館ウェブサイト及び J-STAGE で公開している。

博物館の広報誌として、「自然科学のとびら」を年 4 回発行した。一般利用者向けに博物館からの情報をわかりやすく提供することを目的としている。また、同じ内容を当館ウェブサイトで紹介している。

前年度の博物館活動に関して、その概要を紹介する「神奈川県立生命の星・地球博物館年報」第 25 号（2019 年度）を刊行した。本誌は、国内の主な博物館、県内の研究機関、行政機関等に配布している。

6.1.1. 神奈川県立博物館研究報告（自然科学）

[号数] 第 50 号（電子出版）

[発行日] 2021 年 3 月 30 日

[アーカイブ場所] 当館ウェブサイト
(<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1599723857751/index.html>) なら
びに J-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/bkpmnh/-char/ja>)

[編集担当] 折原貴道・大島光春・西澤文勝

[編集委員会] 平田大二（編集委員長）・齋藤靖二・
田中徳久・加藤ゆき・新井田秀一

[内容]

山本将太・相場博明・佐藤たまき：更新統塩
原層群（栃木県）から産出した魚類化石と
ウグイ現生種 *Tribolodon hakonensis* の比較
前田大智・樽 創・福嶋 徹・高桑祐司・鏑
本武久：東京都昭島市の下部更新統加住層

（上総層群）から産出したシカ属の化石
矢頭卓児・手良村知功・江藤 暁・瀬能 宏：
静岡県沖から得られたホウボウ科魚類バ
ケソコホウボウと形態変異

田中翔大・斉藤洪成・瀬能 宏：小笠原諸島父
島から採集されたクチボソボラ *Neomyxus*
leuciscus 稚魚とその生物地理学的特性

波戸岡清峰・瀬能 宏・矢野幾維・鈴木寿之：
八重山諸島西表島から得られた日本初記
録のコクハンカワウツボ（新称）とその
出現状況

渡辺恭平：日本産チビトガリヒメバチ亜科（ハ
チ目、ヒメバチ科）の 17 新種の記載を伴
う分類学のおよび動物地理学的研究（英文）
苅部治紀・加賀玲子：神奈川県 of 絶滅危惧種
キバネツノトンボの現状

6.1.2. 神奈川自然誌資料

[号数] 第 42 号（電子出版）

[発行日] 2021 年 3 月 18 日

[アーカイブ場所] 当館ウェブサイト
([https://nh.kanagawa-museum.jp/www/](https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1599725880823/index.html)

[contents/1599725880823/index.html](https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1599725880823/index.html)) およ
び J-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/nkpmnh/list/-char/ja>)

[編集担当] 渡辺恭平・瀬能 宏

[編集委員会] 田中徳久・川島逸郎・小淵正美

[内容]

花上諒大・崎山直夫・加登岡大希・鈴木 聡・
石川 創・山田 格・田島木綿子・樽 創・
相模湾・東京湾沿岸で記録されたハクジ
ラ亜目マイルカ科について

三井翔太：神奈川県横須賀市佐島に分布する
上部中新統・三崎層より産出した硬骨魚
類の耳石および咽頭歯化石

渡辺恭平・川島逸郎：神奈川県箱根町におけ
るミズバチ *Agriotypus gracilis* Waterston,
1930 (ハチ目, ヒメバチ科) の再発見

大井和之・岸しげみ・一ノ瀬友博：藤沢市に
生育するクゲヌマランの遺伝子解析

手塚真理・司村宜祥・野崎隆夫：秦野市葛葉
緑地で採集されたカゲロウ目・カワゲラ
目・トビケラ目昆虫

崎山直夫・加登岡大希・瀬能 宏：2018 年
に相模湾から得られたホホジロザメ（ネ
ズミザメ目ネズミザメ科）と同湾および
周辺海域における出現状況

陶山 舞・高木 望・出川洋介・佐藤大樹・
折原貴道：神奈川県におけるフナムシ腸
内寄生菌フナムシヤドリ（新称）*Asellaria*
ligiae の生息状況

山下龍之丞・三井翔太・碧木健人・瀬能 宏：
神奈川県沿岸より初記録となるヌエハゼ
Siphonogobius nue Shibukawa & Iwata,
1998 の形態と生息環境

渡辺恭平・瀬能 宏：神奈川県小田原市で確
認されたアシグロアオゴミムシ *Chlaenius*
(*Pachydinodes*) *leucops* (Wiedemann,
1823) (コウチュウ目, オサムシ科)

岩崎貴也・奥田真未・渡部凌我・斎藤昌幸・
土田彩加・志村映実・泉 進：カメラトラッ
プで確認された神奈川大学湘南ひらつか
キャンパスにおける哺乳類相とキャンパ
ス建設前後の変化

志村映実・櫻井大和・渡辺恭平・中濱直之・
奥田真未・岩元明敏・岩崎貴也：神奈川

大学湘南ひらつかキャンパスにおける地
表徘徊性甲虫相と建設以前からの変化

洲澤 譲・洲澤多美枝：酒匂川（神奈川県）で
採集された外来種ミズワタクチビルケイソウ

山下龍之丞・山川宇宙・佐藤武宏：神奈川県の
田越川感潮域から記録された希少貝類 3 種

八巻鮎太・杉村 誠・伊藤昌平：相模湾江の
島沖からの原記載以来 79 年ぶりのコトク
ラゲ *Lyrocteis imperatoris* の再発見

内田大貴・久保田潤一・金本敦志・中村孝司・
舟木匡志：神奈川県三浦市で記録された
ガー科魚類の外来魚 *Lepisosteus oculatus*

関 義和：神奈川県茅ヶ崎市南西部における
クリハラリスの観察記録

和田圭史・平田寛重：小田原市酒匂川におけ
るコオリガモ *Clangula hyemalis* の観察記録

樋口 諒：神奈川県茅ヶ崎海岸において採集
されたクロコウスバカゲロウ（アミメカ
ゲロウ目, ウスバカゲロウ科）の記録

武田祐二・大土直哉：三浦半島におけるガタ
バクベニツケガニ（甲殻亜門：十脚目：
ワタリガニ科）の初記録

大井和之・大西 亘：DNA バーコーディン
グで明らかにされた真鶴半島におけるピ
ロ ウ *Livistona chinensis* (Jacq.) R.Br. ex
Mart. (ヤシ科) の野生化

乾 直人・山川宇宙・碧木健人・是枝伶旺：
2019 年 9 月以降に相模湾およびその周辺
地域から採集された注目すべきカニ類 7 種

田中徳久：2018–2020 年に見出した神奈川県の
地域植物相の重要な記録となる標本

加藤ゆき・川合英利・重永明生：神奈川
県小田原市におけるコウノトリ *Ciconia*
boycciana の観察記録

高橋慶伍・竹内寛彦：神奈川県大和市にお
ける国内外来種ヌマガエル *Fejervarya*
kawamurai の初記録

荒尾一樹・馬渡和華・大原庄史・風呂田利夫：
東京湾内湾の谷津干潟の魚類相—III

6.1.3. 自然科学のとびら

自然科学のとびら 26 巻 2 号 通巻 99 号

[発行日] 2020 年 6 月 25 日

[発行部数] 250 部

[ウェブ公開場所] 当館ウェブサイト (<https://nh.kanagawa-museum.jp/tobira/index.html>)

[編集担当] 本杉弥生

[内容]

渡辺恭平：表紙「恐怖の外来種 クビアカツヤカミキリ」

苅部治紀：「カンボジアの水生昆虫調査」

鈴木 聡：「哺乳類の性的二型：イタチとゾウアザラシの意外な共通点」

石田祐子：「フレキシブルなダケカンバ」

土屋定夫：ライブラリー通信「文人たちの博物誌⑦ 小松 左京の巻 日本を沈めた男の生物学は S F ではなかった!？」

自然科学のとびら 26 巻 3 号 通巻 100 号

[発行日] 2020 年 9 月 15 日

[発行部数] 250 部

[編集担当] 本杉弥生

[内容]

表紙「おかげさまで通巻 100 号」

平田大二：「たくさんの自然科学のとびら」

山下浩之・佐藤武宏・田口公則・苅部治紀・大島光春・石浜佐栄子：「歴代編集 6 人への共通 Q & A」

「自然科学のとびら 51 号～100 号 総タイトル」

小林瑞穂：ライブラリー通信「世界を変えた 100 の化石」

自然科学のとびら 26 巻 4 号 通巻 101 号

[発行日] 2020 年 12 月 15 日

[発行部数] 250 部

[編集担当] 本杉弥生

[内容]

瀬能 宏：表紙「ウミテング」

石浜佐栄子：「どうやってここへ? 展示室の切り取り・型取り・はぎ取り標本」

松本涼子：「世界最大のカメ、オサガメがやって来た」

田中徳久：「先輩学芸員の残したもの - 30 万点の標本と「神奈川県植物誌」の基礎 -」

土屋定夫：ライブラリー通信「文人たちの博物誌⑧ 吉行 淳之介の巻 淳之介はオカピを見たか?」

自然科学のとびら 27 巻 1 号 通巻 102 号

[発行日] 2021 年 3 月 15 日

[発行部数] 250 部

[編集担当] 本杉弥生

[内容]

加藤ゆき：表紙「レッドデータの鳥類」

折原貴道：「新種発表の裏側 - 「ありふれた種」の標本を集める重要性 -」

広谷浩子：「ウェルカム・ベアの由来」

田口公則・松島義章（名誉館員）：「フォトグラメトリでタイワンシラトリの産状を再現」

鈴木 聡：「収蔵資料のウェブ公開」

小林瑞穂：ライブラリー通信「検証キノコ新図鑑」

6.1.4. 神奈川県立生命の星・地球博物館年報

[号数] 第 25 号

[発行日] 2020 年 6 月 30 日

[発行部数] 500 部

[編集担当] 内田 功・平賀保彦・樽 創

[内容]

沿革・事業報告（運営管理機能・情報発信機能・シンクタンク機能・データバンク機能・学習支援機能・刊行物・情報システム・連携機能）・資料

6.2. 不定期刊行物

博物館の総合研究「現代的な視点による神奈川県地質史の構築」(2017年度～2020年度)の成果として、「神奈川県立博物館調査研究報告(自然科学)」16号を刊行した。本誌は、県内主要図書館をはじめとして、図書館、博物館、関係研究機関等に配布した。

6.2.1. 神奈川県立博物館調査研究報告(自然科学)

[号数] 16号

[発行日] 2021年3月18日

[発行部数] 200部

[編集担当] 田口公則・石浜佐栄子・山下浩之・西澤文勝

[内容]

山下浩之・田口公則：総合研究「現代的な視点による神奈川県地質史の構築」刊行にあたって 伊豆－小笠原弧北端部の地質概要
河尻清和：小仏山地に分布する四万十帯小仏層群・相模湖層群の地質

川手新一・河尻清和・山下浩之：丹沢山地の地質－古伊豆・小笠原北端の衝突帯に関連して－

田口公則・山下浩之・石浜佐栄子：足柄地域の地質：フィリピン海プレートの北縁、伊豆衝突帯の現場

石浜佐栄子・笠間友博・西澤文勝・田口公則・

山下浩之：衝突帯と付加体の間で形成された大磯丘陵の地質に関する再整理

柴田健一郎・野崎 篤・高橋直樹・笠間友博・西澤文勝・田口公則：三浦半島の新第三系と第四系：付加体－外縁隆起帯－前弧海盆堆積物

野崎 篤・笠間友博・西澤文勝・田口公則：多摩丘陵および下末吉台地の第四系

河尻清和・笠間友博・西澤文勝・野崎 篤・田口公則：相模野台地に分布する中津層群と段丘堆積物

山口珠美・山下浩之・萬年一剛・小林 淳：箱根火山の地質と形成史：最近の研究レビュー
笠間友博・西澤文勝：神奈川県に分布するテフラ－関東ローム層と中期更新世の指標テフラ－

新井田秀一：地球観測衛星画像やDEMを用いた神奈川の地形判読

6.3. 刊行物販売状況

刊行物名	単価	販売部数	刊行物名	単価	販売部数
展示解説書	1,500	296	化石どうぶつ園	1,100	5
地球SOS	500	4	神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006	2,000	5
絶滅した生物	500	6	読みもの ナウマンゾウがいた！	800	5
貝からの伝言	500	4	樹洞	1,000	8
櫻井コレクションの魅力	400	9	水生昆虫大百科	1,000	20
日本の魚学・水産学事始め	1,000	2	益田一と日本の魚類学	1,400	4
オオカミとその仲間たち	1,100	10	どうなる？どうする！外来生物	1,000	13
カニの姿	1,200	5	植物誌を作ろう！	700	14
フットのひとりごと	400	1	アオバトのふしぎ	900	28
神奈川県植物誌2001	9,800	2	計		441

7. 情報システム

7.1. システムの概要

博物館情報システムは、博物館の活性化、生涯学習時代における学習支援、研究活動の高度化等を推進するため、収蔵資料（標本・画像ほか）に関する情報を基本として、博物館に蓄積されている膨大な量の知的情報を総合的に管理する博物館活動のプラットフォームとして構築されたものである。

このシステムには、1995年3月より稼働している「収蔵資料管理システム」、「展示情報システム」というサブシステムがあり、これらを有機的に機能させることにより博物館業務の柱であるところの資料の収集・管理、研究、展示活動を支援している。また、研究成果の公開や広報・普及活動に関するお知らせは、2012年9月より「ウェブサイト公開システム」によって運用している。

このシステムは、当博物館と県立歴史博物館が共同で開発を行い、2000年度および、2005年度には、機器の更新および新OSに対応したシステムへの移行作業を行った。さらに、2006年度にはUpdateサーバを追加導入し、クライアントPCのWindows Updateが効率よく行うことができるようになり、管理もしやすくなった。2016年度の機器更新では、最新のOSとセキュリティ対策ソフトにより安全で快適なシステムが構築されている。2020年度の機器更新では、「収蔵資料管理システム」のバージョンアップにより「収蔵資料データベース」として、収蔵資料のデータがウェブサイトにて公開された。「ウェブサイト公開システム」はソフトウェアを変更し、マルチデバイスに対応したウェブサイトが提供可能となった。セキュリティソフトは教育局より各端末に配信する方法に変更となった。2021年3月31日現在の、当博物館の博物館情報システムの機器構成は下表の通りである。なお、各機器は100BASE-TX/100BASE-T/1000BASE-SXによりTCP/IPプロトコルで接続されている。

機器構成表

場所	機器名	機種名	メモリ	数量	備考
CPUルーム	収蔵管理サーバ	富士通PRIMERGY RX2530 M5	16GB	1	収蔵資料管理システム（アプリサーバ）
		Red Hat Enterprise Linux 7.7	2TB×4（RAID5）		
	収蔵管理サーバ	富士通PRIMERGY RX2530 M5	16GB	1	収蔵資料管理システム（サーチサーバ）
		Red Hat Enterprise Linux 7.7	1TB×2（RAID1）		
	展示情報サーバ	富士通PRIMERGY RX1330 M4	8GB	1	展示情報システムの管理
		Red Hat Enterprise Linux 7.7	1TB×2（RAID1）		
	WEBサーバ	富士通PRIMERGY RX1330 M4	8GB	1	ホームページの管理
		Red Hat Enterprise Linux 7.7	2TB×2（RAID1）		
	Updateサーバ	富士通PRIMERGY RX2530 M5	16GB	1	Windows Updateの管理・アクティブディレクトリーの管理
		Windows Server 2019 Standard	2TB×3（RAID5）		
ミュージアムライブラリー	CMSサーバ	富士通PRIMERGY RX2530 M5	16GB	1	ホームページ更新管理
		Red Hat Enterprise Linux 7.7	2TB×2（RAID1）		
	職員用端末	富士通ESPRIMO D586/M	8GB	1	
		Windows 8.1 Professional	500GB		
	来館者用端末	富士通ESPRIMO D588/C	4GB	2	展示情報システムの閲覧など
		Windows 10 Professional	500GB		
研究室・バックヤード	職員用端末	富士通ESPRIMO D588/C他	8GB	3	
		Windows 10 Professional 他	500GB		
	研究用WS	富士通CELSIUS W550 他	16GB	2	衛星画像処理や分布図の作成など
		Windows 8.1 Professional 他	1TB		
	画像入力用	富士通ESPRIMO D588/C他	8GB	40	
		Windows 10 Professional 他	500GB		
		富士通CELSIUS W580	32GB	1	
		Windows 10 Professional	500GB		

2020年度リリースを反映させて作成。備品、消耗品はカウントせずリリースのみの数。
機種名・使用OS・ソフトウェアは機器更新時の納入明細より作成。

7.2. サブシステムの紹介

7.2.1. 収蔵資料管理システム

博物館情報システムの中核となる「収蔵資料管理システム」は、これまで分野や個人ごとにカードやパソコン等で個別に管理されていた収蔵資料に関する情報（資料番号、資料名、採集地、採集年月日、採集者など）を、サーバで一元的に管理し、資料の画像、さらには画像そのものも資料として管理している。また、資料に添付するラベルの印刷など、資料整理業務の効率化も図られている。

このサブシステムは、『神奈川県植物誌 1988』、『神奈川県植物誌 2001』および『神奈川県植物誌 2018』の証拠標本を含む『維管束植物』や、ダイバーや釣り人などが撮影した魚の写真をデータベース化した『魚類写真』など、36のデータベースから構成される。なお、2003年度より、書籍（図書・雑誌）についても収蔵資料

管理システムで取り扱われている。標本・アーカイブズ登録状況は44ページに記載した。また、書籍の情報については下表に示した。

これらの情報は、2020年10月よりウェブページの収蔵資料データベースにて公開を行った。また、本システムにより維持・管理されているデータの一部は、独立行政法人国立科学博物館などとの協働により、インターネットを利用して外部に公開されている。

書籍登録状況

分 野	2019年度 までの 登録件数	2020年度 の 登録件数	合 計
図書	30,460	1,366	31,826
雑誌(タイトル数)	3,916	50	3,966
別刷り	340	0	340
合計	34,716	1,416	36,132

7.2.2. 展示情報システム

ミュージアムライブラリーにおいて、展示室で見られる資料や解説文からさらに深く踏み込んだ学習への欲求を持つ利用者に対して、研究に基づく博物館独自の新鮮な情報を、検索システムにより分かりやすく提供している。2020年度の新規作成はなかった。この他に、神奈川県立歴史博物館が作成・提供している「画像で見

る歴史と文化」、「収蔵品コレクション」も閲覧が可能である。

展示情報システムの一部は、2004年7月より、当館ならではのコンテンツとして、ウェブページ上で公開している。なお、2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ライブラリーでの端末の使用を中止した。

展示情報システムのメニュー

タイトル	メニュー	概 要
神奈川の自然	鳥類	神奈川に生息する鳥、218種の画像や解説文、分布図や鳴き声を提供する。
	植物	神奈川に自生している植物、2,969種の画像や解説文を提供する。
	昆虫	神奈川に生息する昆虫、639種の画像や解説文を提供する。
	相模湾の魚	相模湾の代表的な魚、329種の画像や解説文を提供する。
	コケ	神奈川県でよく見かけるコケ、82種の画像や解説文を提供する。
	鉱物	神奈川県に産する主な鉱物、126種の画像や解説文を提供する。
	関東ローム層	神奈川の主要な火山灰層、1,170点の画像や解説文を紹介する。
	菌類	神奈川県で見られるさまざまな菌類、164種の画像や解説文を提供する。
	空撮	神奈川の空から見た景観写真を770枚、うち学芸員のおすすめ写真を63枚解説と共に提供する。
酒井コレクション細密画	哺乳類	神奈川に生息する哺乳類20種の画像や解説文、骨の画像を380枚提供する。
	酒井恒博士夫妻が描かれたカニ原色細密画	酒井恒博士夫妻が描かれたカニ原色細密画、660種の画像を提供する。
	菌類細密画	菌類学者今関六也氏のコレクション菌類細密画、129点の画像を提供する。
	日本で見られる恐竜	国内の博物館で展示されている恐竜について、画像や解説文を提供する。
	衛星画像	衛星画像や宙瞰図など650枚、うち学芸員のおすすめ31枚解説と共に提供する。
図書・雑誌検索		当館のライブラリーで所蔵している図書26,423冊、雑誌3,651タイトルが検索できるように提供している。

7.3. インターネットの利用

7.3.1. ウェブサイト

小田原市と共同で1995年10月より開設していたウェブサイト（ウェブページ）は、当館へのサーバの設置に伴い、2006年2月より博物館独自の運用に切り替えた。2012年9月には利用者が使いやすく、また博物館の魅力が伝わるようウェブページのデザインを大幅に改良した。2020年9月にそれまで使用していたアプリケーションを入れ替えて、マルチデバイスに対応したウェブページが作成可能となった。ウェブ

ページでは博物館に関する様々な情報を提供しているが、そのトップページへのアクセス数を示したのが下の表である。2020年9月のソフトウェアの入れ替えに伴い、アクセス数が集計できるようになり、2021年1月より集計結果として使用している。

1997年度以降のアクセス実績に関しては、Ⅲ 資料の項（96ページ）に掲載した。

月別ウェブトップページアクセス数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
人 数	18,927	23,316	32,083	56,654	64,101	66,840	49,554	37,465	30,055	29,642	25,786	44,836	479,259	39,938

教育局総務室 ICT 推進グループから送付されてくるウェブサイトアクセス数（2020年12月まで）、2021年1月からは当館でカウント。

7.3.2. 連携サイト

独立行政法人国立科学博物館と連携し、当館所蔵の魚類画像資料の検索サイト「魚類写真資料データベース」とその英語版である「FishPix」をそれぞれ2001年と2003年から運用している。近年では毎年約5,000件の画像資料を追加している。

2004年度以降のそれぞれのページへのアクセス実績（ページビュー数；画像のダウンロード数は含まない）に関しては、Ⅲ 資料の項（96～97ページ）に掲載した。

連携して情報を公開しているウェブサイト

タイトル（アドレス）	概 要	アクセス数
魚類写真資料データベース https://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/photoDB/	魚類124,198件(150,120点)の画像を提供している。研究分野で公的機関が提供する画像データベースでは世界最大級。	2,444,417
FishPix https://fishpix.kahaku.go.jp/fishimage-e/index.html	魚類写真資料データベースの英語版として、魚類111,785件の画像を提供している。	2,635,487

アクセス数：2020年4月1日から2021年3月31日までのサイトアクセス数（件数）；国立科学博物館のデータ提供による。

7.4. 情報提供

7.4.1. GBIF への情報提供

GBIF（Global Biodiversity Information Facility：地球規模生物多様性情報機構）とは、生物多様性に関するデータを各国・各機関で収集し、ネットワークを通じて全世界的に利用することを目的とする国際協力による科学プロジェクトである。プロバイダごとにデータが蓄積され、その数は GBIF 全体では 2022 年 1 月 28 日現在 19 億 2,395 万件以上となっている。また、独立行政法人国立科学博物館が中心となり推進している自然史標本データ整備事業では、S-Net（サイエンスミュージアムネット）として国立科学博物館経由で GBIF に提供されたデータが国内向けに公開されている。

2006 年度から、当館を含む神奈川県内の博物館及び関連施設が連携を図り、自然史標本情報の整備や公開などを目的に、「自然史標本データベース神奈川委員会」が設置されている。2020

年度について、自然史標本データベース神奈川委員会への参加館は全 2 館、全体で 22,800 件の自然史標本情報の提供を行った。

2020 年度自然史標本データベース神奈川委員会
参加館

相模原市立博物館

神奈川県立生命の星・地球博物館

当館からの 2020 年度標本情報提供数

コレクション名	提供件数
維管束植物	10,000件
魚類	8,000件
哺乳類	500件
爬虫類	150件
両生類	150件
軟体動物	2,000件
昆虫	1,000件
合 計	21,800件

8. 連携機能

当館では、連携機能を活かした事業として、継続的なネットワーク事業、共催事業を実施するとともに、館内施設による利用者サービスを行っている。

8.1. 友の会

「神奈川県立生命の星・地球博物館 友の会」は、博物館を広く活用し、博物館活動を支援するとともに、会員相互の交流を図ることを目的に 1997（平成 9）年に発足した。

8.1.1. 事務局・広報部・企画部の活動

事務局は、会員の互選によって選出された役員によって運営されている。2020 年度も博物館と会員相互の親睦を深める事業や友の会の普及と発展のために必要な事業を多数企画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止や変更などの多い年となった。延期を重ねながら、7 月 1 日（水）～8 月 31 日（月）まで、博物館のミニ企画展示コーナーで「友の会会員 440 名とともにー学芸員や私たちとーいっしょに自然を楽しみませんかー」を開催した。

※参加予定だったミューズ・フェスタ 2021 は、同感染症の拡大防止のため中止となった。

[事務局]

1. 第 24 回 総会（書面開催）を開催した。
2. 役員会を 6 回開催し、以下の事項を検討・実施した。

役員会開催日

4 月 24 日（金）発送作業のみ実施
6 月 27 日（土）
9 月 19 日（土）
12 月 19 日（土）
2 月 6 日（土）リモート開催
3 月 20 日（土）リモート開催
3 月 28 日（日）発送作業のみ実施

- (1) 友の会の運営について
- (2) 会員への発送作業などについて

- (3) 総会、およびイベントについて
- (4) 新型コロナウイルス感染症対策について
- (5) コロナ禍における友の会の活動について
- (6) ミューズ・フェスタ 2021 について

[広報部]

1. 博物館ウェブサイト内の友の会ページ、ブログの管理・運営
2. ツイッター（@kpmto）による情報提供
3. 友の会 年間行事一覧表の作成・配付
4. 会報「友の会通信」を 4 回（通巻 第 108 ～ 111 号）発行
5. 「自然科学のとびら 友の会版」を 4 回（通巻 第 99 ～ 102 号）発行

[企画部]

1. 講座担当者会議を 2 回開催し、以下の事項を企画・実施した。

講座担当者会議開催日

11 月 7 日（土）

3 月 20 日（土）リモート開催

友の会が主催する講座や観察会を企画、博物館側との調整を行い、以下の講座を実施し、延べ 42 講座（そのうち中止 37 件）88 人が参加した（別表のとおり）。

2. 講座スタッフ用ビブス（ユニフォーム）を製作した。

8.1.2. 観察会・講座等

	行 事 名	開催日	開催場所	参加者数
1	植物観察会「春の花を訪ねて」	4/17(金)	東京都八王子市片倉城址	中止
2	よろずスタジオ「アンモナイトのレプリカを作ろう！」（館と共催 分野：古生物）	4/19(日)	東側講義室	中止
3	身近な植物観察入門	4/25(土)	博物館周辺	中止
4	総会	4/26(日)	SEISA ミュージアムシアター	中止
5	総会イベント 「身近な自然を楽しもう」	4/26(日)	博物館周辺	中止
6	企画展関連講演会 「ゴンドワナ大陸を語る」	5/6(水・休)	SEISA ミュージアムシアター	中止
7	第138回 サロン・ド・小田原「森の樹木の陣取り合戦」	5/9(土)	東側講義室	中止
8	植物観察会「新緑の御岳山を楽しむ」	5/13(水)	東京都青梅市	中止
9	横浜市栄区田谷町周辺の長沼層観察会	5/16(土)	横浜市長区	中止
10	よろずスタジオ「巻貝の中をのぞいてみよう！」（館と共催 分野：貝）	5/17(日)	東側講義室	中止
11	身近な植物観察入門	5/23(土)	博物館周辺	中止
12	昆虫観察会「5月だ！野山だ！虫 観に行こう！」	5/27(水)	小田原市曽我	中止
13	よろずスタジオ「葉脈標本をつくろう！」（館と共催 分野：植物）	6/14(日)	実習実験室	中止
14	「地話懇話会～地学分野の話題を皆さんで気軽に話し合いましょう～」	6/24(水)	西側講義室	中止
15	身近な植物観察入門	6/27(土)	博物館周辺	中止
16	生物間共生講演会Ⅷ「細菌と私たち～実は身近な細菌たち～」	7/11(土)	西側講義室	中止
17	ハルネ出前よろずスタジオ（館と共催 分野：総合）	8/14(金)	小田原ハルネ	中止
18	ハルネ出前よろずスタジオ（館と共催 分野：総合）	8/15(土)	小田原ハルネ	中止
19	大人の昆虫講座「カメムシを知ろう」	8/20(木)	実習実験室	中止
20	「地話懇話会～地学分野の話題を皆さんで気軽に話し合いましょう～」	8/26(水)	西側講義室	中止
21	第139回 サロン・ド・小田原「火山列島探検調査－絶海の孤島を探る－」	8/29(土)	東側講義室	中止
22	植物観察会「初秋の高原の花々」	9/1(火)	長野県富士見町入笠山	中止
23	よろずスタジオ「いろんなキノコを見てみよう」（館と共催 分野：菌類）	9/13(日)	東側講義室	中止
24	昆虫観察会「秋の虫こんにちは」	9/30(水)	小田原市久野	中止
25	植物観察会「草原の秋草を楽しむ」	10/5(月)	熱海市岩戸山	16
26	よろずスタジオ「動物の歯とたべもの」（館と共催 分野：動物）	10/18(日)	東側講義室	38
27	生物間共生講演会Ⅸ「葉っぱの上で大勝負」	10/24(土)	西側講義室	中止
28	身近な植物観察入門	10/24(土)	博物館周辺	9
29	植物観察会「秋の深まりを感じて歩く」	11/5(木)	県立座間谷戸山公園	18
30	第140回 サロン・ド・小田原「神奈川県鳥瞰図 V.S. 宇宙から見た神奈川」	11/14(土)	東側講義室	中止
31	よろずスタジオ「木の実・草の実でリースを作ろう」（館と共催 分野：植物）	11/15(日)	東側講義室	中止
32	身近な植物観察入門	11/28(土)	博物館周辺	7
33	地学観察会「テフラ観察会」	12/12(土)	関東地方南部	中止
34	よろずスタジオ「ミツクリザメを観察しよう！」（館と共催 分野：魚類）	12/20(日)	東側講義室	中止
35	よろずスタジオ「砂で遊ぼう」（館と共催 分野：地学）	1/17(日)	東側講義室	中止
36	植物観察会「冬の樹木」	1/23(土)	横浜自然観察の森	中止
37	地図を楽しもう－地図を読む実践講座－	1/23(土)	実習実験室・博物館周辺	中止
38	「地話懇話会～地学分野の話題を皆さんで気軽に話し合いましょう～」	1/27(水)	西側講義室	中止
39	よろずスタジオ「昆虫の体を調べてみよう！」（館と共催 分野：昆虫）	2/21(日)	東側講義室	中止
40	第141回 サロン・ド・小田原「新種発表の裏側－菌類の基礎研究を支える博物館での市民調査－」	2/27(土)	東側講義室	中止
41	ミューズ・フェスタ 2021	3/13(土) 3/14(日)	シアター・東西両講義室	中止
42	「拡大版 地話懇話会～地学分野の話題を皆さんで気軽に話し合いましょう～」	3/27(土)	東西両講義室	中止
合 計				88

8.2. サロン・ド・小田原

サロン・ド・小田原は、友の会との共催による講演・交流会からなる集いの1つ。従来の講演会や茶話会とは異なり、第1部の話題提供（講演）、第2部の交流会（ワークショップなど）を併せて「サロン」と位置づけ、いわゆるサイエンスカフェのように参加者と話題提供者の交流が深まることを期待している。2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

8.3. 神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会（WESKAMS）

神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会は、「神奈川県西部地域にあるミュージアムがネットワーク化をはかり、これからの新しいミュージアムのありかたを考えていこう」と当館のよびかけのもとに1996年7月に発足し、現在の加盟館園は54施設になる。会の愛称をWEST KANAGAWA MUSEUMSを略して「WESKAMS（ウエスカムズ）」と名付け、その事務局を当館にしている。

WESKAMSの目的を達成させるための事業について、協議・検討する場として「館園長・協力会員会議」を年1回開催しているが、2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため会議は中止となり、メールにより代替とした。

また、WESKAMSに加盟する、ミュージアム施設が連携し、情報交換・相互理解のために互いの施設を訪問・見学する企画を、学習支援と地域文化発展に寄与するため、1997年10月から「ミュージアム・リレー」として一般に公開している。毎月1回、持ち回りで各施設の協力を得て開催し、施設の特色を活かした特別な企画や、学芸員、専門スタッフによる分かりやすい解説が一般参加者に好評を博している。

今年度開催された会議

開催日	会議の名称	開催場所	出席者数
8/28(金)	情報交換会	生命の星・地球博物館	3館園3名
3/5(金)	館園長・協力会員会議	生命の星・地球博物館	※メールにより代替

今年度開催されたミュージアム・リレー

回 数	開催日	開催場所	内 容	参加者		
				一般	高校生	関係者
第275走	4/17(金)	①箱根ビジターセンター	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	—	—	—
第276走	5/13(水)	①箱根美術館	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	—	—	—
		②箱根写真美術館				
		③箱根強羅公園				
第277走	7/15(水)	①星の王子さまミュージアム箱根サン＝テグジュペリ	①サン＝テグジュペリゆかりの城や街並みなどを再現した建物などを見学しながら解説を受けた。また、最も有名な作品のひとつである「星の王子さま」のストーリーに沿った展示を見学した。	2	0	3
		②箱根ガラスの森美術館	②ヴェネチアン・グラス美術館の中で、繊細な技法を凝らした多様な作品の解説を聞きながら鑑賞した。また、庭園内のガラスのアジサイや噴水などを見学した。	3	0	3
第278走	8/28(金)	①箱根湿生花園	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	—	—	—
		②県立生命の星・地球博物館				
第279走	9/18(金)	①人間国宝美術館	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	—	—	—
		②町立湯河原美術館				

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

回 数	開催日	開催場所	内 容	参加者		
				一般	高校生	関係者
第280走	10/9 (金)	①箱根関所	台風第14号の影響による荒天予報のため中止	—	—	—
		②恩賜箱根公園				
第281走	10/23 (金)	①真鶴町立 中川一政美術館	①開催中の企画展「中川一政 美の探訪」の展示作品 (絵画・書等)を鑑賞しながら、同氏が生涯を通して表現してきた「美」の変遷について解説を受けた。	2	0	3
		②真鶴町立 遠藤貝類博物館	②開館の経緯の説明と、開館10周年を記念して開催中の特別展「遠藤晴雄と貝」の解説を受けながら、館内の「真鶴や相模湾」「日本」「外国」の3展示別になった貝コレクションの説明を受けた。	2	0	2
第282走	11/6 (金)	①徳富蘇峰記念館	①新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	—	—	—
		②二宮町 ふたみ記念館	②ふたみ記念館設立の経緯と二見利節の画業を解説とビデオで紹介。水彩連盟代表者の説明で、約50点の作品ひとつひとつについて、絵画構成や印象等の解説を受けた。			
第283走	11/20 (金)	①箱根ドールハウス 美術館	①「ドール」とは「小さい」を意味し、16世紀の南ドイツのニュルンベルクで、城を建てる際の模型として製作されたのが始まり。館長が20年の歳月をかけて収集したコレクションを堪能した。	4	0	4
		②箱根町立 郷土資料館	②開催中の企画展「古写真に見る幕末・明治の箱根」展の説明を受けた後、展示室の見学をした。江戸時代末から明治30年代頃にかけて、来日外国人に人気の観光地となった箱根の風景写真の位置づけについて解説を受けた。	12	0	4
第284走	12/ 1 (火)	①県立おだわら 諏訪の原公園	①ミカン栽培の果樹園にて、柑橘類全般の解説と、園内に植えられたミカンの説明を受けた。交配しづらいミカンに対処するため、カラタチへの接ぎ木方法などの解説を受けた。	6	0	2
		②小田原城天守閣	②SAMURAI館で甲冑や刀剣の説明を受けた後、天守閣へ移動した。天守閣復興60周年にあたり、小田原城の歴史や天守閣再建に至るまでの経緯や復興のあゆみを紹介した特別展「復興 小田原城天守閣」の解説を受けた。	3	0	2
第285走	12/9 (水)	①箱根ラリック 美術館	①アール・ヌーボーからアール・デコの時代に活躍したルネ・ラリックの生涯にわたる作品について、代表作を中心に解説を受けた。当時の時代背景と作品の特徴の移り変わりを含めた解説があった。	1	0	2
第286走	1/22 (金)	①箱根駅伝 ミュージアム	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	—	—	—
		②箱根町立箱根 ジオミュージアム				
第287走	2/5 (金)	①MOA美術館	①「名品展 国宝『紅白梅図屏風』」を開催中。最初に美術セミナーとして尾形光琳の「紅白梅図屏風」等、館所有の国宝等の画像を見ながら説明を受けた後、1室から6室まで順次ポイントとなる作品の説明を受けた。	2	0	2
第288走	2/19 (金)	①小田原 フラワーガーデン	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	—	—	—
		②小田原市尊徳記念館				
第289走	3/5 (金)	①小田原文学館	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	—	—	—
		②県立生命の星・地球 博物館				

8.4. 館内施設等の状況

当館では利用者へのサービス充実のため、売店「ミュージアムショップ」、レストラン「フォーレ」、ともしびショップ・喫茶「あーす」の各施設を外部からのテナントにより設置している。

売店「ミュージアムショップ」（1階）

生涯学習施設としての博物館におけるミュージアムショップであることから、展示内容と関連した物をできるだけ世界中から取り寄せている。例えば、中国遼寧省やアメリカ・ユタ州の化石、アメジスト、水晶、メノウはブラジル、モルダバイトはチェコからなど展示物の秘めたメッセージの伝わるグッズを販売している。特別展に際しては、それぞれの展示コンセプトに合わせて特別コーナーを設置している。

また、博物館とショップスタッフとの定期ミーティングを通して、博物館におけるミュージアムショップのあり方や扱うグッズについて検討を行っている。それによって当館学芸員の執筆による博物館刊行物の発行や自然科学系書籍の充実、オリジナル商品の開発などの成果をあげた。

博物館の来館者が、その感動や驚きを持ち帰り、また行ってみようと思っただけのような空間づくりとしている。

レストラン「フォーレ」（3階）

早川のせせらぎ、緑の山並みに囲まれたロケーションの博物館レストランは、見学による「博物館疲労」を癒し、感動や驚きの余韻を語り合う空間として重要であり、利用者サービスの一翼を担っている。

メニューは、サンドイッチなどの軽食から、ハンバーグ、カレーライスなどの洋食、箱根そばをセットにした和食などを用意している。また、ケーキ・メニューなども充実しており、どなたにでも対応できる品揃えとなっている。事前の予約があれば、障がい者に配慮した調理方法での提供も可能な範囲で対応している。利用状況は、日曜日、祝日、春・夏休み等、学校の休みの日には利用者が多く混雑するが、夏季期間中にテラスの部分を利用した野外席を用意し、混雑の緩和を図っている。

今後も、博物館及び地域のレストランとしての特色を出すため、利用者のニーズを意識し、内容の充実と明るく雰囲気の良いレストランを目指していく。

ともしびショップ・喫茶「あーす」（1階）

「ともしびショップ」は、障がい者の社会参加の促進、就労の場の確保の視点から、障がい者の働ける場として設置されており、当ショップは県内では4店目にあたる。

「あーす」は、来館者の休憩場所として喫茶を営業しているほか、市内の入所施設・作業所等での自主製品の販売も行っている。

III 資料

1. 条例・規則

1.1. 神奈川県立の博物館条例

神奈川県立の博物館条例

昭和 41 年 10 月 7 日
条例第 43 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、神奈川県立の博物館の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 条 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）に基づき、次のとおり神奈川県立の博物館（以下「博物館」という。）を設置する。

名 称	位 置	目 的
神奈川県立歴史博物館	横浜市中区南仲通 5 丁目 60 番地	神奈川の文化及び歴史に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。
神奈川県立生命の星・地球博物館	小田原市入生田 499 番地	地球及び生命の営みに関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。

(職員)

第 3 条 博物館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付等)

第 4 条 博物館に展示している博物館資料を観覧する者（以下「観覧者」という。）は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している博物館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項本文の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会（以下「教育委員会」という。）がその都度定めることができる。

3 教育委員会は、第 1 項本文及び前項に規定する観覧料を納めた者に観覧券を交付するものとする。

4 観覧者（別表備考 2 に規定する者を除く。）は、入館する際に、前項に規定する観覧券又はこれに代わるものとして教育委員会が認めたものを提出し、又は提示しなければならない。

(観覧料の減免)

第 5 条 前条第 1 項本文及び第 2 項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

- (1) 教育委員会が開催する行事に参加する者
- (2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生（学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号。別表備考において「法」という。）第 1 条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表において同じ。）並びに児童及び生徒の引率者
- (3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第 6 条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第 7 条 博物館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第 8 条 教育委員会は、博物館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

- (1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。
- (2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。
- (3) 施設、博物館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。
- (4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第 9 条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表（第4条関係）

区 分		個人	20人以上 の団体
神奈川県立 歴史博物館	20歳以上65歳未満の 者（学生及び高校生 を除く。）	1人につき 300円	1人につき 250円
	20歳未満の者（高校 生を除く。）学生 （65歳以上の者を除 く。）	同 200円	同 150円
	65歳以上の者 高校生	同 100円	同 100円
神奈川県立 生命の星・ 地球博物館	20歳以上65歳未満の 者（学生及び高校生 を除く。）	同 520円	同 410円
	20歳未満の者（高校 生を除く。）学生 （65歳以上の者を除 く。）	同 300円	同 200円
	65歳以上の者 高校生	同 100円	同 100円

備考1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。

2 学齢に達しない者並びに法第1条に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

1.2. 神奈川県立の博物館組織規則

神奈川県立の博物館組織規則

昭和41年11月18日
教育委員会規則第10号

（趣旨）

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の組織に関し必要な事項を定めるものとする。

（部等の設置）

第2条 神奈川県立の博物館に、次の部及び課を置く。

管理課
企画情報部
企画普及課
情報資料課
学芸部

（管理課の事務）

第3条 管理課においては、次の事務を分掌する。

- （1）公印に関すること。
- （2）文書の收受、発送、保存、閲覧等に関すること。
- （3）個人情報の開示、訂正、利用停止等に関すること。
- （4）人事に関すること。
- （5）財産の管理及び館内の秩序の維持に関すること。
- （6）予算の経理に関すること。
- （7）観覧料の徴収に関すること。
- （8）物品の調達及び処分に関すること。
- （9）寄贈品の受納並びに寄託品の受納及び返納

に関すること。

（10）その他他部課の主管に属しないこと。

第4条 削除

（企画普及課の事務）

第5条 企画普及課においては、次の事務を分掌する。

- （1）博物館活動の企画及び調整に関すること。
- （2）博物館活動の普及及び広報に関すること。
- （3）博物館活動に関する講演会、講習会、研究会等の開催に関すること。
- （4）他の博物館その他教育、学術又は文化に関する施設、団体等との連絡、協力及び情報の交換に関すること。

（情報資料課の事務）

第6条 神奈川県立歴史博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- （1）人文科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- （2）博物館情報システムの運用に関すること。

2 神奈川県立生命の星・地球博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- （1）自然科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- （2）博物館情報システムの総合的企画及び調整並びに運用に関すること。

(学芸部の事務)

第7条 学芸部においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説及び指導に関すること。
- (2) 博物館資料の専門的及び技術的な調査研究

に関すること。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、神奈川県教育委員会教育長が定める。

1.3. 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

昭和41年11月18日

教育委員会規則第9号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の利用等に関し必要な事項を定めるものとする。

(権限の委任)

第2条 次に掲げる神奈川県教育委員会の権限は、神奈川県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に委任する。

- (1) 神奈川県立の博物館条例（昭和41年神奈川県条例第43号。以下「条例」という。）第4条第2項の規定により観覧料を定めること。
- (2) 条例第4条第3項の規定により観覧券を交付すること。
- (3) 条例第4条第4項の規定により観覧券に代わるものを認めること。
- (4) 条例第5条の規定により観覧料を減免すること。
- (5) 条例第6条ただし書の規定により観覧料の還付を認めること。
- (6) 条例第7条の規定により利用を承認すること。
- (7) 条例第8条の規定により利用を制限すること。

(休館日等)

第3条 神奈川県立歴史博物館及び神奈川県立生命の星・地球博物館（以下「博物館」という。）の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「国民の祝日等」という。）に当たるときを除く。）
 - (2) 国民の祝日等の翌日（土曜日、日曜日又は国民の祝日等に当たるときを除く。）
 - (3) 12月28日から翌年の1月4日まで
 - (4) その他教育長が定める日
- 2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、臨時に博物館を開館することができる。

(開館時間等)

第4条 開館時間は、次のとおりとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があ

名 称	開館時間
神奈川県立歴史博物館	午前9時30分から午後5時まで。 ただし、午後4時30分以降は、入館することができない。
神奈川県立 生命の星・地球博物館	午前9時から午後4時30分まで。 ただし、午後4時以降は、入館することができない。

ると認めるときは、これを変更することができる。

(観覧券の様式)

第5条 条例第4条第3項に規定する観覧券は、神奈川県立歴史博物館にあつては第1号様式とし、神奈川県立生命の星・地球博物館にあつては第2号様式とする。

(観覧料の減免申請)

第6条 観覧料の減免を受けようとする者は、あらかじめ、観覧料減免申請書を教育長に提出し、観覧料減免承認書の交付を受けなければならない。

(観覧料の還付申請)

第7条 観覧料の還付を受けようとする者は、観覧料還付申請書に観覧券を添えて教育長に提出し、観覧料還付承認書の交付を受けなければならない。

(資料の特別利用)

第8条 条例第7条の規定により博物館資料の特別利用の承認を受けようとする者は、特別利用承認申請書を教育長に提出し、特別利用承認書の交付を受けなければならない。

(利用の方法)

第9条 博物館を利用する者は、博物館の管理上必要な事項を守り、職員の指示に従わなければならない。

(資料の館外貸出し)

第10条 次に掲げるものは、教育長の承認を受けて博物館資料の館外貸出しを受けることができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法（昭和26年法律第285号）第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣の指定した博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法（昭和24年法律第207号）第21条

- に規定する公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法（昭和 25 年法律第 118 号）第 2 条第 1 項に規定する図書館
- (4) 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 1 条に規定する学校
- (5) その他教育長が適当と認めるもの
- 2 前項の規定による承認を受けようとするものは、館外貸出承認申請書を教育長に提出し、館外貸出承認書の交付を受けなければならない。
- (館外貸出しの期間)
- 第 1 1 条 博物館資料の館外貸出しの期間は、30 日以内とする。ただし、教育長は、特に必要があると認めるときは、これを延長することができる。
- 2 前項の館外貸出しの期間は、博物館が当該博物館資料を引き渡した日から起算してその返還を受ける日までの日数により算定するものとする。
- 3 教育長は、館務の都合により必要があるときは、博物館資料の館外貸出しの期間中であつても、当

- 該博物館資料の返還を求めることができる。
- (館外貸出しをした資料の利用方法)
- 第 1 2 条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所で、利用してはならない。
- (資料減失等の届出)
- 第 1 3 条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を減失し、又は損傷したときは、直ちに資料減失（損傷）届出書を教育長に提出しなければならない。
- (寄託を受けた資料の利用の制限)
- 第 1 4 条 寄託を受けた博物館資料の館外展示及び館外貸出しは、寄託者の承諾がある場合のほかは、行なうことができない。
- (委任)
- 第 1 5 条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

2. 館年表

2.1. 再編整備決定から開館まで

1986 年		3 月	自然系博物館の建設事業が、小田原市との協調事業となる
12 月	第二次新神奈川計画において、博物館の再編整備が決定		神奈川県立自然系博物館（仮称）資料収集計画策定
1988 年			博物館情報システム整備計画策定
7 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）を小田原市入生田に建設することが決定	9 月	博物館情報システム実施計画策定
12 月	神奈川県立博物館整備構想懇談会（座長：渡邊 格（慶応義塾大学名誉教授））から提言	10 月	建築基本設計着手
1989 年		1991 年	
3 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）整備計画策定	3 月	自然系博物館（仮称）建設用地（小田原市入生田）取得
	神奈川県立自然系博物館（仮称）展示計画策定	4 月	組織改正により教育庁社会教育部社会教育課が、生涯学習部生涯学習課となる
4 月	教育庁社会教育部社会教育課に博物館建設準備班を設置	10 月	第一期造成工事着手
11 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）資料収集委員会（委員長：上田誠也（東京大学名誉教授））発足		建築実施設計着手
12 月	展示設計プロポーザル実施	1992 年	
	展示基本設計着手	4 月	組織改正により生涯学習部博物館開設準備室となり、企画調整班、自然系整備班、人文系整備班、展示・資料整備班の 4 班体制となる
1990 年		6 月	第二期造成工事着手
2 月	建築設計プロポーザル実施	8 月	博物館情報システム開発プロポーザル実施
	建築調査設計着手		博物館情報システム開発調査設計着手
		10 月	自然系博物館（仮称）建築工事着工
			自然系博物館（仮称）展示工事着工

1993 年		1995 年	
4 月	博物館情報システム開発着手	1 月 1 日	神奈川県立生命の星・地球博物館が機関設置され、管理部に管理課、経理課、企画情報部に企画普及課、情報資料課及び学芸部の 3 部 4 課を置く
6 月	第三期造成工事着手	3 月	博物館法第 11 条の規定に基づく登録博物館となる
1994 年			生命の星・地球博物館展示工事竣工
6 月	第四期造成工事着手	3 月 20 日	開館記念式典実施
12 月	自然系博物館（仮称）建築工事竣工 神奈川県立博物館条例一部改正	3 月 21 日	一般公開開始

2.2. 開館から 2020 年度末まで（資料収集・調査研究事業を除く）

1995 年		2001 年	
3 月 21 日	一般公開開始	3 月 20 日	開館 6 周年記念講演会「自然史（誌）を楽しむ～いま箱根の自然は～」
4 月 29 日	開館記念講演会「地球を歩いてみませんか」濱田隆士・中雄一	3 月 27 日	神奈川県博物館協議会を廃止
5 月 7 日	入館者 10 万人到達（開館 41 日目）	4 月 15 日	青木淳一館長が南方熊楠賞を受賞
6 月 22 日	紺綬褒章の伝達式（櫻井都美子・小泉明裕）	10 月 19 日	中国遼寧省職員視察
9 月 6 日	ジブチ共和国大統領ご視察	11 月 9 日	ミュージアム・リレー第 50 走達成記念講演会
9 月 24 日	入館者 30 万人到達（開館 158 日目）	11 月 22 日	ミュージアム・リレー第 50 走達成記念シンポジウム
11 月 10 日	神奈川県博物館協議会（2001 年まで毎年実施）	11 月 23 日	日本蜻蛉学会（11 月 25 日まで）
1996 年		2002 年	
3 月 20 日	開館 1 周年記念講演会「自然史（誌）系博物館の位置づけ」沼田眞・中川志郎・濱田隆士	2 月 21 日	博物館課題研究会「博物館のめざすべき方向」
4 月	シンボルマーク製作	3 月 19 日	箱根フリーパス対象施設に参加
4 月 17 日	入館者 50 万人到達（開館 321 日目）	3 月 21 日	開館 7 周年記念シンポジウム「蝕まれるかながわの生物」
6 月 1 日	学習指導員による団体サービス（ガイダンス）開始	7 月 19 日	入館者 250 万人到達（開館 2,206 日目） 250 万人達成感謝 ウィーク
9 月	ガイダンスビデオ製作	7 月 21 日	「自然を楽しむみち」案内板贈呈式
1997 年		2003 年	
3 月 1 日	エントランスガイダンス開始	1 月 30 日	博物館課題研究会「博物館の独立行政法人化の動きと現状について」
3 月 20 日	開館 2 周年記念講演会「3 年目を迎える博物館の新しい活動・博物館をこんなふうにご利用してみませんか」浜口哲一・濱田隆士 バリアフリー音声ガイドサービス開始	3 月 11 日	全国科学博物館協議会総会（3 月 12 日まで）
3 月 21 日	日本植物分類学会第 27 回大会（3 月 23 日まで）	3 月 21 日	ミューズ・フェスタ（開館記念事業として、以降毎年実施）
2000 年		3 月 28 日	青木淳一館長が小田原城下町大使に就任
3 月 20 日	開館 5 周年記念講演会「博物館は宝の山！」	7 月 20 日	夏休み期間中、17 時 30 分まで開館時間延長（2004 年まで実施）
3 月 23 日	Xu Daosheng（湖北省博物館）・Jang, Sang-Hoon（韓国国立中央博物館）ほか視察	8 月 2 日	日本蘚苔類学会（8 月 3 日まで）
3 月 31 日	濱田隆士館長退任	2004 年	
4 月 1 日	青木淳一館長就任	3 月 9 日	博物館課題研究会「博物館評価の現状とその実例について」
5 月 13 日	日本土壤動物学会第 23 回大会（5 月 14 日まで）	5 月 25 日	入館者 300 万人到達（開館 3,770 日目）
8 月 6 日	入館者 200 万人到達（開館 1,613 日目）	11 月 20 日	日本鞘翅学会第 17 回大会（11 月 21 日まで）
10 月 6 日	2000 年度日本魚類学会年会（10 月 9 日まで）	2005 年	
10 月 15 日	200 万人達成記念展示「写真コンテスト応募作品」	3 月 8 日	博物館課題研究会「指定管理者制度とその導入の動向について」
		7 月 18 日	夏休み中無休開館期間（以降、毎年実施）

2006 年

- 1 月 14 日 ミュージアム・リレー第 100 走達成記念行事 (1 月 15 日まで)
- 3 月 23 日 博物館課題研究会「指定管理者の指定を受けて」
- 3 月 31 日 青木淳一館長退任
- 4 月 1 日 管理部と経理課が廃止され、管理課、企画情報部の企画普及課、情報資料課及び学芸部の 2 部 3 課となる。
斎藤靖二館長就任
- 7 月 8 日 入館者 350 万人到達 (開館 3,409 日目)
- 11 月 12 日 自然史学会連合講演会「教科書で学べない自然史」
- 5 月 10 日 生命の星・地球博物館友の会発足
- 7 月 23 日 入館者 100 万人到達 (開館 705 日目)
- 10 月 17 日 WESKAMS ミュージアム・リレーを開始
- 11 月 15 日 日本鞘翅学会第 10 回記念大会 (11 月 16 日まで)

1998 年

- 1 月 30 日 日本古生物学会 1998 年年会 (2 月 1 日まで)
- 3 月 21 日 開館 3 周年記念事業「生命の星・地球フェスタ '98」 (3 月 29 日まで)
- 3 月 30 日 天皇皇后両陛下下行幸啓
- 4 月 4 日 日本動物分類学会第 34 回大会 (4 月 5 日まで)
- 8 月 26 日 日本第四紀学会 1998 年大会 (8 月 28 日まで)
- 9 月 12 日 中国遼寧省友好代表团来館
- 11 月 3 日 入館者 150 万人到達 (開館 1,090 日目)

1999 年

- 3 月 20 日 「トーキングサイン・ガイドシステム」発表会
- 8 月 4 日 中国科学院南京地質古生物学研究所所長ほか視察
- 11 月 6 日 日本蜻蛉学会大会 (11 月 7 日まで)
- 11 月 12 日 天皇陛下ご在位 10 周年慶祝事業 無料公開
- 11 月 14 日 みなかんネットワーク大会
- 11 月 27 日 常設展示化石標本 3 点の盗難を確認
- 12 月 9 日 常設展示化石標本 10 点の盗難を確認

2007 年

- 2 月 28 日 全国科学博物館協議会理事会総会
- 3 月 30 日 博物館課題研究会

2008 年

- 3 月 11 日 博物館課題研究会
- 3 月 22 日 子ども自然科学作品展 (以降毎年実施)
- 8 月 12 日 入館者 400 万人到達 (開館 4,062 日目)

2009 年

- 3 月 10 日 博物館課題研究会「展示照明の現状と課題」

2010 年

- 10 月 21 日 入館者 450 万人到達 (開館 4,863 日目)

2011 年

- 3 月 13 日 ミューズ・フェスタ 2011 (東日本大震災により中止)

2012 年

- 8 月 3 日 入館者 500 万人到達 (開館 5,183 日目)

2013 年

- 8 月 22 日 世界の動物切手コレクション寄贈 (功刀欣三様)
- 10 月 8 日 天皇陛下下行幸啓 (特別展天覧)
- 11 月 29 日 奥村定一昆虫コレクション寄贈 (奥村哲子様)

2014 年

- 1 月 13 日 入館者 550 万人到達 (開館 5,716 日目)
- 3 月 19 日 貝類標本コレクション寄贈 (名倉菊江様)
- 3 月 31 日 斎藤靖二館長退任
- 4 月 1 日 平田大二館長就任、斎藤靖二名誉館長就任
- 7 月 7 日 林原自然科学博物館教材・教育用標本一式寄贈 (株式会社林原メセナセンター)
- 9 月 11 日 メソサウルス類化石・ダウリアチョウザメ本剥製・アラスカ産オオカミ本剥製寄贈 (三浦菊男様)
- 11 月 14 日 第 47 回日本魚類学会年会 (11 月 17 日まで)

2015 年

- 3 月 15 日 開館 20 周年記念シンポジウム「自然史系博物館のあるべき姿と評価軸ー生命の星・地球博物館の活動からー」
- 8 月 29 日 入館者 600 万人到達 (開館 6,190 日目)
- 10 月 31 日 今関細密画コレクション寄贈 (今関士郎様)

2016 年

- 3 月 16 日 子ども自然科学作品展会期を延長 (5 月 8 日まで)
活動報告展の休止

2017 年

- 5 月 3 日 入館者 650 万人到達 (開館 6,667 日目)

2018 年

- 10 月 26 日 入館者 700 万人到達 (7,104 日目)

2019 年

- 1 月 25 日 日本古生物学会第 168 回例会 (1 月 27 日まで)
- 2 月 24 日 天皇陛下ご在位 30 周年慶祝事業 無料公開
- 5 月 1 日 天皇御即位慶祝事業無料公開
- 6 月 8 日 日本動物分類学会第 55 回大会 (6 月 9 日まで)
- 10 月 22 日 即位礼正殿の儀無料公開

2020 年

- 3 月 4 日 新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館 (6 月 30 日まで)

2021 年

- 1 月 12 日 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館 (3 月 22 日まで)
- 3 月 23 日 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館を継続 (ただし事前に予約をされた方に限り入館可能)

3. 統計資料

3.1. 利用者状況

3.1.1. 常設展示室の入場者状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数		0	0	0	28	31	25	26	23	20	7	0	8	168
有料入場者数	個人 成年	0	0	0	10,226	14,896	11,339	7,794	6,421	3,533	987	0	2,097	57,293
	未成年・学生	0	0	0	228	452	421	199	238	172	39	0	101	1,850
	高校生	0	0	0	56	286	87	60	74	35	8	0	50	656
	65歳以上	0	0	0	850	1,323	1,377	1,386	1,032	446	94	0	264	6,772
	団体 成年	0	0	0	4	0	0	39	0	0	0	0	0	43
	未成年・学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	高校生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	65歳以上	0	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	22
	小計	0	0	0	11,364	16,957	13,224	9,500	7,765	4,186	1,128	0	2,512	66,636
	無料入場者数	0	0	0	2,951	4,119	3,477	2,253	1,957	1,128	351	0	806	17,042
	園児	0	0	0	2,157	4,746	2,649	2,871	3,193	2,320	215	0	786	18,937
	小学生	0	0	0	194	665	185	126	242	464	24	0	85	1,985
	中学生	0	0	0	609	806	572	417	482	243	57	0	103	3,289
	障がい者	0	0	0	50	158	229	334	434	437	45	0	16	1,703
	その他	0	0	0	5,961	10,494	7,112	6,001	6,308	4,592	692	0	1,796	42,956
	小計	0	0	0	17,325	27,451	20,336	15,501	14,073	8,778	1,820	0	4,308	109,592
合計		0	0	0	17,325	27,451	20,336	15,501	14,073	8,778	1,820	0	4,308	109,592
1日平均（人）		0	0	0	618.8	885.5	813.4	596.2	611.9	438.9	260	0	538.5	652.3
前年比（％）		0.0	0.0	0.0	68.7	65.0	98.6	74.0	73.5	99.1	15.3	0.0	988.1	50.1

		2020年度			一般公開開始からの累計(※)		
		1日平均	構成比（％）	前年度比（％）	入場者	1日平均	構成比（％）
有料入場者数	個人 成年	341.0	52.3	73.1	2,309,299	301.9	34.1
	未成年・学生	11.0	1.7	75.2	90,705	11.9	1.3
	高校生	3.9	0.6	48.1	18,836	2.5	0.3
	65歳以上	40.3	6.2	48.2	172,483	22.5	2.5
	団体 成年	0.3	0.0	0.8	219,402	28.7	3.2
	未成年・学生	0.0	0.0	0.0	8,906	1.2	0.1
	高校生	0.0	0.0	0.0	1,730	0.2	0.0
	65歳以上	0.1	0.0	1.0	41,206	5.4	0.6
	小計	396.6	60.8	64.1	2,862,567	374.2	42.2
	無料入場者数	101.4	15.6	58.3	624,744	81.7	9.2
	園児	112.7	17.3	35.5	1,751,151	228.9	25.8
	小学生	11.8	1.8	26.3	293,640	38.4	4.3
	中学生	19.6	3.0	41.2	200,597	26.2	3.0
	障がい者	10.1	1.6	10.3	1,046,430	136.8	15.4
	その他	255.7	39.2	37.5	3,916,562	512.0	57.8
	小計	652.3	100.0	50.1	6,779,129	886.3	100.0
合計		652.3	100.0	50.1	6,779,129	886.3	100.0

2020年度の記録

最高：2020年9月20日（日） 3,318人

最低：2021年1月8日（金） 106人

※ 1995年3月21日から 7,649日開館

3.1.2. 特別展示室の入場者状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開場日数	0	0	0	28	31	25	26	6	0	0	0	8	124
有料	成年												0
	未成年・学生												0
	高校生												0
	65歳以上												0
	小 計												0
無料				10,285	17,143	11,550	8,878	2,948	0	0		2,903	53,707
合 計	0	0	0	10,285	17,143	11,550	8,878	2,948	0	0	0	2,903	53,707
1日平均 (人)	—	—	—	367.3	553.0	462.0	341.5	491.3	—	—	—	362.9	433.1

3.1.3. 講座・観察会・研修会等参加者状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
講座・講演会	0	0	0	0	0	53	146	117	48	0	0	0	364
サロン・ド・小田原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
研修・実習・学校	0	0	0	0	0	59	43	97	189	0	10	0	398
ボランティア活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
博物館実務実習	0	0	0	0	121	118	40	0	0	0	0	0	279
合 計	0	0	0	0	121	230	229	214	237	0	10	0	1,041

3.2. 年度別利用者数の推移

年度	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
開館日数	10	297	301	301	299	298	301	307	307	303
利用者										
入館者	(24,374)	(453,210)	(393,932)	(377,187)	(349,425)	(295,118)	(270,166)	(254,478)	(267,625)	(268,851)
常設展入場者	24,374	453,210	393,932	377,187	349,425	295,118	270,166	254,478	267,625	268,851
特別展示室入場者		42,951	109,851	99,825	96,573	77,239	77,058	67,397	105,344	108,259
ライブラリー利用者						129,726	117,747	100,307	103,086	104,128
講座・観察会・研修等参加者		2,381	2,402	1,683	1,708	1,943	6,634	2,962	2,136	3,280

年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
開館日数	299	305	309	311	308	306	304	308	305	299
利用者						306,563	299,089	344,328	355,803	352,066
入館者	(242,368)	(234,012)	(241,549)	(232,650)	(232,046)	(217,690)	(208,682)	323,873	334,695	329,340
常設展入場者	242,368	234,012	241,549	232,650	232,046	217,690	208,682	241,344	242,524	240,240
特別展示室入場者	107,992	117,014	108,588	113,682	98,305	103,527	82,631	113,601	112,793	73,769
ライブラリー利用者	89,973	94,166	97,399	97,072	92,465	87,370	82,840	90,131	95,337	97,463
講座・観察会・研修等参加者	5,561	9,291	7,863	8,328	8,572	10,344	6,817	16,827	18,294	24,765

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
開館日数	287	288	286	289	290	264	168
利用者	326,030	311,391	338,554	341,443	333,731	312,298	136,451
入館者	310,088	295,644	315,978	319,134	313,533	294,286	131,986
常設展入場者	227,354	220,651	236,404	239,678	239,320	218,659	109,592
特別展示室入場者	117,841	71,908	98,234	94,284	55,749	66,673	53,707
ライブラリー利用者	92,401	94,699	87,411	91,143	98,136	90,877	50,140
講座・観察会・研修等参加者	14,631	11,232	18,719	17,212	16,513	14,171	1,041

3.3. 特別展・企画展開催実績

〔特別展〕

No	開催期間	タイトル	日数	入館者		
				有料	無料	合計
1	1995年10月7日～11月26日	チョウとガの世界	41	3,247	13,655	16,902
2	1996年3月1日～5月12日	日本最古の霊長類・中津層出土のサル化石	63	—	94,566	94,566
3	1996年7月20日～9月23日	追われる生きものたち	58	19,011	33,475	52,486
4	1997年3月1日～5月11日	櫻井コレクションの魅力-偉大なアマチュア自然科学者の軌跡-	61	—	40,848	40,848
5	1997年7月20日～11月3日	地球再発見-新しい地球像をもとめて-	92	18,033	46,886	64,919
6	1998年2月1日～3月31日	日本の魚学・水産学事始め —フ란ツ・ヒルゲンドルフ展—	48	1,557	7,398	8,955
7	1998年7月18日～9月27日	オオカミとその仲間たち—イヌ科動物の世界—	61	17,714	30,588	48,302
8	1999年1月30日～3月31日	カニの姿—酒井コレクションから—	51	3,746	14,228	17,974
9	1999年7月17日～9月5日	海から生まれた神奈川 —伊豆・小笠原弧の形成と活断層—	43	8,585	16,807	25,392
10	1999年10月1日～11月28日	のぞいてみよう！5億年前の海 —三葉虫が見た世界—	49	4,690	21,470	26,160
11	2000年7月15日～9月3日	特別展 サルがいて、ヒトがいて—野生動物との共存を考える—	43	9,949	24,359	34,308
12	2001年2月10日～4月8日	ふしぎ大陸 南極展	49	2,141	11,643	13,784
13	2001年7月20日～9月16日	神奈川の植物 その10余年の変化	51	6,197	10,886	17,083
14	2001年10月20日～12月16日	地球を見る～宇宙から見た神奈川～	50	6,511	13,628	20,139
15	2002年7月20日～9月29日	人と大地と—Wonderful Earth—	64	12,891	23,674	36,565
16	2002年12月7日～3月2日	ザ・シャーク ～鯨の進化と適応・ケースコレクションより～	68	11,840	19,211	31,051
17	2003年7月19日～9月15日	侵略とかく乱のはてに—未来へつなげる自然とは—	51	14,109	25,477	39,586
18	2003年11月1日～1月25日	丹沢の自然 —その生い立ちと生きもの—	69	6,186	11,376	17,562
19	2004年7月17日～10月31日	東洋のガラパゴス 小笠原 —固有生物の魅力とその危機—	93	17,602	31,862	49,464
20	2005年7月16日～11月6日	化石どうぶつ園—北アメリカ漸新世の哺乳類—	105	22,243	54,988	77,231
21	2006年7月15日～11月5日	ふしぎな生きもの菌類—動物？植物？それとも？—	106	18,408	54,099	72,507
22	2007年7月21日～11月4日	ナウマンゾウがいた！ ～温暖期の神奈川～	100	20,016	57,007	77,023
23	2008年7月19日～11月19日	「箱根火山」いま証される噴火の歴史	106	20,312	44,001	64,313
24	2009年7月18日～11月8日	木の洞をのぞいてみたら ～樹洞の生きものたち～	105	19,109	84,418	103,527
25	2010年7月17日～11月7日	日本列島20億年 その生い立ちを探る	104	19,727	33,939	53,666
26	2011年7月16日～11月6日	およげ！ ゲンゴロウくん ～水辺に生きる虫たち～	104	18,183	52,723	70,906
27	2012年7月14日～11月4日	大空の覇者 —大トンボ展—	103	23,070	42,666	65,736
28	2013年7月20日～11月4日	益田 —と日本の魚類学～魚類図鑑に生涯を捧げたDANDY～	97	16,964	27,170	44,134
29	2014年7月19日～11月3日	どうする？どうなる！外来生物 とりもどそう 私たちの原風景	96	25,091	49,160	74,251
30	2015年7月18日～11月3日	生き物を描く～サイエンスのための細密描画～	99	15,379	21,035	36,414
31	2016年7月16日～11月6日	Minerals in the Earth —大地からの贈り物—	101	25,565	38,041	63,606
32	2017年7月15日～11月5日	地球を「はぎ取る」～地層が伝える大地の記憶～	103	22,175	34,239	56,414
33	2018年7月14日～11月4日	植物誌をつくろう！～『神奈川県植物誌2018』のできるまでとこれから～	103	7,256	12,828	20,084
34	2019年7月20日～11月10日	アオバトのふしぎ ～森のハト、海へ行く～	100	13,553	27,563	41,116

〔企画展〕

No	開催期間	タイトル	日数	入場者
1	1996年6月8日～6月23日	新収資料展	13	10,501
2	1996年12月5日～12月15日	文化財保護ポスター展	10	1,471
3	1996年12月20日～1月31日	ゆく年くる年展	30	10,194
4	1997年5月23日～6月22日	ふれる彫刻100展	25	—
5	1997年12月6日～12月14日	文化財保護ポスター展	8	—
6	1997年11月15日～11月24日	新収集資料展	9	6,374
7	1997年12月20日～1月11日	ゆく年くる年展	12	2,997
8	1998年4月25日～5月24日	植物画で観る山の花 —小林政紘作品集より—	26	13,375
9	1998年10月24日～11月23日	ふれる彫刻 Part 2 —地球の心を彫る！	26	14,316
10	1998年12月12日～1月10日	新収集資料展	12	4,168
11	1999年4月24日～5月30日	北アルプスの四季—岳をめぐりて	32	15,119
12	1999年12月11日～1月16日	カラー魚拓の世界	24	6,082
13	2000年3月18日～5月14日	平成11年度活動報告展 開かれた博物館をめざして —生命の星・地球博物館の5年間の歩み—	52	17,647
14	2000年9月23日～11月5日	切手で語る魚類の世界	42	11,797
15	2000年10月7日～10月8日	田中茂徳博士と魚学研究ゆかりの品々	2	600
16	2002年1月4日～1月27日	地球の息吹 富士彩々	22	7,708
17	2002年2月16日～3月17日	みんなの手づくり恐竜展	25	14,003
18	2002年3月21日～4月21日	神奈川の自然を蝕む移入生物たち	26	13,029
19	2002年4月27日～6月2日	新収資料展	34	3,363
20	2003年3月21日～4月6日	日本の自然にヘラクレスはいらない —移入昆虫がもたらす諸問題を考える—	17	9,442
21	2003年	友の会活動報告および活動紹介展	—	—
22	2003年4月26日～6月8日	活動報告展—学芸員のお仕事	38	18,711
23	2004年3月20日～4月4日	きらわれものだヨ、全員集合！ —きらわれものたちの意外な素顔—	14	8,263
24	2004年	博物館友の会活動報告および活動紹介展	—	—
25	2004年4月24日～6月6日	活動報告展—学芸員の腕自慢	33	28,714
26	2004年	きのこアート展	—	—
27	2004年12月18日～2月27日	+ 2℃の世界 —縄文時代に見る地球温暖化—	56	23,669
28	2005年3月20日～4月10日	博物館10年の歩み・友の会活動紹介	20	5,180
29	2005年4月29日～5月29日	収蔵資料展	26	15,925
30	2005年12月10日～2月12日	丹沢～むかし・今・あした～	51	14,785
31	2006年3月18日～4月9日	マイミュージアム・みんなの活動報告展 ・マイミュージアム写真展	19	9,997
32	2006年4月29日～5月28日	学芸員の活動報告展	26	12,716
33	2006年12月9日～2月25日	パノラマにっぽん ～地球観測衛星の魅力～	64	15,939
34	2007年3月17日～5月6日	みんなの活動報告展	45	16,883
35	2007年12月8日～2月24日	日本最後の秘境 南硫黄島	65	24,476
36	2008年4月19日～5月18日	学芸員の活動報告展	27	15,041
37	2008年12月6日～2月22日	46億年 地球の仕事 ～地質写真家がみた世界の地形～	62	14,954
38	2009年4月18日～5月31日	学芸員の活動報告展	37	16,352
39	2009年12月5日～2月21日	押し葉 ～古瀬 義 植物標本コレクション～	60	9,553
40	2010年4月17日～5月30日	学芸員の活動報告展	37	16,135
41	2010年12月11日～2月27日	日本最初の植物同好会 ～横浜植物会の100年～	63	10,132
42	2011年4月16日～5月29日	学芸員の活動報告展	38	18,560
43	2011年12月10日～2月26日	箱根ジオパークをめざして —箱根・小田原・真鶴・湯河原の再発見！—	63	17,204
44	2012年4月21日～5月27日	学芸員の活動報告展	32	14,210
45	2012年12月15日～2月24日	博物館の標本工房 Atelierum specim animalum in museo	56	28,574
46	2013年4月20日～5月26日	学芸員の活動報告展	32	10,631
47	2013年12月14日～2月23日	アンデスを越えて —南米バタゴニアの火山地質調査から—	56	14,921
48	2014年4月19日～5月25日	学芸員の活動報告展	30	11,626
49	2014年12月13日～3月1日	恐竜の玉手箱	53	30,786
50	2015年4月25日～5月24日	学芸員の活動報告展	24	6,619
51	2015年12月19日～2月28日	日本のスゲ 勢ぞろい —撮って 集めた 269種！—	46	18,150
52	2016年12月17日～2月26日	石展2 —かながわの大地が生み出した石材—	46	21,480
53	2017年12月16日～2月25日	レッドデータの生物 —知って守ろう 神奈川の生き物たち—	47	25,734
54	2018年11月17日～12月9日	日本最後の秘境 南硫黄島 ～10年ぶりの学術調査から～	19	8,330
55	2019年3月2日～5月12日	箱根ジオパーク展 ～身近な火山と友だちになる～	60	37,991
56	2020年2月29日～11月8日	ゴンドワナ ～岩石が語る大陸の衝突と分裂～	119	51,631
57	2021年3月23日～	かながわ発 きのこの新種展	(8)	(2,703)

() 内は 2021 年 3 月 31 日までの値。

3.4. 資料登録実績

資料登録実績は、標本とアーカイブズを分けて、小計を算出し、資料に付随して登録した付随メディア数も示した。また、合計については、登録件数に加え、登録点数を算出した。

年 度	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
分 野														
【資料】<標本>														
維管束植物		167,334	2,310	4,003	4,494	5,352	3,754		1,333	1,281	1,507	1,981	9,879	10,136
植物群落									10	40	64		58	
コケ		2,670	14	83	6	7	61							
菌類・地衣類			2	459	218	1,717	1,001							
藻類														
植物その他				5			2							
魚類 (*1)		399	1,180	3,108	1,621	640	428	1,343	1,722	879	1,635	2,583	3,127	2,377
哺乳類		1,432	65	1				417	170	8	21	64	194	634
鳥類												4	149	212
両生類														
爬虫類														
軟体動物		3,390	1	114	705	2,616		36	147	9	93	12	397	136
甲殻類					4,218		12				15	439	559	1,520
動物その他					28	4	2	11						8
昆虫		26,839	817	742	623	6						1		
クモ														
化石		2,220	3,477	21	594	2,304		72	24	3		86	1	17
岩石			492	259	52	32			1,173	128		434		
鉱物		181		92					1,472			5	11,061	
地質・ボーリング		1											1	
はぎ取り														
地学その他														
衛星画像										401		27		234
小 計 (*1)	0	204,466	8,358	8,887	12,559	12,678	5,260	1,879	6,051	2,749	3,335	5,636	25,426	15,274
【資料】<アーカイブズ>														
植物標本写真														
魚類写真 (*2)	1,345	4,949	5,091	5,364	6,005	6,440	7,110	11,522	7,211	7,525	4,424	977	2,964	2,303
哺乳類写真														
鳥類写真														
両生類写真														
爬虫類写真														
昆虫写真														
クモ写真														
衛星処理画像													70	42
景観画像													378	983
博物館活動														
菌類細密画														
甲殻類細密画												59	142	99
小 計 (*2)	1,345	4,949	5,091	5,364	6,005	6,440	7,110	11,522	7,211	7,525	4,424	1,036	3,554	3,427
【資料】<ライブラリー>														
図書										11,355	886	772	900	970
雑誌										2,730	95	51	58	107
別刷り														
小 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14,085	981	823	958	1,077
資料合計	1,345	209,415	13,449	14,251	18,564	19,118	12,370	13,401	13,262	24,359	8,740	7,495	29,938	19,778
【付随メディア】*2001年度のシステム更新により構築された。														
維管束植物								6						
非維管束植物														
植物その他														
魚類原画像														
魚類文書														
哺乳類											1		31	68
鳥類											98			28
両生類														
爬虫類														
無脊椎動物								112			9	1		1
昆虫原画像								798						
クモ原画像														
化石								4,100			2			
地学								100	886	73				
衛星画像										298	88	26		
菌類細密画														
甲殻類細密画												609	95	
小 計								5,116	886	371	198	636	126	97

※ 1：1995 年度と 1996 年度の魚類の登録件数は、誤りを修正したため、年報第 24 号までの数値と異なる。
 ※ 2：魚類写真の登録件数は、誤りを修正したため、年報第 24 号まで数値と異なる。
 ※ 3：2014 年度と 2015 年度のはぎ取りの登録件数は、誤りを修正したため、年報第 21 号までの数値とは異なる。
 ※ 4：2015 年度の両生類写真と爬虫類写真の登録件数は、誤りを修正したため、年報第 21 号までの数値とは異なる。
 ※ 5：2015 年度と 2016 年度の菌類細密画の登録件数は、誤りを修正したため、年報第 22 号までの数値とは異なる。
 ※ 6：2017 年度の図書、雑誌の登録件数は、誤りを修正したため、年報第 23 号までの数値とは異なる。
 ※ 7：付随メディアの登録件数は、誤りを修正したため、年報第 22 号までの数値とは異なる。
 ※ 8：アーカイブズの甲殻類細密画の小計は、誤りを修正したため、年報第 22 号までの数値とは異なる。

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	合計	
													登録件数	登録点数

13,677	5,429	6,975	5,528	3,742	6,899	14,643	20,361	10,743	3,837	8,241	16,247	13,217	342,903	346,202
				3		89						0	264	264
				6,525		1			151		1	0	9,519	9,519
	13,174	1,415	4,565	596	936	1,677	723	1,261	518	844	1,136	395	30,637	30,637
2,062				1,368	906					239		0	4,575	4,575
				247				1,391	80			0	1,725	1,727
2,207	2,908	1,981	2,325	4,267	1,301	2,013	2,371	1,942	2,723	5,706	4,453	3,136	58,375	110,951
482	178	616	460	286	368	207	169	107	13	360	480	232	6,063	6,087
281	76	209	434	196	102	30	244	120	59	28	45	14	3,104	3,110
4	644	53	19	1	64	101	312	286	52	141	10	222	1,502	1,502
								74	103	123	38	144	889	889
314	4,626	4,165	3,228	1,592	449	700	543	3,789	1,250	1,188	3,272	2,531	35,303	35,303
1,237	231	471	315	1,777	3,456	3,190	1,109	395	560	744	469	101	20,818	20,818
3				10		31		4	10	2	1	0	114	114
						8,846	11,629	11,466	3,073	7,333	6,082	1,531	78,988	78,988
								20		333		0	353	353
19	1,331	650	617	872	368	481	643	1,094	1,136	1,864	1,029	407	19,330	21,727
1,008	2,266		172	200	160	205	304	1,845	1,564	2,100	2,170	1,581	16,145	16,584
		4,297	1,956	225	107	2,512	738	5,375	1,400	1,707	2,921	0	34,049	34,082
							1			1	2	0	6	6
						(*3) 7	(*3) 41		21	1		0	70	106
						17			6			1	24	24
81	36		135	24	60	55	57					0	1,110	1,110
21,375	30,899	20,832	19,754	21,931	15,176	34,805	39,245	39,912	16,556	30,955	38,356	23,512	665,866	724,678

					183	948	15	2	31			81	1,260	1,266
4,990	4,025	5,148	14,248	23,488	13,280	8,480	7,852	10,169	12,192	10,092	9,340	6,710	203,244	248,339
								1	9	5	86	155	256	696
								116	99	14	373	229	831	1,281
							(*4) 21	34	20	56	22	291	444	821
							(*4) 28	11	6	20	18	76	159	466
									1,104			1,118	2,222	2,225
										1		0	1	1
17		7	6	3	8	1	4				4	1	163	163
			1		1,099	115	144		8	13	283	106	3,130	3,130
								1,079	39,633	6,706	3,859	5,727	57,004	57,006
							(*5)	(*5) 485		13		0	498	645
	48	26	33	32	36	15	15		3 (*8)		67	0	575	575
5,007	4,073	5,181	14,288	23,523	14,606	9,559	8,079	11,897	53,105	16,920	14,052	14,494	269,787	316,614

1,299	531	564	643	1,798	1,756	1,939	1,468	1,234 (*6)	1,133	1,675	1,537	1,366	31,826	31,826
57	140	62	55	34	50	77	80	88 (*6)	90	69	73	50	3,966	3,966
								340				0	340	340
1,356	671	626	698	1,832	1,806	2,016	1,548	1,662	1,223	1,744	1,610	1,416	36,132	36,132
27,738	35,643	26,639	34,740	47,286	31,588	46,380	48,872	53,471	70,884	49,619	54,018	39,422	971,785	1,077,424

546	1,356		382		5,116	53	15	8	2			12	7,496	10,804
												0	0	0
				1,645								0	1,645	1,744
15	1,397	3,477	2,113	22,124	3,974	8,222	8,654	9,904	9,664	9,588	7,999	6,187	93,318	123,689
								6	2	195	3	2	208	233
1		1				3	2			2	12	0	121	274
							1	1	2			1	131	133
							10	5	1	1	1	19	37	302
		2					12	1		8		20	43	141
159	32	33	6				3	7	4	3	6	11	387	627
				1,195			2		9,829	115	1	1,751	13,691	13,887
										1		8	9	9
3	7	4	37	860	158	195	528	1,294	525	450	882	742	9,787	12,808
131	908			13,518	160	30		16	3	555	1,065	701	18,146	32,225
	10			492	84	55					57	0	1,110	1,110
								458				40	498	645
								814				0	1,518	1,518
855	3,710	3,517	2,538	39,834	9,492	8,558	9,227	12,514	20,032	10,918	10,026	9,494	148,145	200,149

(*7)

3.5. ウェブサイトアクセス実績（トップページアクセス数）

月\年度	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
4月				186	1,237	2,574	3,549	*	7,541	11,979	11,071	15,489	15,131	15,404
5月				282	1,916	2,908	4,954	5,211	8,468	11,848	13,215	11,870	15,950	16,176
6月				441	1,598	2,885	4,709	5,852	*	14,055	15,225	14,086	12,910	14,200
7月				655	1,807	2,334	4,836	8,717	9,025	16,531	14,975	14,781	16,799	19,207
8月				774	1,847	4,083	6,514	*	15,503	20,083	16,654	19,838	22,899	25,040
9月				683	1,960	3,197	5,412	*	11,642	12,989	13,885	13,081	17,050	17,456
10月				497	1,784	3,070	6,496	7,801	9,031	14,232	13,843	14,690	17,037	18,089
11月				513	1,721	3,137	5,280	8,632	7,231	11,960	12,685	10,995	13,615	14,307
12月				582	1,648	3,116	4,486	6,154	7,414	9,984	11,129	9,720	11,474	12,054
1月				919	1,913	3,781	6,052	7,068	11,210	11,551	12,471	12,993	14,008	15,464
2月				834	1,954	3,623	6,053	6,471	12,125	9,583	11,680	11,580	13,607	14,965
3月				1,136	2,413	3,845	5,878	5,319	11,185	9,405	10,523	13,494	13,934	16,465
合 計				7,502	21,798	38,553	64,219	61,225	110,375	154,200	157,356	162,617	184,414	198,827
1日平均				20.6	59.7	105.3	175.9	223.4	329.5	421.3	431.1	445.5	505.2	543.2

月\年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	合 計
4月	17,371	13,374	16,955	18,753	20,579	30,638	32,309	34,108	33,847	31,296	35,003	38,203	18,927	
5月	18,322	16,241	19,934	20,808	20,810	30,730	32,089	36,339	32,793	33,830	36,613	33,346	23,316	
6月	15,401	14,482	15,831	15,776	18,604	28,123	30,744	28,040	30,331	33,067	34,776	33,348	32,083	
7月	18,089	19,499	24,539	21,778	23,117	37,580	39,962	41,347	43,379	41,964	46,856	44,831	56,654	
8月	26,442	23,293	28,580	29,898	29,693	52,015	58,221	59,194	55,027	57,878	59,611	58,763	64,101	
9月	16,232	17,184	18,018	20,824	22,709	32,025	33,407	36,363	40,142	34,409	39,078	36,555	66,840	
10月	16,157	16,240	18,271	18,950	24,982	30,821	31,227	31,626	35,352	35,059	31,488	36,189	49,554	
11月	13,131	13,204	16,226	14,737	22,138	23,088	30,044	29,057	28,192	28,526	27,718	34,636	37,465	
12月	11,249	11,230	12,869	13,721	24,483	23,275	23,960	24,815	25,115	27,165	25,209	28,781	30,055	
1月	13,281	16,388	15,582	15,953	26,583	26,068	29,266	27,018	30,821	32,567	28,972	30,395	29,642	
2月	12,386	15,478	15,641	15,864	27,069	22,090	29,705	31,388	29,280	32,123	28,133	32,317	25,786	
3月	14,377	19,352	14,884	21,436	30,926	33,406	38,477	37,334	38,675	40,205	35,861	32,549	44,836	
合 計	192,438	195,965	217,330	228,498	291,693	369,859	409,411	416,629	422,954	428,089	429,318	439,913	479,259	5,682,442
1日平均	527.2	536.9	595.4	624.3	799.2	1,013.3	1,121.7	1,138.3	1,158.8	1,172.8	1,176.2	1,201.9	1,313.0	657.3

教育局総務室 ICT 推進グループから送付されてくるウェブサイトアクセス数（2020 年 12 月まで）、2021 年 1 月からは当館でカウント。

*：マシントラブルのため、記録なし。

3.6. 魚類写真資料データベースのアクセス実績（ページビュー数）

月\年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
4月	47,255	46,780	45,922	57,539	137,916	150,817	220,043	99,695	166,484
5月	74,039	104,956	58,909	71,761	150,828	195,644	240,523	118,998	153,868
6月	91,066	69,723	122,279	78,758	178,587	200,873	263,042	120,450	144,236
7月	67,637	70,072	69,243	81,354	159,772	234,499	515,252	109,688	134,806
8月	83,478	65,143	88,351	74,106	176,301	253,014	432,478	268,450	148,590
9月	73,094	62,263	67,073	124,548	181,762	264,911	184,433	85,334	285,293
10月	75,888	58,384	72,178	80,681	181,160	229,439	149,227	127,688	225,939
11月	96,733	52,493	119,373	67,337	210,195	204,631	228,696	153,279	221,528
12月	62,898	46,019	183,592	59,725	176,321	224,470	297,112	150,850	294,780
1月	71,109	51,530	131,002	74,547	189,893	189,218	253,132	148,606	218,061
2月	52,646	50,628	57,062	89,859	180,884	192,874	121,448	140,702	255,931
3月	52,297	69,560	92,281	135,013	167,672	209,858	152,091	159,317	125,164
合 計	848,140	747,551	1,107,265	995,228	2,091,291	2,550,248	3,057,477	1,683,057	2,374,680
1日平均	2,323.7	2,048.1	3,033.6	2,719.2	5,729.6	6,987.0	8,376.6	4,598.5	6,506.0

月\年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	合 計
4月	162,602	309,246	91,705	92,795	99,257	166,540	107,702	138,926	
5月	313,999	163,432	143,909	109,061	93,503	135,032	113,327	207,982	
6月	212,569	171,152	92,868	135,356	101,096	284,671	140,252	175,490	
7月	152,539	139,031	108,716	113,189	103,761	132,036	364,318	146,287	
8月	177,790	154,394	100,596	95,387	110,866	138,800	119,873	166,297	
9月	82,260	195,767	138,967	110,293	76,050	292,529	122,094	343,349	
10月	154,416	136,219	523,166	158,321	146,460	91,936	124,846	215,282	
11月	149,742	158,264	103,959	115,347	88,389	107,602	125,917	195,055	
12月	225,794	154,851	95,505	114,781	79,371	58,432	148,417	202,122	
1月	123,939	153,369	185,669	77,331	84,827	80,193	90,129	191,797	
2月	117,098	209,135	323,135	87,150	96,391	125,974	154,174	238,206	
3月	106,299	137,904	107,145	135,892	113,430	117,955	173,945	223,624	
合 計	1,979,047	2,082,764	2,015,340	1,344,903	1,193,401	1,731,700	1,784,994	2,444,417	30,031,503
1日平均	5,422.0	5,706.2	5,506.4	3,684.7	3,269.6	4,744.4	4,877.0	6,697.0	4,836.8

国立科学博物館から送付されてくる魚類写真データベースアクセス数集計の日本語版の数字。

3.7. FishPix のアクセス実績（ページビュー数）

月＼年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
4月	2,582	3,628	6,025	23,322	93,407	198,882	196,525	118,641	270,626
5月	1,815	3,241	19,151	20,875	97,873	190,396	196,359	135,441	160,802
6月	1,632	2,847	26,860	11,711	105,304	193,091	296,704	135,375	179,240
7月	2,256	3,085	5,211	36,591	105,263	245,872	859,781	95,507	205,817
8月	2,325	3,552	6,187	17,546	72,746	243,776	634,275	119,911	155,855
9月	2,594	11,439	11,383	13,313	99,085	256,904	260,201	36,732	341,199
10月	3,014	12,151	5,025	13,082	111,006	168,057	103,445	102,937	188,278
11月	1,886	19,552	31,976	12,701	152,864	203,718	130,073	191,063	272,550
12月	2,023	11,909	115,316	15,835	138,370	224,076	258,017	163,636	172,266
1月	2,977	10,533	77,525	27,230	159,608	199,485	368,860	146,540	244,346
2月	2,845	6,826	11,527	35,556	243,747	177,801	75,224	238,617	325,167
3月	3,843	22,504	48,529	103,001	332,195	215,838	166,420	314,119	102,502
合 計	29,792	111,267	364,715	330,763	1,711,468	2,517,896	3,545,884	1,798,519	2,618,648
1日平均	81.6	304.8	999.2	903.7	4,689.0	6,898.3	9,714.8	4,914.0	7,174.4

月＼年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	合 計
4月	180,127	513,503	57,258	23,771	34,409	69,349	88,985	89,792	
5月	430,334	121,742	105,152	31,433	33,159	56,618	57,251	165,586	
6月	192,540	181,172	39,907	64,179	37,009	365,971	87,193	153,355	
7月	299,288	197,461	50,543	45,105	35,773	105,722	480,046	207,550	
8月	351,893	275,623	49,653	26,091	42,948	39,571	131,287	231,638	
9月	55,493	335,630	72,875	30,042	29,340	261,338	127,600	232,973	
10月	202,531	88,810	214,005	49,270	59,633	49,286	98,946	275,359	
11月	234,042	162,126	46,273	28,459	27,791	58,064	87,909	288,907	
12月	350,115	165,323	35,756	36,665	32,621	41,875	104,812	190,785	
1月	134,166	365,763	78,702	23,785	33,317	126,443	97,594	176,762	
2月	132,751	198,370	219,626	28,703	51,405	138,570	82,030	381,585	
3月	93,876	149,483	27,362	61,970	43,186	140,383	22,447	241,195	
合 計	2,657,156	2,755,006	997,112	449,473	460,591	1,453,190	1,466,100	2,635,487	25,903,067
1日平均	7,279.9	7,548.0	2,724.3	1,231.4	1,261.9	3,981.3	4,005.7	7,220.5	4,171.9

国立科学博物館から送付されてくる魚類写真データベースアクセス数集計の英語版の数字。

3.8. WESKAMS ミュージアム・リレー開催記録

回 (走)	実施 年/月/日	開催場所	参加人数(名)		
			一般	関係者	高校生
1	1997/10/17 (金)	生命の星・地球博物館	59	21	30
2	1997/11/ 7 (金)	箱根美術館→強羅公園	32	26	30
3	1997/12/ 3 (水)	足柄森林公園・丸太の森→南足柄市郷土資料館	47	13	0
4	1998/ 1/28 (水)	Antique Museum・江戸民具街道	22	20	30
5	1998/ 2/25 (水)	小田原フラワーガーデン	60	16	30
6	1998/ 3/11 (水)	箱根武士の里美術館	38	20	30
7	1998/ 4/ 3 (金)	箱根ガラスの森美術館	29	27	20
8	1998/ 5/27 (水)	箱根町立箱根湿生花園	26	21	30
9	1998/ 6/17 (水)	生命の星・地球博物館→神奈川県温泉地学研究所	29	29	90
10	1998/ 7/ 8 (水)	箱根美術館→強羅公園	39	27	58
11	1998/ 8/26 (水)	箱根町立大涌谷自然科学館	12	21	28
12	1998/ 9/30 (水)	箱根町立箱根芦之湯フラワーセンター	14	11	28
13	1998/10/14 (水)	遠藤貝類博物館	15	16	30
14	1998/11/13 (金)	箱根町立郷土資料館	13	13	70
15	1998/12/ 2 (水)	本間寄木美術館	13	20	60
16	1999/ 1/20 (水)	生命の星・地球博物館	21	20	70
17	1999/ 2/ 3 (水)	小田原城天守閣と歴史見聞館	17	15	22
18	1999/ 3/23 (火)	鈴廣のかまぼこ博物館	17	15	22
19	1999/ 4/16 (金)	MOA美術館	150	25	100
20	1999/ 5/26 (水)	箱根美術館→強羅公園	92	26	50
21	1999/ 6/29 (火)	箱根ガラスの森美術館	28	15	50
22	1999/ 7/22 (木)	生命の星・地球博物館	47	10	38
23	1999/ 8/25 (水)	箱根町立箱根湿生花園→箱根武士の里美術館	25	30	20
24	1999/ 9/22 (水)	彫刻の森美術館	14	19	40
25	1999/10/21 (木)	遠藤貝類博物館	12	16	50
26	1999/11/19 (金)	足柄森林公園・丸太の森→南足柄市郷土資料館	20	18	160
27	1999/12/ 9 (木)	箱根芦ノ湖成川美術館	23	18	50
28	2000/ 1/19 (水)	本間寄木美術館	10	18	50
29	2000/ 2/24 (木)	小田原市郷土文化館	31	28	60
30	2000/ 3/30 (木)	生命の星・地球博物館	42	30	20
31	2000/ 4/18 (火)	Antique Museum・江戸民具街道	68	25	53

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

回 (走)	実施 年/月/日	開催場所	参加人数(名)		
			一般	関係者	高校生
32	2000/ 5/19 (金)	パール下中記念館	22	15	23
33	2000/ 6/ 7 (水)	箱根美術館→強羅公園	46	20	67
34	2000/ 7/13 (木)	箱根ガラスの森美術館	18	13	56
35	2000/ 8/23 (水)	生命の星・地球博物館→神奈川県温泉地学研究所	88	27	21
36	2000/ 9/13 (水)	報徳博物館	27	17	16
37	2000/10/12 (木)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴サボテンランド→遠藤貝類博物館	10	21	60
38	2000/11/ 2 (木)	箱根町立郷土資料館	25	10	60
39	2000/12/ 8 (金)	箱根ビジターセンター→箱根町立大涌谷自然科学館	17	16	60
40	2001/ 1/25 (木)	生命の星・地球博物館	56	29	160
41	2001/ 2/22 (木)	鈴廣のかまぼこ博物館	2	13	30
42	2001/ 3/23 (金)	彫刻の森美術館	5	16	30
43	2001/ 4/13 (金)	箱根武士の里美術館	5	20	30
44	2001/ 5/16 (水)	箱根☆サン＝テグジュペリ星の王子さまミュージアム	0	16	60
45	2001/ 6/ 8 (金)	湯河原ゆかりの美術館	5	16	60
46	2001/ 7/19 (木)	小田原市郷土文化館分館「松永記念館」と「老樗荘」	30	17	30
47	2001/ 8/30 (木)	彫刻の森美術館(昼・夜 2回開催)	20→30	23→23	30→0
48	2001/ 9/27 (木)	Antique Museum ・江戸民具街道	20	16	30
49	2001/10/12 (金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴サボテンランド→遠藤貝類博物館	7	26	60
50	2001/11/ 9 (金)	生命の星・地球博物館	32	24	0
51	2001/12/ 7 (金)	箱根ベゴニア園→オルゴールの小さな博物館・箱根 →箱根おもちゃ博物館	50	16	30
52	2002/ 1/25 (金)	箱根芦ノ湖成川美術館	35	18	30
53	2002/ 2/15 (金)	小田原フラワーガーデン	56	25	60
54	2002/ 3/22 (金)	小田原城天守閣小田原動物園	15	11	8
55	2002/ 4/14 (日)	MOA美術館	3	15	0
56	2002/ 5/16 (木)	箱根ガラスの森美術館	11	21	14
57	2002/ 6/14 (金)	箱根ビジターセンター	17	15	42
58	2002/ 7/12 (金)	松田山ハーブ館・ハーブガーデン→松田町自然館	10	12	16
59	2002/ 8/23 (金)	彫刻の森美術館	15	26	0
60	2002/ 9/13 (金)	生命の星・地球博物館	31	15	20
61	2002/10/18 (金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴サボテンランド→遠藤貝類博物館	9	22	0
62	2002/11/ 1 (金)	箱根町立郷土資料館	25	20	0
63	2002/12/12 (木)	箱根園水族館	8	20	50
64	2003/ 1/17 (金)	箱根ベゴニア園→オルゴールの小さな博物館・箱根 →箱根おもちゃ博物館	12	18	22
65	2003/ 2/14 (金)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	20	22	60
66	2003/ 3/14 (金)	湯河原ゆかりの美術館	6	6	10
67	2003/ 4/11 (金)	箱根芦ノ湖成川美術館	10	15	0
68	2003/ 5/15 (木)	Antique Museum ・江戸民具街道	27	18	45
69	2003/ 6/ 6 (金)	生命の星・地球博物館→鈴廣のかまぼこ博物館	10	16	40
70	2003/ 7/25 (金)	小田原城天守閣→小田原城ミュージゼ	20	19	13
71	2003/ 8/ 8 (金)	MOA美術館	17	17	0
72	2003/ 9/30 (火)	ポーラ美術館	63	23	0
73	2003/10/30 (木)	箱根町立郷土資料館	52	13	0
74	2003/11/18 (金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴サボテンランド→遠藤貝類博物館	37	22	40
75	2003/12/11 (木)	箱根園水族館	10	11	30
76	2004/ 1/16 (金)	生命の星・地球博物館→本間寄木美術館	16	18	15
77	2004/ 2/20 (金)	小田原市尊徳記念館	15	11	40
78	2004/ 3/18 (木)	彫刻の森美術館	13	17	5
79	2004/ 4/16 (金)	箱根武士の里美術館→箱根町立箱根混生花園	26	19	40
80	2004/ 5/ 9 (日)	箱根美術館→強羅公園→箱根写真美術館	43	19	0
81	2004/ 6/15 (火)	箱根ガラスの森美術館	20	21	30
82	2004/ 7/ 2 (金)	ポーラ美術館	61	22	15
83	2004/ 8/20 (金)	生命の星・地球博物館	23	25	5
84	2004/ 9/ 3 (金)	小田原城天守閣	14	11	0
85	2004/10/15 (金)	真鶴町立中川一政美術館→遠藤貝類博物館	20	18	38
86	2004/11/12 (金)	箱根町立郷土資料館→小田急箱根ベゴニア園 →箱根おもちゃ博物館→オルゴールの小さな博物館・箱根	17	16	0
87	2004/12/10 (金)	MOA美術館	37	10	30
88	2005/ 1/14 (金)	箱根園水族館→箱根芦ノ湖成川美術館	17→29	10→17	20→0
89	2005/ 2/25 (金)	小田原フラワーガーデン	36	15	22
90	2005/ 3/17 (木)	彫刻の森美術館	44	25	0
91	2005/ 4/15 (金)	湯河原ゆかりの美術館	28	12	0
92	2005/ 5/18 (水)	箱根武士の里美術館→箱根町立箱根混生花園	15→23	10→11	40→40
93	2005/ 6/10 (金)	ポーラ美術館	70	29	40
94	2005/ 7/ 6 (水)	箱根美術館→箱根写真美術館→強羅公園	39→39→39	35→35→35	40→40→40
95	2005/ 8/29 (月)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	20→27	10→23	0
96	2005/ 9/28 (金)	箱根・芦ノ湖成川美術館	75	16	10
97	2005/10/12 (水)	真鶴町立中川一政美術館→遠藤貝類博物館	33→33	24→24	50→50
98	2005/11/29 (火)	箱根園水族館	30	13	40
99	2005/12/ 8 (木)	箱根町立関所資料館→箱根駅伝ミュージアム	28→28	14→14	40→40
100	2006/ 1/14 (土)	箱根ガラスの森美術館	82	33	10

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

回 (走)	実施 年/月/日	開催場所	参加人数(名)		
			一般	関係者	高校生
101	2006/ 2/10 (金)	小田原城天守閣→小田原城ミュージゼ	25→25	22→22	
102	2006/ 3/17 (金)	小田原市尊徳記念館	35	17	32
103	2006/ 4/21 (金)	ポーラ美術館	73	19	68
104	2006/ 5/10 (水)	箱根駅伝ミュージアム→函嶺・ふる里集蔵館	6→24	9→20	
105	2006/ 6/17 (土)	小田原フラワーガーデン	25	13	
106	2006/ 7/ 6 (木)	箱根武士の里美術館→箱根町立箱根湿生花園	12→15	7→11	60→60
107	2006/ 8/31 (木)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	15→15	7→17	0→30
108	2006/ 9/22 (金)	箱根芦之湯フラワーセンター→周辺史跡の見学	25→25	11→11	60→60
109	2006/10/13 (金)	MOA美術館	53	15	45
110	2006/11/10 (金)	真鶴町立中川一政美術館→遠藤貝類博物館	38→38	14→12	45→0
111	2006/12/ 8 (金)	箱根ガラスの森美術館	30	14	26
112	2007/ 1/19 (金)	箱根園水族館	24	20	34
113	2007/ 2/23 (金)	箱根ラリック美術館	62	13	40
114	2007/ 3/ 9 (金)	箱根美術館→箱根写真美術館→強羅公園	36→36→36	19→19→19	70→70→70
115	2007/ 4/13 (金)	箱根武士の里美術館→ポーラ美術館	13→35	5→15	30→60
116	2007/ 5/16 (水)	箱根町立箱根芦之湯フラワーセンター→周辺史跡の見学	26→26	11→11	45→45
117	2007/ 6/29 (金)	鈴鹿のかまぼこ博物館→湯河原町立湯河原美術館	22→22	12→12	60→60
118	2007/ 7/13 (金)	箱根ガラスの森美術館	41	32	27
119	2007/ 8/28 (火)	箱根町立箱根関所→箱根駅伝ミュージアム	20→20	7→5	7→9
120	2007/ 9/ 8 (土)	生命の星・地球博物館	29	31	12
121	2007/10/26 (金)	箱根町立箱根湿生花園→彫刻の森美術館	30→38	5→9	40→40
122	2007/11/13 (火)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町海の学校	20→20	12→9	33→33
123	2007/12/ 7 (金)	箱根ベゴニア園→箱根写真美術館→強羅公園	20→20→20	13→13→13	30→30→30
124	2008/ 1/18 (金)	箱根園水族館→箱根・芦ノ湖成川美術館	14→37	8→9	34→34
125	2008/ 2/15 (金)	小田原フラワーガーデン→小田原市尊徳記念館及び周辺史跡	14→37	8→9	34→34
126	2008/ 3/19 (水)	本間寄木美術館→小田原城、小田原市郷土文化館	27→10	9→7	17→17
127	2008/ 4/23 (水)	箱根武士の里美術館→ポーラ美術館	12→40	5→13	0
128	2008/ 5/21 (水)	箱根美術館→強羅公園	30→30	12→10	64→65
129	2008/ 6/24 (火)	湯河原町立湯河原美術館→MOA美術館	14→38	13→14	64→64
130	2008/ 7/15 (火)	彫刻の森美術館→箱根ガラスの森美術館	24→24	12→26	60→60
131	2008/ 8/29 (火)	玉村豊男ライフアートミュージアム→箱根神社宝物殿 →箱根駅伝ミュージアム	13→7→1	10→8→7	0
132	2008/ 9/16 (火)	箱根町立箱根関所→箱根町立箱根芦之湯フラワーセンター	3→4	11→8	50→50
133	2008/10/29 (水)	箱根ラリック美術館→箱根町立箱根湿生花園	58→39	22→19	0
134	2008/11/ 7 (金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町海の学校	16→10	14→11	60→60
135	2008/12/10 (水)	小田急箱根ベゴニア園→箱根トイミュージアム	9→10	11→14	40→40
136	2009/ 1/30 (金)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	7→16	5→14	33→33
137	2009/ 2/17 (火)	小田原フラワーガーデン→小田原市尊徳記念館及び周辺史跡見学	23→22	22→21	50→50
138	2009/ 3/19 (木)	松永記念館→小田原城天守閣・小田原市郷土文化館	35→35	8→11	12→12
139	2009/ 4/21 (火)	箱根町立箱根湿生花園→ポーラ美術館	18→39	5→10	0
140	2009/ 5/15 (金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	17→17→17	23→27→27	0
141	2009/ 6/12 (金)	小田原フラワーガーデン→松永記念館	12→10	11→15	0
142	2009/ 7/17 (金)	箱根町立箱根芦之湯フラワーセンター→箱根ガラスの森美術館	15→44	5→12	0
143	2009/ 8/28 (金)	玉村豊男ライフアートミュージアム→箱根駅伝ミュージアム →箱根町立箱根関所	16→17→10	10→9→10	0
144	2009/ 9/29 (火)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町海の学校	16→13	6→3	0
145	2009/10/16 (金)	彫刻の森美術館→箱根ビクターセンター	17→9	5→11	39→0
146	2009/11/27 (金)	箱根町立郷土資料館→小田急箱根ベゴニア園	3→2	4→6	0
147	2009/12/11 (金)	箱根ラリック美術館→箱根芦ノ湖成川美術館	64→33	9→10	0→31
148	2010/ 1/29 (金)	湯河原町立湯河原美術館→MOA美術館	12→31	11→11	0→30
149	2010/ 2/ 5 (金)	小田原城天守閣および小田原市郷土文化館 →小田原市尊徳記念館とその周辺の史跡	17→13	4→4	39→43
150	2010/ 3/ 5 (金)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	9→14	5→5	0
151	2010/ 4/27 (火)	彫刻の森美術館	11	6	0
152	2010/ 5/18 (火)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	16→16→17	12→11→7	40→40→0
153	2010/ 6/ 8 (火)	箱根ガラスの森美術館	31	12	0
154	2010/ 7/ 2 (金)	箱根町立箱根湿生花園 →箱根町立芦之湯フラワーセンターとその周辺散策	20→13	12→6	0
155	2010/ 8/27 (金)	玉村豊男ライフアートミュージアム→箱根駅伝ミュージアム →箱根町立箱根関所	5→3→3	8→8→6	0
156	2010/ 9/17 (金)	箱根ビクターセンター→ポーラ美術館	11→60	7→12	0
157	2010/10/15 (金)	真鶴町立遠藤貝類博物館→真鶴町立中川一政美術館	22→25	10→12	43→43
158	2010/11/12 (金)	箱根町立郷土資料館→小田原市郷土文化館→小田原城	19→21	6→6	0
159	2010/12/10 (金)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム	43→44	9→10	0
160	2011/ 1/16 (日)	小田原フラワーガーデン→小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	5→6	3→6	0
161	2011/ 2/18 (金)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	6→9	9→14	44→44
162	2011/ 3/ 4 (金)	鈴鹿のかまぼこ博物館→小田原市松永記念館	5→4	3→3	0
163	2011/ 4/27 (水)	すどう美術館→小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	11→8	9→5	50→50
164	2011/ 5/17 (火)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	16→16→17	12→11→7	40→40→0
165	2011/ 6/ 8 (水)	箱根ガラスの森美術館→小田原城	23→9	8→4	47→0
166	2011/ 7/ 8 (金)	箱根町立箱根湿生花園→ポーラ美術館	13→63	7→27	0
167	2011/ 8/24 (木)	松永記念館→箱根駅伝ミュージアム→箱根町立箱根関所	12→1→3	4→6→7	0

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

回 (走)	実施 年/月/日	開催場所	参加人数(名)		
			一般	関係者	高校生
168	2011/ 9/ 3 (土)	彫刻の森美術館→箱根ビジターセンター	10→6	6→5	0
169	2011/10/14 (金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	30→23	6→7	47
170	2011/11/18 (金)	箱根町立郷土資料館	5	2	39
171	2011/12/16 (金)	箱根・芦ノ湖成川美術館→箱根ラリック美術館 →星の王子さまミュージアム箱根サン＝テグジュペリ	50→65→17	5→9→4	0
172	2012/ 1/20 (金)	町立湯河原美術館→MOA美術館	16→13	4→4	0
173	2012/ 2/ 3 (金)	小田原フラワーガーデン→鈴廣のかまぼこ博物館	6→6	3→2	0
174	2012/ 3/ 2 (金)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	7→11	3→10	0
175	2012/ 4/20 (金)	小田原市郷土文化館→彫刻の森美術館	14→5	5→3	0
176	2012/ 5/18 (金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	26→26→26	7→7→7	0
177	2012/ 6/21 (木)	箱根マイセンアンティーク美術館 →箱根町立箱根芦之湯フラワーセンターとその周辺散策	24→8	3→3	0
178	2012/ 7/ 6 (水)	箱根町立箱根湿生花園→ポーラ美術館	26→55	4→4	0
179	2012/ 8/23 (木)	箱根駅伝ミュージアム→箱根町立箱根関所	7→11	3→3	0
180	2012/ 9/ 5 (水)	箱根ビジターセンター→箱根ガラスの森美術館	13→31	4→14	0→40
181	2012/10/17 (水)	真鶴アートミュージアム→真鶴町立中川一政美術館 →真鶴町立遠藤貝類博物館	7→7→7	7→6→6	0→42→42
182	2012/11/15 (木)	小田原城→箱根町立郷土資料館	22→1	4→4	0
183	2012/12/13 (木)	箱根ラリック美術館 →星の王子さまミュージアム箱根サン＝テグジュペリ	34→14	4→3	40→40
184	2013/ 1/17 (木)	人間国宝美術館→町立湯河原美術館	18→9	5→5	0
185	2013/ 2/ 6 (水)	小田原フラワーガーデン→すどう美術館 →小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	6→15→7	4→3→4	0
186	2013/ 3/ 1 (金)	江戸民具街道→生命の星・地球博物館	11→9	13→9	0
187	2013/ 4/19 (金)	町立湯河原美術館→MOA美術館	6→15	2→3	0
188	2013/ 5/17 (金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	28→28→28	11→11→11	35→35→35
189	2013/ 6/ 7 (金)	箱根・芦ノ湖成川美術館→箱根駅伝ミュージアム→箱根町立箱根関所	40→16→17	14→11→11	0→43→43
190	2013/ 7/10 (水)	箱根ガラスの森美術館→箱根ビジターセンター	66→25	10→8	0
191	2013/ 8/23 (金)	箱根町立箱根湿生花園→生命の星・地球博物館	22→24	5→3	0
192	2013/ 9/13 (金)	彫刻の森美術館→ポーラ美術館	22→60	8→20	0
193	2013/10/17 (木)	真鶴アートミュージアム→真鶴町立中川一政美術館 →真鶴町立遠藤貝類博物館	28→31→25	5→4→8	0
194	2013/11/15 (金)	箱根町立郷土資料館→小田原城→小田原文学館	11→25→21	6→5→6	0
195	2013/12/17 (火)	箱根ラリック美術館 →星の王子さまミュージアム箱根サン＝テグジュペリ	30→17	10→11	0
196	2014/ 1/24 (金)	松永記念館→人間国宝美術館	14→11	8→7	0
197	2014/ 2/28 (金)	小田原フラワーガーデン→鈴廣のかまぼこ博物館	17→6	6→7	0
198	2014/ 3/26 (水)	すどう美術館→小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	11→7	4→4	0
199	2014/ 4/25 (金)	箱根駅伝ミュージアム	1	2	0
200	2014/ 5/16 (金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	34→34→34	19→19→19	0
201	2014/ 6/13 (金)	神奈川県立恩賜箱根公園 →箱根町立箱根芦之湯フラワーセンターとその周辺散策	13→11	7→5	0
202	2014/ 7/ 9 (水)	箱根ガラスの森美術館	31	8	0
203	2014/ 7/11 (金)	すどう美術館→松田山ハーブガーデン	3→7	4→4	0
204	2014/ 8/29 (金)	箱根町立箱根湿生花園→箱根ビジターセンター	17→15	4→4	0
205	2014/ 9/25 (木)	真鶴アートミュージアム→真鶴町立中川一政美術館 →真鶴町立遠藤貝類博物館	8→17→14	4→5→6	0
206	2014/10/24 (金)	箱根町立郷土資料館→小田原文学館→小田原城	11→14→18	5→5→6	0
207	2014/11/ 7 (金)	彫刻の森美術館→ポーラ美術館	17→70	3→5	0
208	2014/12/ 5 (金)	箱根ラリック美術館 →星の王子さまミュージアム箱根サン＝テグジュペリ	40→12	6→8	0
209	2015/ 1/23 (金)	湯河原町立湯河原美術館→人間国宝美術館	14→18	3→3	0
210	2015/ 2/27 (金)	小田原フラワーガーデン→鈴廣のかまぼこ博物館	20→3	7→1	0
211	2015/ 3/20 (金)	徳富蘇峰記念館→小田原市郷土文化館→生命の星・地球博物館	22→11→21	3→3→3	0
212	2015/ 4/24 (金)	小田原城→小田原市郷土文化館	39→20	4→3	0
213	2015/ 5/15 (金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	28→30→30	8→3→3	0
214	2015/ 6/26 (金)	すどう美術館→松田山ハーブガーデン	16→9	3→2	0
215	2015/ 7/ 8 (水)	箱根ガラスの森美術館→ポーラ美術館	70→103	5→10	0
216	2015/ 8/21 (金)	箱根町立箱根湿生花園→箱根ビジターセンター	7→11	6→3	0
217	2015/ 9/25 (金)	彫刻の森美術館→神奈川県立恩賜箱根公園	15→11	2→2	0
218	2015/10/16 (金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	24→18	3→3	0
219	2015/11/13 (金)	小田原文学館→MOA美術館	5→37	2→1	0
220	2015/12/ 2 (水)	箱根ラリック美術館 →星の王子さまミュージアム箱根サン＝テグジュペリ	48→24	5→5	0
221	2016/ 1/ 8 (金)	箱根・芦ノ湖成川美術館→箱根駅伝ミュージアム	31→11	3→3	0
222	2016/ 2/26 (金)	小田原フラワーガーデン→生命の星・地球博物館	14→5	1→3	0
223	2016/ 3/18 (金)	人間国宝美術館→町立湯河原美術館	13→13	4→1	0
224	2016/ 4/22 (金)	本間寄木美術館	34	8	0
225	2016/ 5/13 (金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	11→11→10	2→1→2	0
226	2016/ 5/27 (金)	箱根関所→彫刻の森美術館	17→10	5→4	0
227	2016/ 7/13 (水)	星の王子さまミュージアム箱根サン＝テグジュペリ →箱根ガラスの森美術館	6→32	2→8	0

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

回 (走)	実施 年/月/日	開催場所	参加人数(名)		
			一般	関係者	高校生
228	2016/ 8/26 (金)	箱根駅伝ミュージアム→箱根ビジターセンター	3→8	4→5	0
229	2016/ 9/28 (水)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	8→8	4→4	0
230	2016/10/21 (金)	松田山ハーブガーデン→箱根町立郷土資料館	4→3	3→5	0
231	2016/11/25 (金)	小田原文学館→松永記念館	7→14	2→3	0
232	2016/12/ 2 (金)	神奈川県立恩賜箱根公園→箱根ラリック美術館	13→19	3→4	0
233	2017/ 1/12 (木)	小田原城	54	5	0
234	2017/ 2/24 (金)	小田原フラワーガーデン→生命の星・地球博物館	18→21	3→3	0
235	2017/ 3/17 (金)	人間国宝美術館→町立湯河原美術館	13→10	2→1	0
236	2017/ 4/21 (金)	MOA美術館→小田原城天守閣	22→33	3→4	0
237	2017/ 5/19 (金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	14→14→12	3→2→2	0
238	2017/ 6/ 2 (金)	松田山ハーブガーデン→小田原市尊徳記念館	7→11	2→3	0
239	2017/ 7/12 (水)	箱根駅伝ミュージアム→箱根ガラスの森美術館	5→27	3→7	0
240	2017/ 8/25 (金)	箱根湿生花園→箱根ビジターセンター	7→9	1→1	0
241	2017/ 9/22 (金)	箱根関所→恩賜箱根公園→本間寄木美術館	9→9→23	3→2→4	0
242	2017/10/27 (金)	小田原文学館→小田原城天守閣	10→12	2→3	0
243	2017/11/17 (金)	松永記念館→箱根町立郷土資料館	13→7	2→2	0
244	2017/12/ 1 (金)	箱根・芦ノ湖成川美術館→箱根神社宝物殿	30→27	2→2	0
245	2017/12/15 (金)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム	21→7	2→1	0
246	2018/ 2/23 (金)	小田原フラワーガーデン→生命の星・地球博物館	7→11	2→3	0
247	2018/ 3/16 (金)	人間国宝美術館→湯河原町立湯河原美術館	9→11	2→2	0
248	2018/ 4/20 (金)	箱根ビジターセンター→箱根湿生花園	14→14	4→3	0
249	2018/ 5/16 (水)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	15→15→15	4→4→4	0
250	2018/ 7/18 (水)	箱根駅伝ミュージアム→箱根ガラスの森美術館	1→24	4→10	0
251	2018/ 8/24 (金)	生命の星・地球博物館→小田原市尊徳記念館	14→10	2→2	0
252	2018/ 9/14 (金)	箱根関所→恩賜箱根公園	16→9	2→2	0
253	2018/10/19 (金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	10→8	4→3	0
254	2018/11/ 9 (金)	小田原文学館→松永記念館	8→13	1→1	0
255	2018/11/16 (金)	徳富蘇峰記念館→箱根町立郷土資料館	8→18	4→1	0
256	2018/12/ 7 (金)	おだわら諏訪の原公園→小田原城天守閣	5→14	1→1	0
257	2018/12/13 (木)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム	24→8	1→1	0
258	2019/ 2/ 8 (金)	MOA美術館	20	3	0
259	2019/ 3/ 8 (金)	小田原フラワーガーデン→生命の星・地球博物館	5→8	1→3	0
260	2019/ 3/15 (金)	人間国宝美術館→町立湯河原美術館	5→6	1→2	0
261	2019/ 4/19 (金)	箱根ビジターセンター→箱根湿生花園	15→14	1→1	0
262	2019/ 5/15 (水)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	7→7→7	3→2→2	0
263	2019/ 7/ 5 (金)	小田原文学館→小田原市尊徳記念館	19→10	2→1	0
264	2019/ 7/17 (水)	星の王子さまミュージアム→箱根ガラスの森美術館	9→20	1→1	0
265	2019/ 8/23 (金)	人間国宝美術館→湯河原町立湯河原美術館	4→3	1→1	0
266	2019/ 9/ 6 (金)	箱根駅伝ミュージアム→生命の星・地球博物館	3→6	1→1	0
267	2019/ 9/20 (金)	箱根ドールハウス美術館	7	2	0
268	2019/10/ 4 (金)	箱根関所→恩賜箱根公園	6→6	1→2	0
269	2019/10/25 (金)	中川一政美術館→遠藤貝類博物館	7→6	2→2	0
270	2019/11/15 (金)	二宮町ふたみ記念館→箱根町立郷土資料館	40→23	5→2	0
271	2019/12/ 6 (金)	おだわら諏訪の原公園→小田原城天守閣	8→19	1→1	0
272	2019/12/12 (木)	箱根・芦ノ湖成川美術館→箱根ラリック美術館	39→38	1→1	0
273	2020/ 2/ 7 (金)	小田原フラワーガーデン	10	3	0
274	2020/ 3/ 6 (金)	松永記念館→生命の星・地球博物館		中止	
275	2020/ 4/17 (金)	箱根ビジターセンター		中止	
276	2020/ 5/13 (水)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園		中止	
277	2020/ 7/15 (水)	星の王子さまミュージアム 箱根サンテグジュベリ →箱根ガラスの森美術館	2→3	3→3	0
278	2020/ 8/28 (金)	箱根湿生花園→生命の星・地球博物館		中止	
279	2020/ 9/18 (金)	人間国宝美術館→湯河原町立湯河原美術館		中止	
280	2020/10/ 9 (金)	箱根関所→恩賜箱根公園		中止	
281	2020/10/23 (金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	2→2	3→2	0
282	2020/11/ 6 (金)	徳富蘇峰記念館→二宮町ふたみ記念館	中止→20	中止→2	0
283	2020/11/20 (金)	箱根ドールハウス美術館→箱根町立郷土資料館	4→12	4→4	0
284	2020/12/ 1 (火)	おだわら諏訪の原公園→小田原城天守閣	6→3	2→2	0
285	2020/12/ 9 (水)	箱根ラリック美術館	1	2	0
286	2021/ 1/22 (金)	箱根駅伝ミュージアム→箱根町立箱根ジオミュージアム		中止	
287	2021/ 2/ 5 (金)	MOA美術館	2	2	0
288	2021/ 2/19 (金)	小田原フラワーガーデン→小田原市尊徳記念館		中止	
289	2021/ 3/ 5 (金)	小田原文学館→生命の星・地球博物館		中止	

3.9. 来館者アンケート

3.9.1. 館内での満足度調査（入館券投票式）

〔調査方法〕

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、従来のシール式やアンケートを取り止め、入館券による投票と電子申請システムの併用によって実施した。1階エントランスホールに投票箱と電子申請システムの二次元バーコードを印刷したポスターを設置し、来館者に回答を求めた。

〔調査期間〕

2021年3月23～31日の開館日（8日間）

〔有効回答数〕

579件（投票578件・電子申請システム1件）

〔調査内容〕

当館に対する総合的な満足度（満足・どちらかといえば満足・どちらかといえば不満・不満）

〔調査結果〕

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満
回答数	459	98	19	3
%	79.3%	16.9%	3.3%	0.5%

3.9.2. 常設展示室での利用者アンケート（シール式）

接触による感染症拡大を防止するため、実施を見送った。

3.9.3. 特別展観覧者へのアンケート

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、特別展を開催せず、会期を延長して企画展を開催したが、企画展開催期間のアンケートについ

ては、接触による感染症拡大を防止するため、実施を見送った。

3.9.4. 講座参加者へのアンケート（記入式）

〔調査方法〕

講座参加者にアンケートを実施し、世代、講座への参加回数、感想等を調査した。

〔調査対象〕

計画した博物館講座（ボランティア入門講座を含む）41講座のうち、感染症拡大防止対策として中止した講座を除く10講座について、講座終了後にアンケートを行った。なお、講座

が2日間以上にまたがっている場合は、その講座の最終日の終了後にアンケート調査した。

〔有効回答数〕

94件

〔調査項目〕

5項目（回答者の世代・過去の講座への参加・講座を知ったきっかけ・講座に対する感想・また参加したいか）

[調査結果]

講座参加者の世代等の内訳

小学校 低学年生	小学校 高学年生	中学生	高校生	学生	一般成人	65才以上	教員	合計
4	4	3	0	3	40	35	5	94
4.3%	4.3%	3.2%	0.0%	3.2%	42.6%	37.2%	5.3%	100.0%

過去の講座への参加について

今回が初めて	過去1年以内に参加あり	それ以前に参加あり	未回答	合計
36	38	20	0	94
38.3%	40.4%	21.3%	0.0%	100.0%

どこで（何で）講座を知りましたか（複数回答可）

県のたより	学校で配ら れた情報	その他の 情報誌	博物館 WEBサイト	家族 友人	友の会	博物館 催物案内	新聞・テレ ビ・ラジオ	その他	有効回答数
2	0	1	74	11	4	4	0	1	94
2.1%	0.0%	1.1%	78.7%	11.7%	4.3%	4.3%	0.0%	1.1%	100.0%

講座に参加しての感想（複数回答可）

内容がおもしろかった	内容がつま らなかった	内容がわか りにくい	教え方が 良かった	もっとはやく てよかった	もっとゆっ くりがいい	説明がわか りにくい	講座の内容 が違った	有効回答数
80	2	2	45	4	4	0	5	94
85.1%	2.1%	2.1%	47.9%	4.3%	4.3%	0.0%	5.3%	100.0%

また参加したいですか（複数回答可）

もっと上のレベルに 参加したい	同じ内容なら 参加したい	もっと下のレベルに 参加したい	もう 参加したくない	有効回答数
46	50	7	1	94
48.9%	53.2%	7.4%	1.1%	100.0%

4. 調査研究関連資料

4.1. 研究成果

令和2年度に終了した研究について成果概要を記した。

4.1.1. 博物館基礎研究（総合研究）

現代的な視点による神奈川県地質史の構築

[研究期間] 平成29年度～令和2年度

[研究担当者] 田口公則・山下浩之・笠間友博・
新井田秀一・石浜佐栄子・大島光春・樽 創・
河尻清和・柴田健一郎・野崎 篤・山口珠美・
高橋直樹・川手新一

[研究内容]

神奈川県地質を網羅的にレビューした文献のひとつが、神奈川県史 自然編（1978）である。この基本文献である神奈川県史 自然編も発行から40年以上が経過し、その刷新が望まれていた。

すなわち、県史発行後、地球科学の考え方が地角斜説からプレートテクトニクス説へ大きく変わるとともに地球科学の各分野の学術的発展と分析機器の進歩により、神奈川県内の地質現象についてもその理解が大きく前進したからである。

本研究では、県内の地学系博物館学芸員を中心に、神奈川県内各地域の地質について従来の研究をレビューし、年代学や古生物学、地球化学、地球物理学的な視点も踏まえた現代的な研究課題を探るために、新たな神奈川県地質史をまとめることを目的とした。

神奈川県を構成する地質体を考慮し、つぎの8エリアに分け、それぞれのエリアについて先行研究をレビューするとともに、新知見や課題も含めてまとめた。

- ・ 小仏エリア：小仏山地、中津山地の東縁部や愛甲台地の北端部を構成する地質体として小仏層群および相模湖層群を対象とした。
- ・ 丹沢エリア：丹沢山地、中津山地、道志山地を構成する地質体として、丹沢層群および丹沢層群に貫入した深成岩類や小規模火山岩類、丹沢層群の変成岩類、愛川層群を対象とした。
- ・ 足柄エリア：足柄山地、関本丘陵および足柄平野を構成する足柄層群と足柄層群の形成時もしくは形成後の火成岩、段丘堆積物と沖積層などを対象とした。
- ・ 大磯エリア：大磯丘陵と秦野盆地を構成する丹沢層群、高麗山層群、三浦層群相当層、足柄層群相当層、前川層、羽根尾層、相模層群相当層、関東ローム層および沖積層と多岐にわたる地質体を対象とした。
- ・ 三浦エリア：三浦半島を構成する地質体として、葉山層群、三浦層群、上総層群、相模層群相当層（横須賀層、宮田層など）および沖積層などを対象とした。
- ・ 多摩エリア：多摩丘陵と多摩川低地を構成する上総層群、相模層群、関東ローム層および沖積層を対象とした。
- ・ 相模野エリア：相模野台地、愛甲台地、相模平野を構成する中津層群、上総層群、相模層群および関東ローム層を対象とした。
- ・ 箱根エリア：箱根火山を構成する火山噴出物を中心に、箱根火山の基盤岩も対象とした。

研究成果は、神奈川県立博物館調査研究報告（自然科学）第16号に発表した。また、本研究の成果は、2022年度の特別展において公開予定である。

小笠原諸島火山列島における動植物相と島嶼での進化

〔研究期間〕 令和1年度～令和2年度

〔研究担当者〕 荻部治紀・加藤英寿・千葉 聡・川上和人・鈴木 創・佐々木哲郎

〔研究内容〕

火山列島（北硫黄島、硫黄島、南硫黄島）は、小笠原諸島の中でも島の歴史が数万年程度と比較的歴史の新しい島々であり、小笠原群島とは別の伊豆火山列に属している。この列島固有の動植物も知られており、その起源も注目される。本研究では、地史的には新しい火山群にどのように動植物が定着・進化してきたのかを調査研究し、島ごとの種分化の過程も明らかにしていくことを目的とした。また、対象とする島々は人為の影響も多様であり、1. 急峻で陸水が存在しないために開拓が行われず、これまで原生状態が保持されてきた南硫黄島、2. 第二次世界大戦以前には数百名の島民が在住して、開拓が継続された北硫黄島、3. 戦時中に大規模な破壊が行われ、島のほぼ全域が改変されている硫黄島と、大きな差異があるため、その比較も行った。

・ 島固有種や絶滅危惧種の存在

島としての歴史は新しいが、硫黄列島では固有の動植物が知られているが、鳥類では硫黄島のマミジロクイナ、北硫黄島のシマハヤブサの両固有亜種は戦後の記録がなく、絶滅したものと考えられる。現存するものでは、南硫黄のクロウミツバメは世界唯一の繁殖地となっており、小笠原群島で急減するオガサワラカワラヒワが健在で、これらの種のリフュージとしても価値が高い。同様の例としては、植物でのシマクモキリソウ、昆虫でのオガサワラハラナガハナアブがあげられる。

固有属種として、ミナミイオウヒメカタゾウムシが知られ、昆虫ではこのほか前種と同様に飛翔能力を失ったスジヒメカタゾウムシ属では、南北硫黄島からそれぞれ固有種が記録されている。このほかミナミイオウムネボソアリが南硫黄から、イオウヨツボシオオアリ、イオウトラカミキリが南北硫黄島から記録されている。昆虫類では、小笠原群島に類縁がある種が多いが、ミクロネシアや広く太平洋域を対象とした遺伝的な解析が待たれる。

陸産貝類では分類学的な整理が進行中であるが、南硫黄では高標高地に北ユーラシア起源の種が、低標高域に熱帯太平洋系の種が分布している。植物でも、ムニンエダウチヘゴ

などの固有種が知られ、小笠原群島以外にも、伊豆諸島や熱帯太平洋系の種が分布していることが明らかになっている。歴史の古い小笠原群島と比較すると動植物の固有化は少数だが、数万年とされる期間にすでに固有種まで分化が進行しているものがあることは、急速な進化が起こっていることを示している。

・人為の影響と外来種の影響

上記のような視点で3島を見ると、原生状態が保たれている南硫黄島は、916 mと伊豆

小笠原最高峰となっているように標高も高く、動植物すべてでもっとも良好な状況が維持されている。これに対して北硫黄島は人為の影響が各所に見られ、南硫黄と同様の雲霧林が存在しながら、小型海鳥の繁殖が確認できない。南硫黄は海洋島の生態系に大きな影響を与えるクマネズミが未侵入であることの重要性を示唆している。特に北硫黄島と比較すると膨大な個体数を擁する海鳥の喪失は、島の生態系にも大きな影響を与えている。

4.1.2. 博物館基礎研究（個別研究）

神奈川県周辺のトンボ類における南方種の分布拡大について 5

〔研究期間〕 令和1年度～令和2年度

〔研究担当者〕 荻部治紀

〔研究内容〕

近年分布域の北上が顕著な昆虫類の中で、トンボ類でも数種で急速な分布拡大が記録されている。本研究では、ホソミイトトンボとタイワンウチワヤンマの県内での分布拡大の様相を追跡した。

ホソイトトンボは（かつては東海地方が北限だった種）おもに丘陵地や湿地・水田に生息する種で、県内では1969年の川崎市の記録以降県内での記録がなく、長らく偶産種として扱われていた。1990年に山北町で記録され、その後は記録がなくこれも偶産とされてきた。2006年に筆者が南足柄市で複数の個体を確認し、これ以降急速に県内での記録が増加していく。2000年代は、まず南足柄、秦野、厚木などで点々と記録され、2010年代には一気に拡大していくが、

丹沢山麓沿いに相模原まで、湘南沿いには茅ヶ崎までの拡大は早かった。2010年代後半には、川崎・横浜などでも点々と確認されるようになり、三浦方面にも侵入が始まった。

現在県中西部では春先の最優占種となり、さらに拡大が遅かった三浦半島でも各地で記録され、鎌倉での記録がでるなど、ほぼ県全域に達した。初の定着確認から15年ほどでの拡散であった。近年では北関東での記録も増加しており、国内でも北上は継続するものと思われる。

同様に分布拡散が顕著なタイワンウチワヤンマは、横浜市鶴見区、大井町の単発の記録後、2011年に記録された小田原城では、2012年から継続して複数が記録された。本種はなかなか拡散しなかったが、この数年、横浜市旭区、横須賀市、三浦市などで連続して記録されるようになった。

なお、これまでの成果については、日本トンボ学会大会にて連続して報告しており、拡大状況が一段落したので、今後論文化する。

4.1.3. 外来研究員による研究

小笠原諸島におけるヒメカタゾウムシ類の生態について

〔研究担当者〕 加賀玲子

〔研究内容〕

本研究の目的：小笠原では、近年、大規模な干ばつや大雨等の過激な気候変動、グリーンア

ノール等の外来種の生息域の拡大により、ヒメカタゾウムシ類は遺伝的な研究も、生態的な知見も得られないままに、個体数が激減する個体群が出てきた。生息地の実態の把握と、生態を解明し、保全に向けての基礎的なデータとなることを目指す。

今年度は、COVID-19 の感染拡大により、島嶼部の生き物を研究対象とする多くの研究者がそうであったように、現地での調査を自粛せざるを得なかった。生息調査については、12 月に一度だけ、おがさわら丸の PCR 検査を受け、感染対策に気をつけ、現地でもできるだけ人と会わないようにして調査を実施した。土壌性のツチヒメカタゾウムシは成虫が見られる時期であったので、父島、母島、兄島、弟島、の一部で調査を行った。時間的に十分な調査はできなかったが、特に母島では生息地、個体数ともに激減していることが明らかになった。要因の一つとして、これまでは認識していなかったが、外来種オガサワラリクヒモムシの影響も懸念される。

一方、生態の解明については、兄島の個体数が多い生息地からツチヒメカタゾウムシ数頭を持ち帰り、内地で飼育下に置いて観察したところ、3 か月ほど成虫を生かしておくことができ、交尾も観察できた。

今後の課題：しばらくは、現地調査がままならない状況が続くと思われる中、限られた調査の機会を最大限に活かすことを目標とする。生態の解明については、今年度試行した飼育方法を発展させ、鉢植え等を利用し産卵環境を整えての観察を試みたい。また、ヒメカタゾウムシ類の幼虫は土壌性と思われることから、オガサワラリクヒモムシによる影響調査を急ぐ必要がある。

神奈川県におけるハバチ類相の解明

〔研究担当者〕 加藤優羽

〔研究内容〕

ハバチ類は、ハバチ科を中心とする原始的なハチ目のグループで、日本国内からは約 800 種が知られる。神奈川県内からは、このうち約 300 種が知られるが、未同定種も多く、今後も種数の増加が見込まれる。ハバチ類の幼虫は一部を除き植食性で、寄主特異性の高い種が多い。そのため、昨今の神奈川県内における環境の変化、とりわけ丹沢山地におけるシカによる林床の食害に見られるような、植生の変化による影響を今後強く受ける事が予想され、県内におけるハバチ類相の解明は急務であると言える。そこで、野外調査および標本調査を行う事で、神

奈川県内におけるハバチ類相の解明を目指した。

ハバチ類の多くは、成虫が早春から初夏の間の短い期間にのみ現れる年一化性の生活史を送るため、この時期に野外調査を行う事がハバチ類相の解明には大変重要であるが、今年度は新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言等の影響により、この時期に野外調査を進めることが出来なかった。しかしながら、既に手元にあった神奈川県産の標本の同定を進めると共に、2020 年 8 月から 11 月にかけて、年多化性のハバチ類の成虫や幼虫の採集を目的として、自宅の周辺である川崎市や横浜市を中心に野外調査を行った。その結果、13 種の神奈川県未記録種と、1 種の日本未記録種を確認すると共に、採集した幼虫の飼育を行う事で、生活史等の生態的知見をいくつか得る事が出来た。本結果については、今後複数の論文にまとめて報告を行うと共に、来年度も調査を継続する予定である。

ゴキブリ類の比較発生学的研究

〔研究担当者〕 藤田麻里

〔研究内容〕

系統学的議論の定まらない生物群の系統進化学的理解において、各群のグラウンドプランの構築が可能な比較発生学的方法は、有効な方法の一つである。昆虫類の 98% は新翅類というグループが占めているが、この新翅類の初期の爆発的放散に直接由来した多新翅類の一群であるゴキブリ類は、昆虫類を理解する上で鍵を握る重要なグループの一つである。以上から、ゴキブリ類内の全グループを対象とした包括的比較発生学的検証を行い、類内のグラウンドプランの構築と系統進化学的議論の発展を目的に研究を行った。

本年度は、新型コロナウイルスによる影響からフィールド調査がほとんどできなかったが、執筆作業を重点的に行ったことで、これまでの発生学的データを論文として公表することができた。論文の概要としては、ゴキブリ類の中でも最も「ミステリアス」なグループとされてきたホラアナゴキブリ科を対象に、生殖学的・発生学的特徴を世界で初めて解明し、先行研究データと比較することで、本グループの系統学的ステータスならびにゴキブリ類と網翅類に関する系統進化学的議論を

発展させた内容である。ホラアナゴキブリ科は、1) 雌雄間の複雑なコミュニケーションを伴わない配偶行動、2) 卵生の生殖様式に加え、産卵の過程で産み出した卵鞘を尾端で90度回転させ、卵鞘の flange (突出縁) という構造を尾端で把握したまま数日間持ち運んだ後産み落とす、3) 卵腹面後半部に局在する複数の卵門、4) 胚軸の逆転を伴わない胚運動型 (胚軸非逆転型) により特徴づけられ、これらがムカシゴキブリ科の特徴と共通することから、最近の分子・形態学的研究により示唆されてきたホラアナゴキブリ科とムカシゴキブリ科の類縁性をさらに強化するものとなった。さらに、ゴキブリ類、カマキリ類、シロアリ類からなる網翅類内まで範囲を広げて比較検討することで、網翅類の最も妥当な進化体系を提示した他、網翅類の胚運動型の基本型は「胚軸非逆転型」であることが示唆された。

[掲載論文]

Fujita M., Lee C.-Y., Machida R. (2020). Reproductive biology and embryonic development of *Nocticola* sp. (Blattodea: Nocticolidae). *Arthropod Systematics & Phylogeny*, 78: 393-403.

神奈川県産クモ類の調査と標本収集

[研究担当者] 水山栄子

[研究内容]

今年度は以下の内容で調査研究を行った。

神奈川県のクモの調査及び標本の採集

1. 横浜市緑区新治

2020年度は3回の野外調査を実施 採集標本は当館の収蔵標本として整理

2. 葉山町長柄

2020年度は3回の野外調査を実施 採集標本は当館の収蔵標本として整理

3. 逗子市池子の森自然公園

2020年度は5回の野外調査を実施 採集標本は当館の収蔵標本として整理

標本の整理

神奈川県産クモ類のコレクション構築に向けて、採集標本の同定を行い、当館に標本を収蔵、ミューズテークにカテゴリーを作成し、順次登録中。

その他

コロナ禍のため教育普及活動は中止となった。

ミミズのエコ分類学

[研究担当者] Robert J. Blakemore (ロバート・ブレイクモア)

[掲載論文]

Blakemore, R. J. (2020). Soil Carbon and Biomass: Flat Out Wrong? *Science e-letter*. <https://science.sciencemag.org/content/365/6455/eaav0550/tab-e-letters>.

Blakemore, R. J. (2020). Global SOC, Annual NPP & CO2 Turnover Time (τ). *Veop*. 4: 1-8. ISSN 2434-0456. Online: veop.wordpress.com/2020/06/12/volume-4/. Date: 12th June, 2020. Pdf: <https://veop.files.wordpress.com/2020/06/veop-4.pdf>. DOI: 10.20944/preprints202006.0151.v1 Preprints Article – www.preprints.org/manuscript/202006.0151/v1 8th June, 2020; also <https://hal.archives-ouvertes.fr/hal-02859836/file/Addendum%20preprint.pdf>.

Blakemore, R. J. (2020). *Cosmopolitan Earthworms – an Eco-Taxonomic Guide to the Peregrine Species of the World*. 6th Edition, 4th Version. VermEcology, Japan. Pp. 1,000 plus 100 figs., internet links and mtDNA COI barcodes.

Blakemore, R.J. (2020). *Earthworms of Japan* (now with one extinct native & three new exotic species reports including *Dendrobaena veneta*); <https://vermecology.wordpress.com/2020/12/24/earthworms-of-japan/>.

[学術貢献]

9th March 2021. Time for Triage? Seeking Sustainability Weblog: www.youtube.com/watch?v=1FpXBIkzQfE&ab_channel=jjwalsh / www.youtube.com/hashtag/ssl202.

Jan-March 2021 Webinar Series: www.coventry.ac.uk/research/research-directories/current-projects/2020/soil-nexus/.

Member & contributor SOIL CARE NETWORK: <https://www.soilcarenetwork.com/members>.

Contributor: 田んぼの生きもの全種データベース：www.biawahaku.jp/research/data/tambo/.

日本近海における薄甲目コノハエビ類の分類学的研究

[研究担当者] 平田琢真

[研究内容]

本研究は甲殻亜門・軟甲綱に分類される薄甲目コノハエビ類の日本近海における多様性を調査するために、日本周辺海域における沿岸および深海域で2020年までに採取された標本を元に再同定を行った研究である。甲殻類は体節・付属肢の形態から原始的種と進化的種に分かれる。薄甲目は機能的にほぼ一様な胸部付属肢（胸肢）のみを持つ点から原始的種に分類されるが、明確に分節した体節構造・大型で遊泳に機能する腹部付属肢（腹肢）を持つ点から原始的種としては最も進化的な、一方で付属肢が発達・機能的に多様化した進化的種からは最も始祖的形態な両者の中間形に位置し、甲殻類の進化の歴史の過渡期にも位置する重要な種と考えられている。日本近海ではこれまで薄甲目に含まれる3科のNebaliidae（科）*Nebalia*（属）の*Nebalia bipes*、*Nebalia tagiri*の2種、Paranebaliidae（科）より*Paranebalia*（属）の*Paranebalia longipes*、Nebaliopsidae（科）より*Nebaliopsis typica*の3科3属4種が報告されているが、未同定標本の中には既知の種と一致しない標本も含まれており、日本近海における更なる多様性が予測されている。

今回、未同定標本の再同定を行った結果1956年に三重県の英虞湾近海の海底より採取された標本がNebaliidae（科）に分類される新種であると分かった。本種は既知の*Nebalia bipes*および*Nebalia tagiri*とは明確に異なる形態を示すと同時に、Nebaliidae（科）に含まれる計5属いずれにも該当しない形態だった。この事から本種をNebaliidae（科）の6番目の新属であると判断し、現在その形態を評価した論文を執筆中である。本種の発見は日本近海で薄甲目が属レベルでの多様性を示す可能性を示唆し、多様性評価において重要な意味を示すと言える。

神奈川県における希少哺乳類の生息状況

[研究担当者] 山口喜盛

[研究内容]

希少コウモリ類の生息状況を調べるために、丹沢及び箱根の高所、大磯丘陵などで捕獲調査を計画していたが、SARS-CoV-2のヒトからコウモリへの感染リスクを抑えるため実施は控えた。代替手段としてコウモリ類がねぐらにする隧道や用水路などを周り、情報収集を行った。継続してモニタリングしているヤマコウモリとヒナコウモリの冬期ねぐらでは、利用状況や個体数などを調べた。また、丹沢の高所において小型哺乳類の生息調査を実施した。

地衣類の共生系の再形成手法の改良

[研究担当者] 石原 峻

[研究内容]

本研究では、真菌類（地衣菌）と藻類（共生藻）からなる共生体である地衣類を用いて、地衣類の共生系を培養環境下で人工的に形成させる実験系（地衣体再形成手法）の改良や検証を行うことを目的としている。

培養材料とする地衣体を得るために、2020年7月に神奈川県箱根町にて、10月に南足柄市にてゴンゲンゴケ（*Hypotrachyna osseocalva*）を、12月には山北町にてオオキゴケ（*Stereocaulon sorediiferum*）を採集し、当日中に冷凍保存した。

培養試験は、箱根町産のゴンゲンゴケを用いて、以下の通り2回に分けて行った。

試験1: 地衣体の微小片を麦芽・酵母エキス(MY)スラント培地の試験管50本に植え付け、地衣組織培養物を作製した。

試験2: 試験1と同じ手法で作製した試験管50本分の培地(A)とともに、クロラムフェニコール(100 ppm)を添加したMYスラント培地(B)も同数作製し、組織培養を行った。

組織培養物は化学分析室(室温約20℃)に置き、1, 2週間ごとに実体顕微鏡下で観察して、コンタミネーション(コンタミ)せずに残存した試験管の培養物の状態を記録した。

試験1の地衣組織培養物は、培養41日目の時点で全ての試験管でコンタミ菌が確認されたため廃棄した。この主要な原因として、外部から

二次的に腐食性のダニが試験管内に侵入したことが考えられた。そのため、実験室内のダニ駆除を行い、二次汚染によるコンタミ対策に万全を期して試験2を行った。

試験2の組織培養物では、残存した試験管の割合は上記A、Bそれぞれで22%および24%であった。本試験で観察された組織培養物の成長過程は、筆者が過去に行ったアカサルオガセの地衣組織培養物の経過観察結果（石原，2015，秋田県立大学修士論文）に類似していた。

来年度は、試験2のゴンゲンゴケの組織培養物から地衣菌や共生藻の分離培養株を作製する。地衣菌用の合成培地である Lilly-Barnett 培地も用いて地衣組織培養を行う。これらの培養物を用いて、地衣体再形成実験に取り組むことを予定している。なお、ゴンゲンゴケは地衣菌と共生藻の共生関係が維持されている状態において、リケキサントンという地衣成分（二次代謝産物）を産生し、これが特定波長の UV 光に反応して黄色の蛍光を示すことから、この性質を地衣体再形成のマーカーとして利用してゆく予定である。

本州中部の変形菌相の研究

〔研究担当者〕 矢野倫子

〔研究内容〕

本研究では、これまでに富士山亜高山帯の標高の違いによる変形菌の種組成と環境要因の関係について解明することを目的に①目視での野外子実体採集と②現地で採集した基物の温室培養法による調査を行った。令和2年度は、前年度までに採集された変形菌について標本作製、同定作業を行った。また、以前の採集標本を見直し、2016年の採集標本から日本新産亜種の *Tubifera ferruginosa* (Batsch) J.F. Gmel. subsp. *acutissima* が見つかった。この新亜種の詳細および富士山亜高山帯における種多様性と種構成については、同定作業終了後にリスト作成のうえ解析し、後日に論文で報告する予定である。

日本における変形菌の生態に関する研究例は少ない。しかし、森林生態系における変形菌の役割や他の生物との相互作用を知ることは、森林生態系のメカニズムを理解する上でも重要である。変形菌は湿潤な環境を好み、その生活環はアメーバ

状態の変形体と胞子を蓄える子実体に区別される。変形菌と同じく湿潤な環境を好む吸汁型のイボトビムシ類は、粘液状態の変形体や胞子形成前の柔らかい未熟な子実体を餌としている可能性があることが判ってきた。現在までの変形菌とトビムシの関係資料を見直し、「総説 変形菌とトビムシの相互作用に関するこれまでの知見」としてまとめ、学術誌に掲載された（片岡・矢野・中森，*Edaphologia* 107: 15-25, 2020）。今後は2021年度の研究計画である「子実体とトビムシとの相互関係」を明らかにするため、野外調査と室内実験の両方に取り組みたい。

神奈川県産不完全菌類の分類学的研究

〔研究担当者〕 杉本 泉

〔研究内容〕

本研究では、神奈川県内の不完全菌類（有性世代が判明・あるいは判明していない無性世代の菌類の総称）の調査を続けることで、菌類相の一部を調べることを目的としている。

しかしながら、本年度は COVID-19 による緊急事態宣言と外出自粛の影響で、調査回数が制限され、菌類調査は2020年5月から2021年3月まで、入生田での観察は2回、横浜市内が3回、川崎市内が9回であった。採集標本の観察記録のみで培養することはできなかった。

不完全菌類の採集数は80点、形態観察により同定できた分類群は以下の30属39点で全体のおよそ半数に留まった。

Alternaria, *Anungitea*, *Bahugada*, *Beltrania*, *Botrytis*, *Cladosporium*, *Codinaea*, *Colletotrichum*, *Discosia*, *Fusarium*, *Helicosporium griseum*, *Helminthosporium*, *Hirsutella*, *Junewangia globulosa*, *Melanographium citri*, *Monacrosporium*, *Myrothecium*, *Penicillifer*, *Penicillium*, *Periconia*, *Phaeoisaria*, *Phragmocephala*, *Pseudodictyosporium wauense*, *Simplicillium*, *Stachybotrys*, *Synnemacrodictys*, *Trichoderma*, *Tubercularia*, *Ulocladium*, *Wiesneriomyces*, *Cladosporium*, *Codinaea* は4回ずつの採集であった。

これらのうち、今年度初めて観察できたものは、*Anungitea*, *Bahugada*, *Colletotrichum*, *Helicosporium*

griseum, *Hirsutella*, *Junewangia globulosa*, *Penicillifer*, *Pseudodictyosporium wauense*, *Simplicillium*, *Ulocladium*, *Wiesneriomyces* の3種・8属であった。*Colletotrichum* は分生子果不完全菌で今回初めて属までの同定ができた。今まで分生子果不完全菌の同定は難しかったので、今後はこの経験を抛り所に同定を進めていきたい。

神奈川県における節足動物腸内生接合菌類相の調査

〔研究担当者〕 渡辺 舞

〔研究内容〕

本研究では接合菌類の分類学的研究を進めることを目的とし、特に、節足動物である水生昆虫の腸内生菌ハルペラ目 Harpellales を対象に、水生昆虫の幼虫を採集・解剖し菌の検出・同定を行った。

ハエ目ブユ科幼虫については、2020年5月に南足柄市塚原周辺の用水路、狩川、2021年2月に矢倉沢において、腸内に生息するハルペラ目菌について調査を行った。5月の南足柄市塚原周辺の用水路では、中腸後腸ともに菌の感染は見られたが菌体が若く同定はできなかった。また狩川で採集したブユ幼虫も調査したところ、後腸に菌の感染が認められたが、菌体が少なく同定はできなかった。採集時期を変えてさらに調査する必要がある。2月の矢倉沢では、ブユ幼虫6匹を解剖し、中腸に *Harpella melusinae*、後腸に *Pennella angustispora*, *Simuliomyces microsporus* の2種の感染が見られた。これは入生田の宮沢川で見られた菌と同様であり、宿主は同じアシマダラブユであると思われる。

カワゲラ目については、2021年1月に狩川で採集し、10匹解剖した。ハルペラ目の感染は見られず、後腸に *Paramoebidium* が見られたのみであった。

また平成31年度に行ったフナムシの腸内に生息する *Asellaria ligiae* の県内での生息状況について内容をまとめ、学術誌上で報告した（陶山ほか、神奈川自然誌資料, (42): 53-56, 2021）。

神奈川県内の標本にもとづくタケ亜科植物の分布特性と開花歴の研究

〔研究担当者〕 支倉千賀子

〔研究内容〕

神奈川県には野生・栽培・逸出のタケ・ササ類が12属46種が分布し（神奈川県植物誌, 2018）、野生・栽培にかかわらずタケ・ササ類は長周期の一斉開花・結実・枯死による群落の更新をすることが知られている。

野生のササ類のうち、スズダケ *Sasamorphaborealis* (Hack.) Nakai について、近年2010年ごろから県内開花が報告され、丹沢では一斉開花後の稈の枯死により大規模に群落が消滅したと推定される地域もある。スズダケは北海道中央部以南の太平洋側の山地のブナ林や天然針広混交林の林床など自然性の高い森林の林床に群落をつくり、一斉開花・結実による種子更新をするとされているが、まだその群落更新の周期性の有無や間隔は明らかにされていない。

そこで本研究では本館に収蔵される腊葉標本からスズダケの開花標本を抽出して、その採集された年代を記録し、県内でのスズダケの開花年を調べた。

結果は1961年-2006年に開花した標本8枚が得られ、その中2枚は重複標本であったため7年分の開花年が得られた。本館に収蔵する県内スズダケ標本からは箱根・山北などで1961-2, 1983, 1994, 1998-9, 2006にスズダケの開花があったことがわかった。

タケ・ササ類の開花には一斉開花と部分開花がある（柴田, 2010）こと、一斉開花は単年度ではなく数年にわたり、種ごとに異なるとされ、マダケでは10年（笠原, 1971）、京都市北山を中心に起こったチュウゴクザサの開花では4年程度でほぼすべての群落が順次開花していった（阿部・柴田 2007）ことが知られている。本研究では2010年ごろに一斉開花したことが一般に知られていることから、1961年ごろから2010年までに2～5回のスズダケの開花があったことが推定されたが、標本数が県内で8枚と少なく、周期性の有無や間隔の推定まで至らなかった。今後、箱根や丹沢といった県内の地域別にデータ数を増やしたいと考えている。

日本列島の花崗岩マグマティズムと造山過程(2) 島弧型造山帯形成モデルの検証：花崗岩・深成 変成帯と高圧型変成帯の接合

[研究担当者] 中島 隆

[研究内容]

花崗岩と低圧型変成岩からなる深成変成帯と高圧型変成帯を同時に島弧海溝系で作る場合、両者の形成場の間には水平距離で 100km に及ぶ隔たりができる。日本列島の場合、深成変成帯である領家帯と高圧型変成帯の三波川帯が中央構造線を境に直接接しているため、その間にあったはずの幅 100km 相当の地質体が見えなくなっている。その理由として、中央構造線にそった 1,000km を超える大規模な横ずれ運動によりその間の地質体が日本列島の部分では欠落しているとする解釈（平など）と、内帯側の地質体が中新世の日本海拡大によって外帯の上に衝上したために間の地質体は隠れてしまっているという解釈（磯崎・丸山など）があり、決着がつかない。横ずれモデルはその実態について任意性が大きく現実性の検証が難しい点があるので、衝上モデルについて問題点と可能性を検討した。

西南日本外帯には外帯酸性岩と呼ばれる中新世の珪長質岩が中部地方から九州地方まで分布しており、日本列島では珍しく S タイプ的な花崗岩が多産すること、中期中新世のごく限られた期間に活動したことなど特徴的な性格を持つことが知られている。磯崎・丸山モデルでは、15Ma 前後の日本海拡大によって形成直後のフィリピン海プレートの上に内帯側の大陸地殻物質が衝上したために、その特異なテクトニクス下で外帯酸性岩類が形成されたとする。今回外帯酸性岩類の形成を中心にこの問題を考察した。

外帯酸性岩類のいくつかには大規模なカルデラ構造が確認されており、大量の噴出岩を伴っている。この噴出岩は四万十帯や三波川帯などいわゆる外帯の基盤岩の上に直接噴出しており、内帯から衝上してきた地質体を間に挟まない。またこれらの噴出岩の構造的上位に内帯ユニットは存在しない。従って、これらのカルデラが形成された時までに日本海拡大に伴う内帯ユニットの衝上は完了し、かつその衝上した地質体は全て剝離されて消失していたことになる。

また最近発表された外帯酸性岩類の U-Pb 年代は日本列島全域において 13.5-15.5Ma の短期間に集中している。これらのことから、内帯スリバー衝上の時期については日本海拡大の時期が従来言われていた 15Ma ではなくもっと古かった可能性が示唆される。

丹沢山地と伊豆半島の中新統の石灰岩より産出 する化石群集から古環境を復元する（継続）

[研究担当者] 門田真人

[研究内容]

今年度は COVID-19 感染拡大事態のため多くの予定されていた活動が中止となった。

次の 5 件について何とか実地出来たので簡単に記しておく。

横浜の私立小学校へのリモート出前授業「丹沢の化石」、丹沢層群の枕状溶岩露頭の調査、伊豆半島世界ユネスコジオパーク展への協力、NHK スペシャル「ジオジャパン再編集版」制作への協力、厚木市立「あつぎ郷土博物館」の地学系行事資料収集の協力、丹沢山地域県立ビジターセンターの展示協力、秦野自然観察館展示協力、神奈川地学会誌 84 号編集作業などである。

この中で丹沢産枕状溶岩露頭の調査については 4 回の現地調査を西丹沢ビジターセンターと協力して行った。その報告は神奈川地学 85 号に投稿予定である。調査地は丹沢湖西方小菅沢の支流田代沢である。同沢の高度約 500 m ~ 700 m 間の溪流で枕状溶岩新産地露頭が見つかった。特に第 3 の滝 (F3) と第 4 の滝 (F4) にかけては枕状溶岩が続く、F4 は落差 12m 有りなかなかの景観である。これまで丹沢山地の多くの谷で探査をしてきたが田代沢 F4 は中新世の約 1700 万年前の海底火山活動を想像するに良い標本である。F4 へのアプローチは山慣れて健脚の方のみ通過できる状況である。現在はルート途上の安全確保のため整備作業を有志で進めているところである。

水生動物に対するアメリカザリガニの影響調査

[研究担当者] 丸野内淳介

[研究内容]

2015年に、新潟県十日町市松之山、松代地区のアメリカザリガニ調査において使用した直径15cm 網の目合8mmのアナゴカゴについて、最低水深15cmに対応できる一方で、中に入ったクロゲンゴロウやシマイシビルなどが網目から逃げてしまう可能性が考えられた。

そこで、アナゴカゴに目の細かい網を張り付けることを検討した。側面部のみに網の目合1mmの防虫網を巻き付け、クリップで止める加工をし、アメリカザリガニが確認されていない水域2地点で6月に3回試行した。1回の試行は、1地点に加工なしの対照と、防虫網つきの加工したアナゴカゴを各1個を煮干しを誘因餌としてしかけた。捕獲1回につき、加工なしの対照がトノサマガエル、アカハライモリ、シナイモツゴ、クロゲンゴロウ、チスイビル、シマイシビルのうちの、2～4種が捕獲されたのに対し、加工したものはツチガエル、アカハライモリ、ゲンゴロウ、クロゲンゴロウのうちの0～2種が捕獲された。同時同地点の捕獲では、いずれも加工なしより、加工ありの方が捕獲種数が少なく、細かい網目の効果が見出せなかった。

このため、ワナの開発よりも調査日程を優先して、同種試行の反復と、さらにアナゴカゴ入口の円錐部に網を張り付ける設計の試行を中止し、加工なしのアナゴカゴを使用した調査を続行した。

瀬戸内海周辺のサヌキトイドの蛍光X線分析値から見た判別群

[研究担当者] 高橋 豊

[研究内容]

瀬戸内火山帯に産する、12～14 Maに噴出したサヌキトイドについて、全岩化学分析から、その多様性を判別分けし、共通の特徴、特異性を見出すことを目的に研究を継続している。

令和2年度は、中央構造線に沿って資料収集を行うこと、採集した資料について全岩化学分析までの前処理を行うことが目標であった。しかし、コロナ禍の影響もあり、調査ができたのは愛媛県松山市の砥部周辺においてのみの資料採集であっ

た。また、今回採集した資料と前年度までに採取してあった資料について、博物館内において、切断、粗割、細粉、ガラスビード作成までの処理を行ったが、こちらも緊急事態宣言の影響で進行が遅れ、蛍光X線分析直前で休止した。これら積み残しは来年度に行う予定である。

ムササビの神奈川県内における分布

[研究担当者] 青木雄司

[研究内容]

神奈川県内のムササビ分布については、2006年に「神奈川県におけるムササビの分布」として青木らによって報告された。それから15年程経過したが、分布に変化はあるのであろうか。それを明らかにすることを本調査の目的としている。

2020年度については、既存資料から特に個体群が孤立していると考えられる2地域を重点地区として定め、そこから調査を開始した。

重点地区

- ・ 相模川中流域の左岸および右岸の段丘崖（相模原市および厚木市・愛川町）
- ・ 大磯丘陵の南西部（小田原市）

日本産ジョウカイボン科昆虫の分類学的研究

[研究担当者] 高橋和弘

[研究内容]

新型コロナウイルス（COVID-19）の影響により、現地調査は以下に示した程度しか実施できなかった。また、県外の博物館における標本調査は実施できなかった。なお、論文については、過去の調査によって得られた資料を中心に作成し、以下のとおり投稿し、受理された。

現地調査（いずれも令和2年）

6月24日 長野県飯田市しらびそ高原

6月29日 長野県駒ヶ根市池山尾根

7月2日 長野県安曇野市鍋冠山

[掲載論文]

Takahashi. K., 2020. A new species of the genus *Asiopodabrus* (Coleoptera, Cantharidae) from western Honshu, Japan. *Elytra* new Series, Tokyo, 10: 295–298.

Takahashi. K., 2020. The genus *Microichthyurus* (Coleoptera: Cantharidae: Chauliognathinae)

in Japan. Japanese Journal of systematic Entomology, 26: 325–329.

Takahashi. K., 2020. Two new species of the lineage of *Asiopodabrus kishii* (Coleoptera: Cantharidae) from central Honshu, Japan. Japanese Journal of systematic Entomology, 26: 330–332.

高橋和弘, 2020. ニセミヤマクビボソジョウカイを新潟県米山で採集. さやばねニューシリーズ, (38): 62.

高橋和弘・吉田篤人, 2020. ワタナベシリブトジョウカイの多数採集例. さやばねニューシリーズ, (39): 7.

4.1.4. 外部資金助成等・共同研究等

外来生物問題を教える博物館—動物園ネットワークの構築に関する研究

[助成金の種類] 日本学術振興会科学研究費 基盤研究 C

[課題番号] 16K01052

[研究期間] 2016 年～2020 年度

[研究組織] 研究代表者:加藤ゆき, 研究分担者: 広谷浩子・大島光春・大坪 奏

本研究は、逸出事例が頻発しているペット由来の外来生物をテーマにそれらの種類や生態、国内での生息状況、生態系への影響等について正確な情報を広く伝えるために、ペット外来生物のデータベースの構築及び学校等での活用を想定した学習プログラムを開発することを目的として以下により研究を行った。

(1) データベースの構築: 国内でのペット外来生物の生息情報や生態画像、在来種に対する影響等の情報を収集し、それらをまとめたデータベースを制作した。

(2) 学習プログラム冊子の作成と貸出用教材整備: 動物園や博物館等の協力により、イベント等で行った学習プログラムを元に、電子版学習プログラム冊子の作成と貸出用教材整備を行った。特に貸出用教材は教育機関からの貸し出要望が多いため、教員等と情報交換を行ないながら、標本種や動物種を選定した。

菌食性昆虫捕食寄生蜂の多様性と寄生蜂—寄主—キノコ相互作用系の解明

[助成金の種類] 日本学術振興会科学研究費 若手研究 B

[課題番号] 17K15185

[研究期間] 2017 年～2020 年度

[研究組織] 渡辺恭平

我が国において多様性の解明が遅れている菌食性昆虫の寄生蜂について、主に分類学的研究を行った。研究は菌食性昆虫を寄主とする、あるいは寄主と想定されるヒメバチ科ハエヒメバチ亜科の寄生蜂を主な対象とし、野外調査と標本調査により資料を収集して実施した。また、ロシア語で書かれている文献から北方領土の記録を拾い出し、我が国のファウナに加えた。研究の主要な成果は下記の通りである。

我が国のハエヒメバチ亜科は、研究開始前は 5 属 5 種が知られるのみであったが、本研究により、19 属 31 種に増加した。これらのうち、*Catastenus japonicus* Watanabe, 2019 と *Gnathochorisis nipponicus* Watanabe, 2020 は本研究課題に関連して記載された。また、*Aniseres subarcticus* Humala, 2007、*Terminator notabilis* Humala, 2007、*Gnathochorisis flavipes* Förster, 1871、*G. fuscipes* Humala & Lee, 2016、*G. koreensis* Humala & Lee, 2016 およびシイタケハエヒメバチ *Orthocentrus brachycerus* Humala & Lee, 2020 の 6 種は本研究課題に関連して日本から新たに記録された。上記の他に北方領土からのみ記録があった種の多くが北海道や本州から確認された。生態の研究成果として、森林総合研究所の研究者との共同研究により、害虫ナガマドキノコバエ類の寄生蜂相を明らかとし、代表的な寄生

蜂であるシイタケハエヒメバチとヨリメハエヒメバチ *Symplecis bicingulata* (Gravenhorst, 1829) については国内の分布や寄生様式、寄生率などを明らかにし、シイタケ圃場における有力な天敵となる可能性も示唆された。

本研究に関連する研究業績のうち、主なものは以下の通りである。

Watanabe, K., 2018. Discovery of the genus *Terminator* Humala, 2007 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Orthocentrinae) from Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 24: 254-256.

Watanabe, K., 2019. New distribution records of the subgenus *Fugatrix* Rossem, 1987 of the genus *Plectiscidea* Viereck, 1914 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Orthocentrinae) from Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 25: 49-52.

Watanabe, K., 2019 Review of the genera *Aniseres* Förster, 1871 and *Catastenus* Förster, 1868 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Orthocentrinae) from Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 25: 81-85.

向井裕美・北島 博・渡辺恭平, 2019. 菌床シイタ

ケ栽培施設におけるナガマドキノコバエ類天敵寄生蜂の分布. 関東森林研究, 70-1: 125-126.

Watanabe, K., 2020. Review of the genus *Gnathochorisis* Förster, 1869 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Orthocentrinae) from Japan, with description a new species. Japanese Journal of Systematic Entomology, 26: 48-52.

Watanabe, K., H. Mukai, H. Kitajima & M. Sueyoshi, 2020. The ichneumonid parasitoids of the fungus gnats genus *Neoempheria* Osten Sacken (Diptera: Mycetophilidae) infesting edible fungi in the sawdust-based cultivation houses. Japanese Journal of Systematic Entomology, 26: 53-61.

向井裕美・北島 博・渡辺恭平・末吉昌宏, 2019年9月6日. 菌床きのこ害虫ナガマドキノコバエ類の天敵寄生蜂の国内分布と寄主範囲. 日本きのこ学会第23回大会, 武庫川女子大学(兵庫県) [優秀ポスター賞受賞]

Watanabe, K., 22-27 July 2018. The diversity of subfamily Orthocentrinae (Hymenoptera, Ichneumonidae) in Japan. 9th congress of International Society of Hymenopterists. Matsuyama, Japan.

5. 施設概要

5.1. 土地・建物

〔土地概要〕

	本館	連絡橋EV棟
所在地	小田原市入生田499番地	
敷地面積	22,460.90㎡	153.60㎡
現況	国道1号線と早川とにはさまれ、交通の便、自然環境ともに恵まれた位置	

〔建物概要〕

	本館	連絡橋EV棟
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造
規模	地下1階地上4階建て	地上2階建て
建築面積	8,218.11㎡	30.97㎡
延床面積	19,020.14㎡	43.86㎡
	(地下駐車場 4,800.14㎡含む)	
最高高さ	23.25m	

〔各階別面積〕

	面積	主要室
地下1階	5,852.14㎡	駐車場・機械室等
1階	7,427.00㎡	エントランスホール・ミュージアムシアター・常設展示室・特別展示室・収蔵庫・講義室等
2階	2,166.00㎡	ミュージアムライブラリー・事務部門等
3階	3,017.00㎡	常設展示室・ジャンボブック展示室・レストラン・実習実験室等
4階	506.00㎡	機械室等
塔屋	52.00㎡	
合計	19,020.14㎡	

〔用途別面積〕（本館）

エントランススペース	984.00㎡
展示スペース	5,075.00㎡
学習スペース	867.00㎡
収蔵スペース	1,433.00㎡
研究スペース	804.00㎡
管理・その他	5,057.00㎡
地下駐車場	4,800.14㎡
合計	19,020.14㎡

〔建物仕上げ〕 外部（本館）

外部仕上げ	
屋根	(勾配屋根)カラーステンレス (陸屋根)アスファルト防水下地押えコンクリート
外壁	御影石ジェットパーナー仕上げ・ 二丁掛け磁器質タイル及びカラーアルミタイル張り
建具	カラーアルミサッシ・ステンレスサッシ・ スチールサッシ

〔建物仕上げ〕 内部（本館・主な箇所のみ）

エントランスホール	
床	御影石ジェットパーナー仕上げパターン張り
壁	大理石本磨き及びカラーアルミパネル張り
天井	カラーアルミ吸音パネル
展示室	
床	カーペットタイル敷
壁	P B下地ガラスクロスE P
天井	メッシュ天井
シアター	
床	カーペットタイル敷
壁	銘木練付けC L及び有孔ケイカル板張り
天井	繊維強化石膏ボード貼り
収蔵庫	
床	コンクリート金ゴテ下地エポキシ樹脂塗り
壁	コンクリート下地吹きつけコート
天井	デッキプレートO P

〔設計・施工〕（本館）

設計	
建築	(株)国設計
設備	(株)国設計
展示	(株)丹青社
造成	中野設計工務(株)
施工監理	
建築	(株)国設計
設備	(株)国設計
展示	(株)日本科学技術振興財団
造成	中野設計工務(株)
施工	
建築	清水・小田急・渡辺・田中特定建設工事共同企業体
電気	東芝プラント・安部・増子特定建設工事共同企業体
空調	トーヨー理研・ナミレイ・新陽特定建設工事共同企業体
衛生	ダイセツ・トウカイ特定建設工事共同企業体
昇降機	(株)日立製作所
展示	(株)丹青社
造成	(株)杉山組・(株)若林組・箱根建設(株)・(株)加藤組 (株)吉沢組・日本鋼管工事(株)・(株)秋山組
外構	土谷建設(株)・(有)菊原建設
植栽	(株)加藤造園・(有)深谷造園・栄立造園土木 緑栄造園土木特定建設工事共同企業体
工事期間	
建築工事	平成4年10月10日～平成6年12月20日
展示工事	平成4年10月10日～平成7年3月1日

〔設計・施工〕（連絡橋EV棟）

設計・施工	中野設計工務(株)
建築	内田建設(株)
電気	(有)昭栄社
昇降機	日本オーチスエレベーター(株)

5.2. 設備

5.2.1. 一般設備

〔電気設備〕

受配電設備	受電電圧 3相3線式 6.6kV 50Hz 変圧器容量 1,905kVA (乾式モールド形) 進相コンデンサー 327kvar 高圧母線 5系統 低圧幹線 102系統
自家発電設備	原動機 ガスタービンエンジン 360PS (48,738rpm) 発電機 ブラシなし交流発電機 300kVA Pf0.8 (1,500rpm) 起動方式 直流電動機起動式
太陽光発電設備	出力電気方式 三相3線式 210V 公称出力 7.5KW システム構成 系統連携型
蓄電池設備	種類 シール形ボケット式アルカリ電池 公称電圧 103.2V (86セル) 容量 350Ah (5時間率) 用途 受配電機器操作用・非常灯用
電話設備	交換機 デジタル交換機 局線 6回線 (12回線実装) 内線 120回線 (144回線実装)
電気時計設備	親時計 水晶発振式 (出力2回線) 子時計 アナログ式29台・デジタル式5台
駐車場管理設備	地下駐車場の満・空車表示一式
その他	身障者警報呼出表示装置・ 避雷針設備インターホン設備・テレビ共聴設備

〔空調設備〕

空調方式	中央式 定風量 (CAV) 単一ダクト方式 中央式 各階ゾーンユニット方式+2管式 FCユニット併用方式 パッケージ式個別空調方式 (特殊用途室)
熱源機器	ガス吸収冷温水機 200RT 3台
空調機等	ユニット型空調機 16台 ファンコイルユニット 50台 ビルマルチエアコン 37台 パッケージエアコン 11組
換気設備	第1種及び第3種 給気ファン 7台 排気ファン 43台
自動制御設備	中央監視装置一式

〔衛生設備〕

受水槽	75 t
雨水槽	300 t
中水槽	28 t
中水処理装置	5t/h1台 (上水用)
加圧給水ポンプユニット	540 ℓ /min 1組 (中水用)
加圧給水ポンプユニット	1,470 ℓ /min 1組
汚水ポンプ	300 ℓ /min 2台
雑排水ポンプ	300 ℓ /min 2台
雨水ポンプ	1,000 ℓ /min 6台
雨水ポンプ	200 ℓ /min 2台
湧水ポンプ	200 ℓ /min 2台

〔ガス設備〕

地下1階に都市ガス (13A) を引き込み、ガス吸収冷温、レストラン、 ともしびショップ等に供給

〔昇降機設備〕

1号機 乗用 (展望用車椅子仕様) B1F, 1F, 2F, 3F 停止 13人乗り 45 m/min (ロープ式)
2号機 乗用 (車椅子仕様) B1F, 1F, 3F 停止 11人乗り 60 m/min (油圧式)
3号機 乗用 (車椅子仕様) 1F, 3F 停止 11人乗り 60 m/min (油圧式)
4号機 荷物用1F, 2F, 3F 停止 3,000 kg 30 m/min (油圧式)
連絡橋 乗用 (車椅子仕様) 1F, 2F 停止 11人乗り 45 m/min (油圧式)
エスカレーター (1200型・車椅子兼用) 1F～3F 30 m/min (電動式)

〔防災設備〕

自動火災報知設備 受信機 P型1級 70回線 防災連動制御盤 40回線 熱感知器・煙感知器 一式
消火設備 屋内消火栓 40箇所 屋内消火ポンプユニット 140 ℓ /min 1台 屋外消火栓 6箇所 屋外消火ポンプユニット 700 ℓ /min 1台 泡消火設備 (地下1階駐車場) 薬剤量 600 ℓ・泡ヘッド 696個 泡消化ポンプユニット 1,120 ℓ /min 1台 移動式粉末消火器 (駐車場他) 9台 連結散水設備 (地下1階部分) ヘッド数 12個 誘導灯設備 (避難口・通路・階段) 169台 ガス漏れ警報器 検知器12個 受信機1台
非常用・業務用放送設備 (非常用電源内蔵) 電力増幅器 360W 2台 電力増幅器 240W 1台 スピーカー 232個
排煙設備 排煙機 (廊下系統) 15,800m ³ /h 1台 排煙機 (一般系統) 38,000m ³ /h 1台
ITV設備 本館監視用 固定カメラ 8台 可動カメラ 8台 モニターテレビ 19型4台×2箇所 連絡橋EV監視用 固定カメラ 3台 モニターテレビ 19型3台×2箇所

〔その他の設備〕

自動扉設備 エントランスホール等の出入口に設置 7台
自動散水設備 (人工地盤植栽部分の灌水用) 東側前庭 8系統・3階テラス11系統
カスケード設備 (人工滝) 間口 24m 高さ3m 水量 2.5m ³ /min 照明付き

5.2.2. 研究設備

〔大型標本製作室〕

品 名	型番（メーカー）	数量
ロケットリマー（岩石粉碎機）	(IWAMOTO)	1台
ジョークラッシャー（岩石粉碎機）	2002-EX（吉田製作所）	1台
大型岩石カッター（自動送り）	SC-14（ニチカ）	2台
中型岩石カッター	MC-442（マルトー）	1台
小型岩石カッター	MC-100（マルトー）	1台
旋盤	FS450A（TOYOAS）	1台
超音波洗浄器	B-62（Brainson）	1台
ふるい震とう器	NVS-200（C.M.T.）	1台
岩石研磨回転台	RP-5（マルトー）	2台
卓上帯のこ台	（PROXXON）	1台
遊星ボッド型ボールミル	LA-P04（伊藤製作所）	1台
解割台		1台

〔標本製作室〕

品 名	型番（メーカー）	数量
卓上走査型電子顕微鏡（エネルギー分散型X線分析装置付き）	TM4000Plas（日立）	1台
マイクロカッター	MC-201（マルトー）	1台
自動メノウ乳鉢	（日本地科学社）	1台
撮影装置付き偏光顕微鏡	Optiphot2-Pol（ニコン）	1式
撮影装置付き双眼実体顕微鏡	SZH-10（オリンパス）	1台
プレパラップ（岩石薄片作成装置）	MG-300（マルトー）	1台
プラノボール（精密研磨台）	Planapol-V（Struers）	1台
ディスクプラン（岩石切断研磨装置）	Discoplan-TS（Struers）	1式
エポバック（岩石試料作成用真空装置）	Epovac（Struers）	1式
真空装置	G-50S（真空機工）	1式
自動染色装置	DRS-601（サクラ精機）	1台
ミクロトーム	HM340（カールツァイス）	1台
バラフィン伸展器	PS-52（サクラ精機）	1台
バラフィン溶融機	（アルプ）	1台
荷重計測器	FGS-50V-L（日本電産シンゴ）	1式
デジタルフォースゲージ	FGX-R20,FGC-10（日本電産シンゴ）	2台
デジタルマイクロスコープ	VHX-900（キーエンス）	1台
デジタルマイクロスコープ	VHX-6000（キーエンス）	1台
透過型/ハルツ式微分干涉顕微鏡	BX50-33-DIC、BX51（オリンパス）	2台
位相差顕微鏡	BX50-33-PHD（オリンパス）	1台
実体顕微鏡	SZX12（オリンパス）	1台
実体顕微鏡	SZ61-1（オリンパス）	5台
デジタル顕微鏡撮影装置	DP-12（オリンパス）	1台
実体顕微鏡および描画装置セット	SMZ-10A（ニコン）	1式
ツルグレン装置	B-1（伊原電子工業）	1台
植物標本乾燥機	（入江製作所）	1台
燻蒸器	（特許理化興業）	1台
ドラフト	（ダルトン）	2台
ビデオマイクロスコープ	VMS-70（SCALAR）	1台

〔化学分析室〕

品 名	型番（メーカー）	数量
精密天秤	RC210P（Sartorius）	1台
化学天秤	LaboratoryLC4200S（Sartorius）	1台
免震台		2台
全自動蒸留水製造装置	GSR-200（Advantec）	1台
ビードサンプラー	NT-2100（東京科学）	1式
ピストンシリンダー型高圧発生装置	A1型（トライエンヂニアリング）	1式
マッフル炉	STR-11K（ISUZU製作所）	1台
乾燥機（DryOven）	ANS-111S（ISUZU製作所）	1台
超音波洗浄器	UT53N（SHARP）	1台
超音波洗浄機	M5800-J（Bronson製）	1台
エアコンプレッサー	PA800S（日立製作所）	1台
電気泳動装置	Bio-Rad他	1式
サブマリン型電気泳動装置	Mupid-exU（アドバンス）	1式
凍結乾燥機	VD-31他（TAITEC他）	1式
限外濾過器	XX80（MILLIPORE）	1台
HPLC装置	PU-980他（日本分光）	1式
吸光度計	MPR・4Ai（TOSOH）	1台
アルミブロック恒温槽	DTU-1B（TAITEC）	1台
冷蔵庫	SMR-120YAG（SANYO）	1台
遠心分離機	CFS-300,CFA-12（IWAKI）	2台
マルチポイントスターラー	F-6A（TAITEC）	2台
ディープフリーザー	BFH-110（ESPEC）	1台
オートクレーブ	LBS-245（トミー精工）	1台
ポータブルクリーンベンチ	APC4型（iuchi）	1台
乾熱滅菌器	DS-450（iuchi）	1台
サーマルサイクラー	TC-96GHbA（日本ジェネティクス）	1台
ドラフト	（ダルトン）	1台

〔冷凍乾燥室〕

品 名	型番（メーカー）	数量
大型冷蔵庫	ERA-Z30B	1台
中型冷蔵庫	RS-5203（日立フリーザー）	1台
インキュベーター	PCI-301（ASONE）	3台
凍結乾燥機	RLEII（KYOWAC）	1台

〔試料分析室〕

品 名	型番（メーカー）	数量
蛍光X線分析装置	PrimusII（リガク）	1式
試料固結装置（BriquettingMachine）	MP-35（島津製作所）	1台
走査型電子顕微鏡	JSM-5410LV（日本電子）	1式
金蒸着装置	JFC-1200（日本電子）	1台
臨界点乾燥装置	JCPD-5（日本電子）	1台
炭素蒸着装置	SC-701C（サンヨー）	1台
一眼レフデジタルカメラ（ボディー）	D70（ニコン）	1台
デジタルプロジェクター	V-1100Z（ブラス）	1台

〔写真室〕

品 名	型番（メーカー）	数量
撮影装置付き偏光顕微鏡	Optiphot2-Pol（ニコン）	1式
軟X線非破壊検査装置	CMB-2（ソフテックス）	1台
中判カメラ	MamiyaRB67（マミヤ）	1式
カラー撮影用照明	HMI-575（brncolor）	2台
マクロ撮影装置	（オリンパス）	1式
一眼レフカメラ	F70,F90（ニコン）	2台
レンズ用デシケーター		2台
紫外線撮影用レンズ	UV-Nikkor（ニコン）	1台
デジタル一眼レフカメラ	D1X（ニコン）	1式
フィルム用冷蔵庫	MR-18-H（三菱電機）	1台
暗室用具		1式

〔化石ラボ〕

品 名	型番（メーカー）	数量
コンプレッサー	（日立製作所）	1台
サンドブラスター	CH-4000（WULSUG）	1台
エアスクライバー（小型削岩機）	CP9361他（ChicagoPneumatic他）	4台
デンティストドリル	（Sverital）	2台
実体顕微鏡（ユニバーサルスタンド付き）	SMZ-2B（ニコン）	2台
集塵機	VF-5（AMANO）	2台

〔実習実験室〕

品 名	型番（メーカー）	数量
実習・研究用生物顕微鏡	CHT（オリンパス）	15台
偏光顕微鏡	LABOPHOTO2-POL（ニコン）	7台
実習用実体顕微鏡	SZ40（オリンパス）	24台
透過型落射光顕微鏡	BX60F（オリンパス）	2台
ツルグレン装置		1台
エアサンプラー	LV-100（横河電機）	1台

〔収蔵庫〕

品 名	型番（メーカー）	数量
電気炉	MAX1200℃（石塚電気製作所）	1台
電気炉	MAX1500℃（石塚電気製作所）	1台
ボルトスライダー（トランス）	S-260-20(200V)(YamabishiElectoric)	1台
ボルトスライダー（トランス）	S-260-50(200V)(YamabishiElectoric)	1台
パワーコントローラー	（石塚電気製作所）	1式
パワーコントローラー	MODEL-S（Uチノー）	1式
ロケットリマー（改）	A型（IWAMOTO）	1台
実体顕微鏡	SZH10（オリンパス）	1台
測微計測装置		1台

〔学芸部〕

品 名	型番（メーカー）	数量
夜間暗視スコープ	M-994（LittonElectricDevices）	1式
テレメトリー受信機	RX900（TELEVILT）	1台
テレメトリー受信機	FI-290MkII（ヤエス）	2台
実体顕微鏡	SZH10（オリンパス）	2台
実体顕微鏡	SMZ-10A（ニコン）	2台
実体顕微鏡	SZ61-1（オリンパス）	1台
実体顕微鏡	フアーブルフォトEX（ニコン）	1台

〔その他〕

品 名	型番（メーカー）	数量
水中撮影写真機材	（ニコン/アンティス）	1式
骨格標本作成槽		1式
大型脊椎動物骨格標本作成用砂場		1式
携帯型GPS	FG-0210（エンベックス）	3台
大型体重計	TRU・TESTSR2000（フジヤ商会）	1式

5.3. 面積表

〔エントランススペース〕

室 名	面積 (㎡)
エントランスホール (救護室) (幼児室) (ミュージアムショップ) (ともしびショップ) (ロッカー室)	782 (15) (13) (26) (35) (17)
レストラン	202
小 計	984

〔展示スペース〕

室 名	面積 (㎡)
ミュージアムシアター	467
1階総合展示室 (化石ラボラトリー)	2,348 (32)
3階総合展示室 (CPUルーム)	1,245 (93)
ジャンボブック展示室 (ジャンボブック編集室)	581 (45)
特別展示室 (準備室1) (準備室2)	434 (74) (44)
小 計	5,075

〔学習スペース〕

室 名	面積 (㎡)
講義室 (講師控室)	306 (16)
実習実験室	139
ミュージアムライブラリー	211
書庫	211
小 計	867

〔研究スペース〕

室 名	面積 (㎡)
学芸員室	246
共同研究室	39
試料分析室	74
化学分析室 (化学天秤室)	44 (5)
クリーンルーム (1)	12
クリーンルーム (2)	8
標本製作室	173
燻蒸室	11
乾燥室	9
昆虫標本製作室	17
冷凍乾燥室	39
大型標本製作室	72
液浸標本製作室	13
液浸標本準備室	13
写真室	18
準備室	16
小 計	804

〔収蔵スペース〕

室 名	面積 (㎡)
収蔵庫1	1,260
収蔵庫2	77
液浸標本収蔵庫	96
小 計	1,433

〔管理スペース〕

室 名	面積 (㎡)
館長室	47
第1会議室	42
第2会議室	42
管理課事務室	91
企画情報部事務室	83
ボランティア・友の会事務局室	34
学習指導員室	49
司書室	39
電話交換室	13
更衣室	13
警備員室 (簡易宿泊室)	29 (14)
湯沸室	11
総合案内員室	24
中央監視室	29
機械室・電気室等	1,824
倉庫	119
トイレ	332
搬入口スペース	70
その他 (廊下・階段等)	2,166
小 計	5,057

〔地下駐車場〕

室 名	面積 (㎡)
地下駐車場 (清掃作業室) (トイレ) (機械室)	4,800.14 (32) (59) (34)
小 計	4,800.14

カッコ内の数字は内数

〔棟別床面積〕

本館延床面積	19,020.14 (㎡)
連絡橋EV棟	43.86 (㎡)
総延床面積	19,064.00 (㎡)

5.4. 平面図

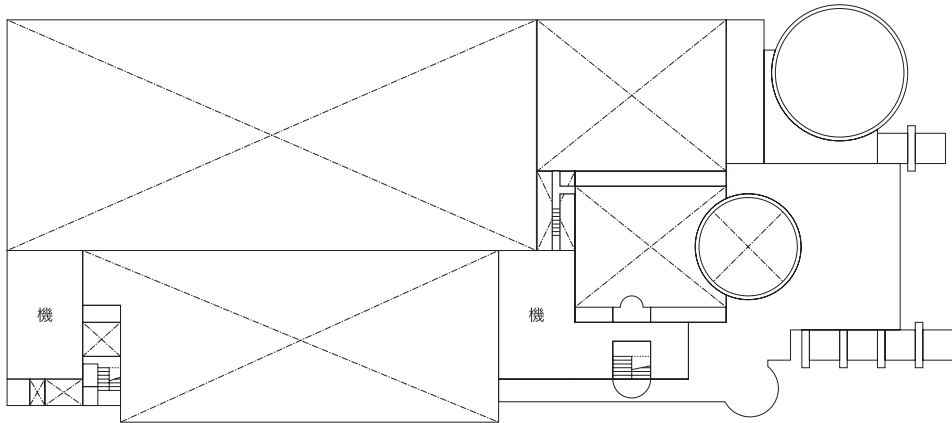


1 : 1,000 (図中の 1cm が 10m)

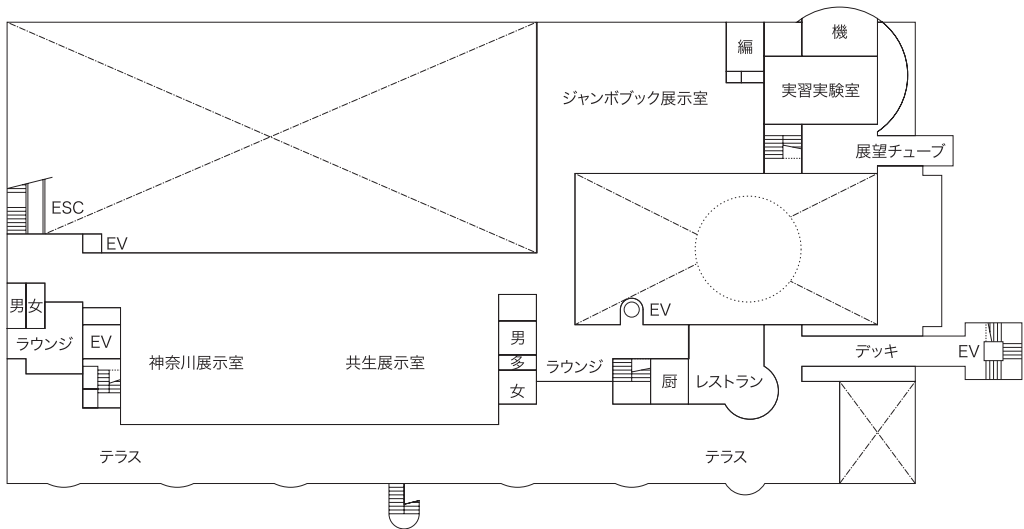
塔屋



4F

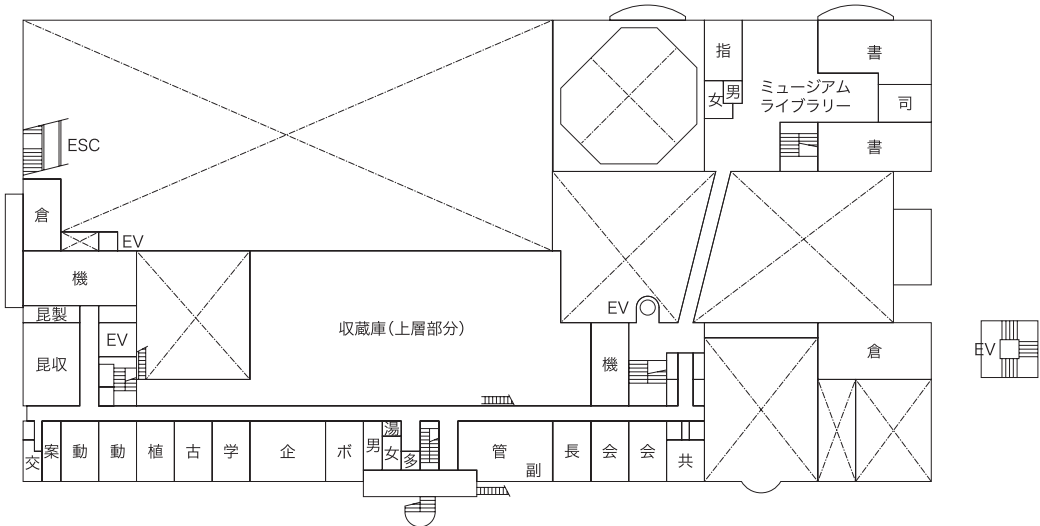


3F



61,000 (mm)

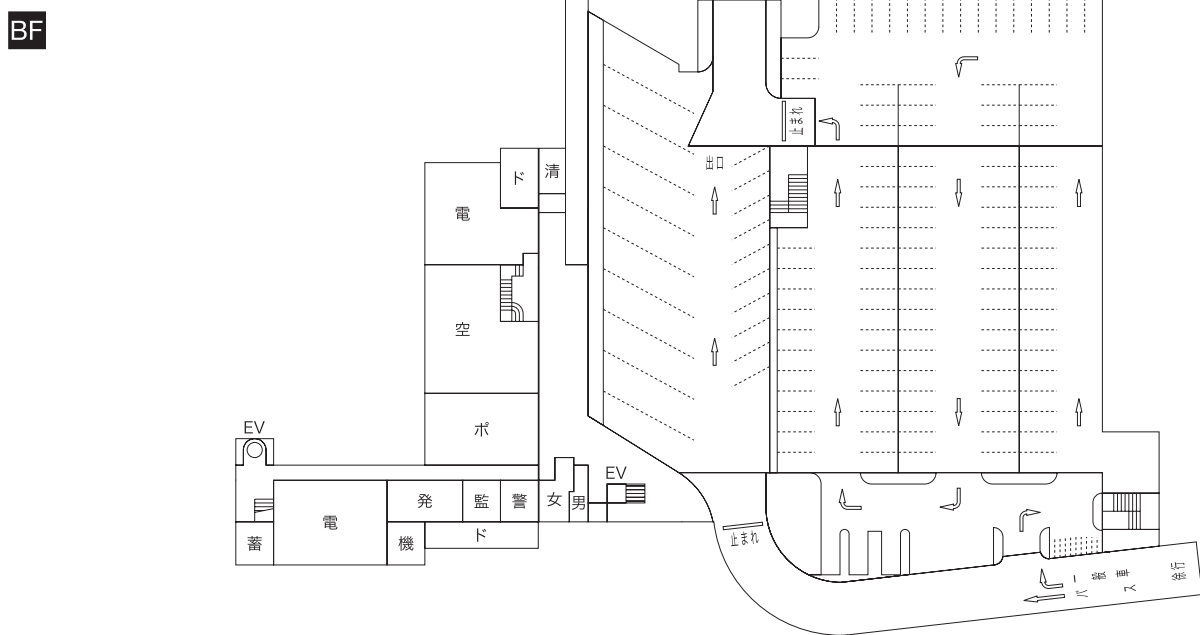
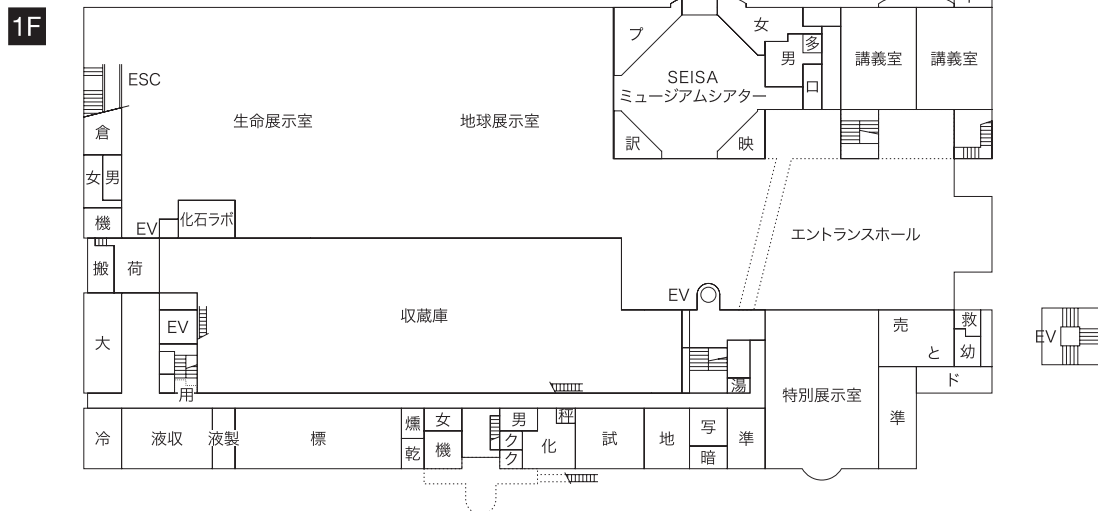
2F



121,000 (mm)



1 : 1,000 (図中の 1cm が 10m)



略字	フロア	室名
機	4 3 2 1 B	機械室
EV	3 2 1 B	エレベーター
男	3 2 1 B	男性トイレ
女	3 2 1 B	女性トイレ
ESC	3 2 1	エスカレーター
多	3 2 1	多目的トイレ
編	3	ジャンボブック編集室
厨	3	厨房
湯	2 1	給湯室
倉	2 1	倉庫
長	2	館長室
副	2	副館長
管	2	管理課
企	2	企画情報部室
学	2	学芸部長室
動	2	学芸部(動物)研究室
植	2	学芸部(植物)研究室
古	2	学芸部(古生物・アーカイブズ)研究室
司	2	司書室
指	2	学習指導員室
交	2	電話交換室

略字	フロア	室名
案	2	総合案内員室
ボ	2	ボランティア室・友の会事務局室
会	2	会議室
共	2	共同研究室
書	2	書庫
昆収	2	昆虫標本収蔵庫
昆製	2	昆虫標本製作室
ド	1 B	ドライエリア
地	1	学芸部(地球環境)研究室
売	1	ミュージアムショップ
と	1	ともしびショップ
救	1	救護室
幼	1	幼児室
ブ	1	プロジェクター室
訳	1	通訳室
映	1	映写室
ロ	1	ロッカー室
搬	1	搬入口
荷	1	荷解室
大	1	大型標本製作室
冷	1	冷凍乾燥室

略字	フロア	室名
液収	1	液浸標本収蔵庫
液製	1	液浸標本製作室
標	1	標本製作室
燻	1	燻蒸室
乾	1	乾燥室
化	1	化学分析室
秤	1	秤量室
ク	1	クリーンルーム
試	1	試料分析室
写	1	写真室
暗	1	暗室
準	1	準備室
警	B	警備員室
監	B	中央監視室
清	B	清掃作業員室
電	B	電気室
発	B	自家発電機室
蓄	B	蓄電池室
空	B	空調機械室
ボ	B	ポンプ室

神奈川県立生命の星・地球博物館 年報 第 26 号 (2020 年度)

発行日	2022 年 2 月 15 日
発行者	神奈川県立生命の星・地球博物館 館長 平田大二 〒 250-0031 神奈川県小田原市入生田 499 電話 (0465) 21-1515 / FAX (0465) 23-8846 https://nh.kanagawa-museum.jp/
印刷所	株式会社あしがら印刷

編集担当 内田 功 (管理課)・吉田沙也 (企画情報部)・樽 創 (学芸部)

Web版では 8 ページの「職員名簿」・45 ～ 52 ページの「寄贈資料」について氏名を一部省略しています